

2023年度

# 年 報



独立行政法人地域医療機能推進機構

三 島 総 合 病 院

## 三島総合病院の理念と基本方針

### 《理念》

私たちは常に患者さまとの心のふれあいを大切にし、良質で思いやりのある医療の提供に全力をつくします

### 《基本方針》

1. 地域における保健・医療・福祉の向上につとめます
2. 患者さまの権利を尊重し、十分な情報提供にもとづく説明と同意を  
実践します
3. 安全で安心できる医療の提供につとめます
4. 患者さまと職員との良好なコミュニケーションを図り、信頼関係の  
構築につとめます
5. 最新の医療設備とエビデンス（科学的根拠）にもとづいた良質で  
効率的な医療を提供します
6. すべての職員は自己の能力の向上のため教育・研修にたゆまぬ努力を  
をはらい、チーム医療の充実につとめます
7. 病診・病々連携を重視し、地域のニーズにこたえる医療を行います



## 安心の地域医療を支えるJCHO

### 理念

我ら全国ネットのJCHOは  
地域の住民、行政、関係機関と連携し  
地域医療の改革を進め  
安心して暮らせる地域づくりに貢献します



## 安心の地域医療を支えるJCHO

### 理念

我ら全国ネットのJCHOは 地域の住民、行政、関係機関と連携し  
地域医療の改革を進め 安心して暮らせる地域づくりに貢献します

### 使命

- (1) 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支える。
- (2) 地域医療の課題の解決・情報発信を通じた全国的な地域医療・介護の向上を図る。
- (3) 地域医療、地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民への情報発信を強化する。
- (4) 独立行政法人として、社会的な説明責任を果たしつつ、透明性が高く、財政的に自立した運営を行う。

# 病 院 の 概 要

## 三島総合病院の施設概要

### 1 病院の概要 2024年3月現在

所在地	: 三島市谷田字藤久保2276番地
開設者	: 独立行政法人 地域医療機能推進機構
経営主体	: 独立行政法人 地域医療機能推進機構
病院長	: 前田 正人
沿革	: 明治34年7月 山崎病院長を含む4名の医師の共同出資により田方郡三島町小中島(現三島市)に私立の三島病院を開設
	: 昭和21年1月 政府管掌健康保険の福祉施設として、厚生労働省(旧厚生省)が取得し、(財)社会保険協会の経営受託により社会保険三島病院として発足
	: 昭和28年 (財)静岡県社会保険協会が経営受託
	: 昭和33年9月 社会保険三島病院の運営を(社)全国社会保険協会連合会が受託
	: 平成13年4月 現在地に病院・健康管理センター・介護老人保健福祉施設の複合施設が新築され移転。三島社会保険病院と改称
	: 平成26年4月 独立行政法人地域医療機能推進機構三島総合病院に改組
	: 平成28年3月 周産期センター開設
	: 平成28年6月 地域包括ケア病棟(50床)運営開始
	: 令和4年3月 周産期センター閉鎖
	: 令和5年2月 訪問看護ステーション りあん開設

- ① 開設年月日 平成13年2月28日(平成13年4月1日開業)
- ② 敷地・建物 敷地面積: 29,999m<sup>2</sup>(駐車場: 3,216m<sup>2</sup>、2階建400台収容)  
建物面積: 16,427m<sup>2</sup>(病院: 地上6階地下1階  
東棟: 地上2階地下1階)
- ③ 病床数 159床(一般病床109床、地域包括ケア病床50床)
- ④ 診療科目(15科)  
内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科  
皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科
- ⑤ 附属施設等
  - ・ 附属介護老人保健施設
  - ・ 附属訪問看護ステーションりあん
  - ・ 健康管理センター(巡回健診車2台)
  - ・ 透析センター(34床)、リハビリテーションセンター
  - ・ 地域医療連携室、医療相談室、診療情報管理室、医薬品情報管理室等を設置
- ⑥ 職員数(令和5年3月現在) 非常勤含む  
医師: 15人  
医療技術部門: 62人(薬剤師: 9人 放射線技師: 11人 検査技師: 18人 管理栄養士: 3人  
理学療法士: 10人 作業療法士: 2人 言語聴覚士: 2人 視能訓練士: 1人  
臨床工学技士: 6人)

看護部門： 156人（保健師2人 助産師2人 看護師133人 准看護師1人 看護助手18人）

事務部門等： 30人（事務員：25人 医療社会専門員：3人 施設技士：2人）

#### ⑦ 主要医療機器

MR I、全身用CTスキャン、血管連続撮影装置、コンピューテッドラジオグラフィー、CCUモニタリング装置、体外衝撃波結石破碎装置、超音波診断装置（心・腹部）、電子内視鏡装置、デジタル乳房X線装置、人工透析システム

#### ⑧ 施設基準（診療報酬点数表関係）

入院基本料など52項目を届け出

## 2 附属介護老人保健施設の概要

① 開設年月日 平成13年2月28日（平成13年5月1日開業）

平成26年4月より三島総合病院附属介護老人保健施設となる

② 施設定員入所 定員：100人 通所定員：40人

③ 敷地・建物 ・敷地面積：病院と共用

・建物面積：4,886㎡

④ 職員数（令和4年3月現在）非常勤含む

70人（管理栄養士：2人 理学療法士：6人 作業療法士：1人 言語聴覚士：1人 看護師：18人

准看護師：2人 介護福祉士：23人 介護員：6人 医療社会専門員：3人 介護支援専門員：5人

事務員：3人）

⑤ 三島市地域包括支援センター（三島市委託事業：錦田地区担当）

従事職員数：4人

業務内容：介護保険の要支援者に対する介護事業者紹介等のサービスを提供

## 3 附属訪問看護ステーションりあんの概要

① 開設年月日 令和5年2月1日

② 敷地・建物 病院東棟1階

③ 職員数 看護師 4名

④ 業務内容 在宅で療養生活を行っている患者様、ご家族様の支援

⑤ 訪問対象エリア 三島市・函南町・長泉町・清水町

## 4 地域の医療環境

①駿東田方圏域（2次医療圏）

・自治体名 三島市、沼津市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、清水町  
長泉町、函南町、小山町など6市4町

・圏域人口 約640,096人（2020年10月）うち三島市 約105,552人

②圏域内の200床以上の医療機関

設置場所	医療機関名称	病床数	摘要	設置者
沼津市	沼津市立病院	387床	3次救急対応病院	沼津市
	聖隷沼津病院	306床	透析センターあり	財団法人芙蓉協会
清水町	静岡医療センター	450床	総合型病院	(独法) 国立病院機構
長泉町	静岡県立静岡がんセンター	615床	がん専門病院	静岡県
伊豆の国市	順天堂大学医学部 附属静岡病院	633床	3次救急対応病院	学校法人

### ③三島市内の医療機関の状況

設置場所	医療機関名称	病床数	摘要	設置者
市内緑町	三島中央病院	196床	一般111床 市内2次救急の約6割 を受入れ	医療法人社団志仁会
市内八反田	三島共立病院	84床	84床 (地域包括ケ ア病床: 54床、障害 者病床: 30床)	医療法人社団健生会
市内河原ヶ谷	三島東海病院	99床	一般55 療養44	医療法人社団福仁会
市内幸原町	芹沢病院	105床	療養病床105床	医療法人社団清風会

## 5 当院の果たしている役割

### (1) 当院の医療機能

#### ① 静岡県災害拠点病院

県は、平成18年11月に「東海地震に対する静岡県医療救護計画」を改定し、当院を賀茂・熱海伊東・駿東田方医療圏の4番目(県内19番目)の災害拠点病院に指定

#### ② 静岡県知事が指定する公的医療機関

平成21年3月に静岡県知事は当院を県内の「公的医療を担う医療機関」に指定

#### ③ 静岡県保健医療計画の7疾病5事業に係る医療連携体制への記載

当院は、以下の4疾病と2事業について病院名を記載されており、現在、がんの「集学的治療施設」に記載されるよう準備中

- 脳 卒 中 : 「救急医療」を担う医療機関
- 糖 尿 病 : 「専門治療・急性増悪時治療」を担う医療機関
- 喘 息 : 「専門治療」を担う医療機関 (静岡県独自)
- 肝 炎 : 「専門治療」を担う医療機関 (静岡県独自)
- 救 急 医 療 : 「入院救急医療」(第2次救急医療)を担う医療機関
- 災害時医療 : 「救命」(災害拠点病院、救護病院)、及び「応援派遣」  
(応援班設置病院)を担う医療機関

#### ④地域包括ケア病棟の運営

平成 28 年 6 月 1 日より 4 階病棟を地域包括ケア病棟として運営を開始した

#### (2) 救急医療の取組み

- ・ 二次救急の対応 三島市の約 40% 及び近隣市町村をカバー
- ・ 広域待機：内科 三島市、沼津市、清水町、長泉町（月間 1 回）

時間外診療の体制	
1. 常勤体制 5～6名	2. オンコール体制
医師 1名	医師 5名（外科,脳外科,泌尿器科）
看護師 1～2名	医療技術者 1名
医療技術者 2名（一部オンコール）	
その他 1～2名	

#### (3) 各種学会等からの施設認定

- ・ 日本腎臓学会 研修施設認定
- ・ 日本透析医学会 専門医認定施設認定
- ・ 日本外科学会 外科専門医制度修練施設
- ・ 日本脳神経外科学会 専門医指定訓練場所
- ・ 日本泌尿器科学会 専門医教育施設関連教育施設認定
- ・ 日本眼科学会 専門医制度研修施設認定
- ・ 日本臨床細胞学会 施設認定
- ・ 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定
- ・ 日本乳がん検診制度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・ 日本人間ドック学会 人間ドック専門医制度研修関連施設

#### (4) 医療関係教育に関する協力

- ・ 静岡県立大学 薬学部
- ・ 常葉大学静岡 理学療法学科
- ・ 城西国際大学 福祉総合学部
- ・ 鈴木学園 歯科衛生士専門学校
- ・ 静岡医療センター附属看護学校
- ・ 静岡県立看護専門学校
- ・ 順天堂大学 保健看護学部
- ・ 三島市救急救命士の教育訓練
- ・ 日本大学短期大学 食物栄養学科
- ・ 富士リハビリテーション専門学校 理学療法学科
- ・ 名古屋医専 視能訓練学科
- ・ 鈴木学園 理学療法学科
- ・ 聖隷クリスティア大学 リハビリテーション学部
- ・ 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部
- ・ 静岡東都医療専門学校 理学療法学科

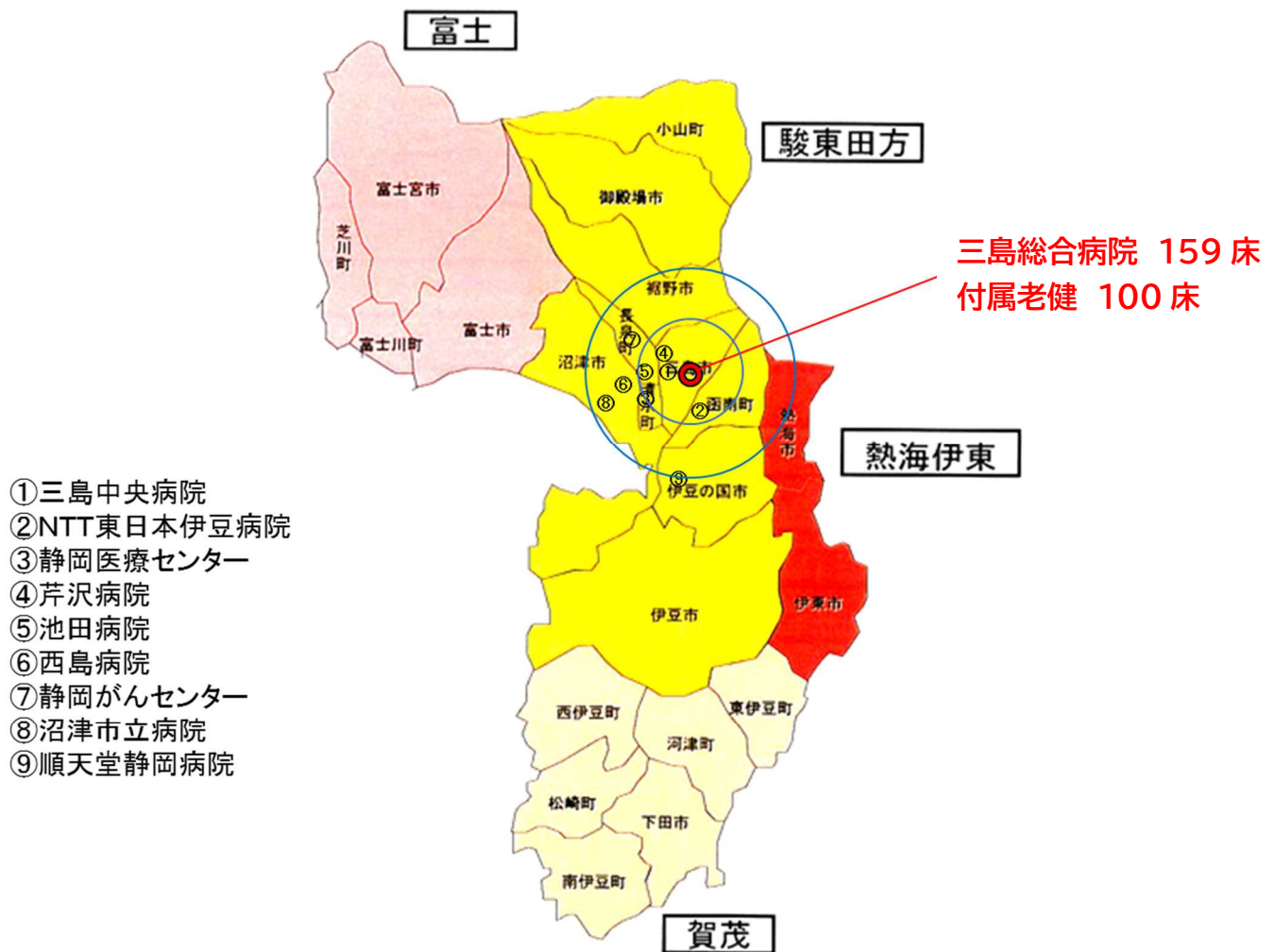
#### (5) その他

- ・ 三島市介護認定審査会への協力
- ・ 医師会メディカルセンターへの当直医派遣



- ・東京医科歯科大学臨床教授・准教授
- ・静岡県立看護専門学校への講師派遣
- ・静岡医療センター看護学校への講師派遣

## 2次保健医療圏(静岡県東部)

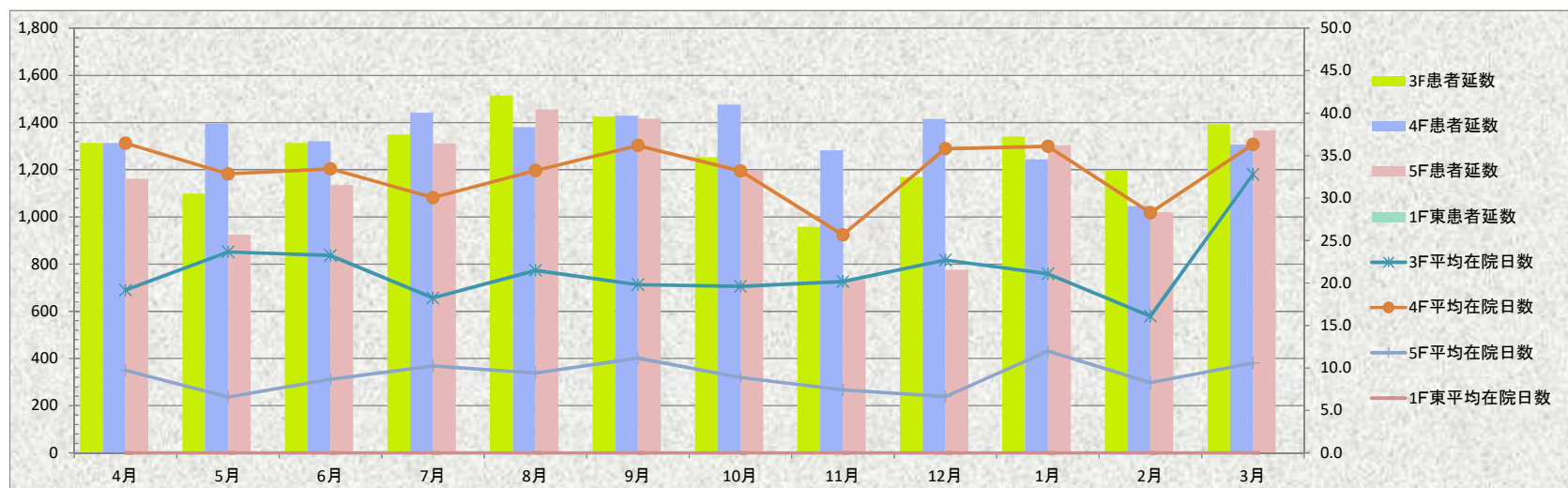


# 医事統計



## 2023年度病棟別患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
3 F 病棟	入院	67	45	55	75	73	66	61	46	54	71	66	44	723
	退院	70	48	58	73	68	78	67	49	49	56	83	41	740
	延数	1,313	1,100	1,313	1,349	1,515	1,425	1,254	958	1,169	1,339	1,198	1,394	15,327
	平均在院日数	19.2	23.7	23.2	18.2	21.5	19.8	19.6	20.2	22.7	21.1	16.1	32.8	21.0
	一日平均患者数	43.8	35.5	43.8	43.5	48.9	47.5	40.5	31.9	37.7	43.2	42.8	45.0	42.0
	病床利用率	81.0%	65.7%	81.0%	80.6%	90.5%	88.0%	74.9%	59.1%	69.8%	80.0%	79.2%	83.3%	77.8%
4 F 病棟	入院	35	41	43	50	42	41	44	49	39	38	37	36	495
	退院	37	44	36	46	41	38	45	51	40	31	37	36	482
	延数	1,313	1,396	1,321	1,442	1,380	1,429	1,477	1,283	1,415	1,245	1,046	1,307	16,054
	平均在院日数	36.5	32.8	33.4	30.0	33.3	36.2	33.2	25.7	35.8	36.1	28.3	36.3	32.9
	一日平均患者数	43.8	45.0	44.0	46.5	44.5	47.6	47.6	42.8	45.6	40.2	37.4	42.2	44.0
	病床利用率	87.5%	90.1%	88.1%	93.0%	89.0%	95.3%	95.3%	85.5%	91.3%	80.3%	74.7%	84.3%	88.0%
5 F 病棟	入院	110	141	140	128	160	122	127	100	114	114	125	124	1,505
	退院	129	140	122	128	150	132	143	97	120	104	122	135	1,522
	延数	1,162	925	1,135	1,312	1,456	1,416	1,198	732	776	1,305	1,020	1,367	13,804
	平均在院日数	9.7	6.6	8.7	10.3	9.4	11.1	8.9	7.4	6.6	12.0	8.3	10.6	9.1
	一日平均患者数	38.7	29.8	37.8	42.3	47.0	47.2	38.6	24.4	25.0	42.1	36.4	44.1	37.8
	病床利用率	73.1%	56.3%	71.4%	79.9%	88.6%	89.1%	72.9%	46.0%	47.2%	79.4%	68.7%	83.2%	71.4%
1 F 東 病棟	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均在院日数	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	一日平均患者数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	病床利用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	入院	212	227	238	253	275	229	232	195	207	223	228	204	2,723
	退院	236	232	216	247	259	248	255	197	209	191	242	212	2,744
	延数	3,788	3,421	3,769	4,103	4,351	4,270	3,929	2,973	3,360	3,889	3,264	4,068	45,185
	平均在院日数	16.9	14.9	16.6	16.4	16.3	17.9	16.1	15.2	16.2	18.8	13.9	19.6	16.5
	一日平均患者数	126.3	110.4	125.6	132.4	140.4	142.3	126.7	99.1	108.4	125.5	116.6	131.2	123.8
	病床利用率	70.1%	61.3%	69.8%	73.5%	78.0%	78.6%	70.0%	54.8%	59.9%	69.3%	64.4%	72.5%	68.4%



令和5年度 救急患者数

【月別救急患者数】

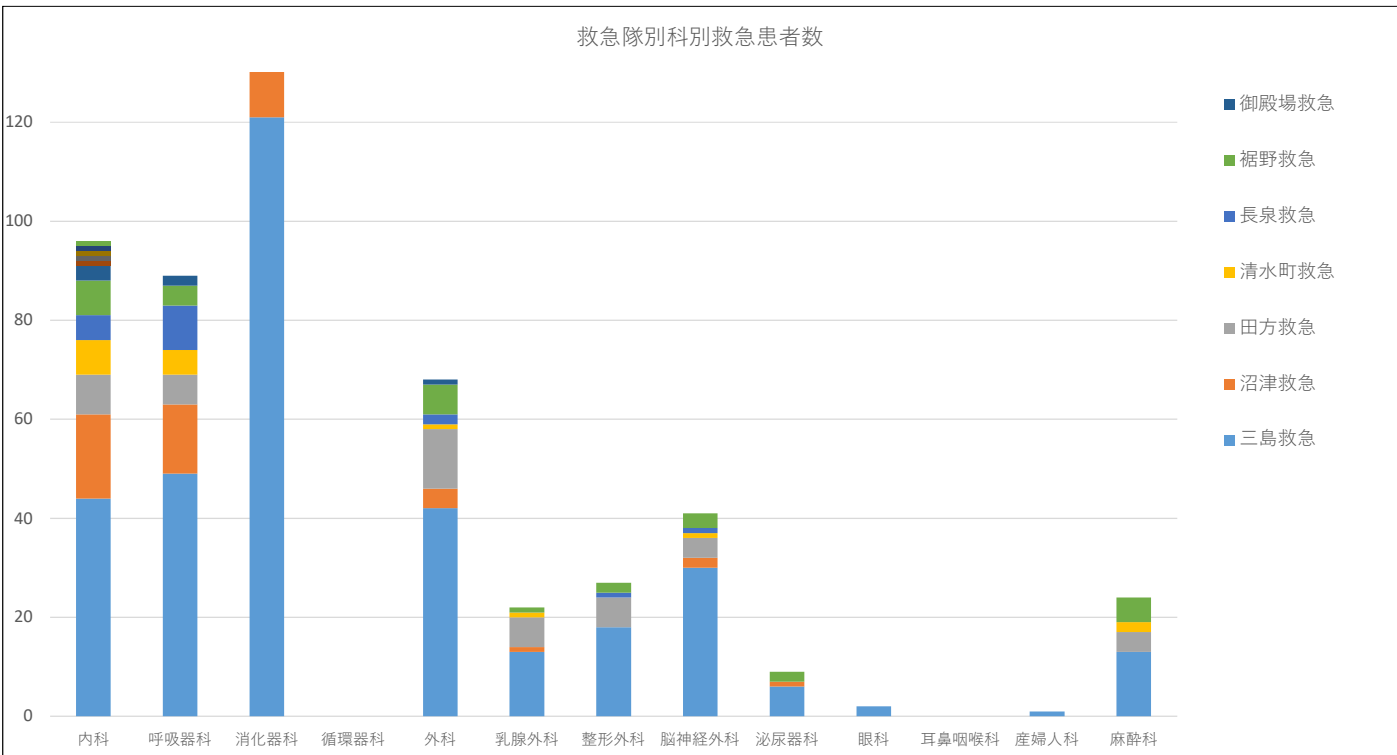
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
救急患者数（全体）	109	151	149	161	188	156	138	128	163	167	137	132	1779
うち救急搬送	44	54	54	58	85	58	43	41	46	59	42	29	613

【科別救急患者数】

		内科	呼吸器科	消化器科	循環器科	外科	乳腺外科	整形外科	脳神経外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	産婦人科	麻酔科	皮膚科	計
救急患者数		377	282	524	0	222	81	69	68	26	48	0	1	81	0	1779
転 帰	帰宅	115	70	195	0	59	29	30	32	11	47	0	1	26	0	615
	入院	262	212	329	0	163	52	39	36	15	1	0	0	55	0	1164
	転院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【救急隊別科別救急患者数】

	三島救急	沼津救急	田方救急	清水町救急	長泉救急	裾野救急	御殿場救急	その他救急隊	計	救急延数	救急車割合
内科	44	17	8	7	5	7	3	19	110	377	29.2%
呼吸器科	49	14	6	5	9	4	2	12	101	282	35.8%
消化器科	121	17	15	4	11	8	1	19	196	524	37.4%
循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
外科	42	4	12	1	2	6	1	4	72	222	32.4%
乳腺外科	13	1	6	1	0	1	0	1	23	81	28.4%
整形外科	18	0	6	0	1	2	0	4	31	69	44.9%
脳神経外科	30	2	4	1	1	3	0	1	42	68	61.8%
泌尿器科	6	1	0	0	0	2	0	1	10	26	38.5%
眼科	2	0	0	0	0	0	0	0	2	48	4.2%
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
産婦人科	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
麻酔科	13	0	4	2	0	5	0	1	25	81	30.9%
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
総計	339	56	61	21	29	38	7	62	613	1779	34.5%





# 院 内 行 事



## 2023 年度 院内行事

### 【令和 5 年 4 月】

3 日 (月)	安全管理室会議
4 日 (火)	看護部副師長会議
5 日 (水)	拡大管理者会議
10 日 (月)	安全管理室会議 事例
12 日 (水)	管理者会議
13 日 (木)	看護部安全対策委員会 セーフティーマ
14 日 (金)	給食 災害対策
17 日 (月)	医療安全管理委員会 事例
18 日 (火)	クリニカルパス委員会 教育委員会
19 日 (水)	拡大管理者会議 健康管理センター会議 CST
20 日 (水)	看護部業務委員会 地域包括ケア病棟 WG
24 日 (月)	安全管理室会議 事例 退院調整看護師会議
26 日 (水)	管理室会議 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議
27 日 (木)	患者サービス向上委員会
28 日 (金)	NST 勉強会

### 【令和 5 年 5 月】

1 日 (月)	安全管理室会議 事例
2 日 (火)	看護部副師長会議
8 日 (月)	安全管理室会議 事例
9 日 (火)	スキルアップ研修 感染対策委員会

### 特定行為

10 日 (水)	管理者会議 ラダーⅡ
11 日 (木)	看護部安全対策委員会 セーフティーマ
12 日 (金)	災害時院内体制検討委員会 給食
15 日 (月)	医療安全管理委員会 事例
16 日 (火)	新人研修 教育委員会
17 日 (水)	拡大管理者会議 CST (12 : 15~)
18 日 (木)	看護部業務委員会 地域包括ケア病棟 WG
19 日 (金)	ランチョンセミナー
22 日 (月)	安全管理室会議 事例 退院調整看護師会議
23 日 (火)	ラダーⅣ
24 日 (水)	管理者会議 (8 : 45~) 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議
25 日 (木)	患者サービス向上委員会
26 日 (金)	NST 勉強会 (12 : 15~) ラダーⅢ
29 日 (月)	事例
30 日 (火)	ラダーⅣ
31 日 (水)	管理者会議 (8 : 45~)

### 【令和 5 年 6 月】

1 日 (木)	スキルアップ研修
2 日 (金)	看護部師長会議
5 日 (月)	安全管理室会議 事例
6 日 (火)	看護部副師長会議
7 日 (水)	拡大管理者会議 ラダーⅠ
8 日 (木)	看護部安全対策委員会 セーフティーマ

9日(金)	災害対策 事故調査委員会 副師長会	2023 労務及び勤務時間に係る研修 (Web)
12日(月)	安全管理室会議 事例	29日(水) 2023 人事給与業務研修 (Web)
13日(火)	スキルアップ研修 感染対策委員会 特定行為	【令和5年7月】
14日(水)	管理者会議 (8:45~) ラダーII	3日(月) 安全管理室会議 事例
15日(木)	看護部業務委員会 地域包括ケア病棟WG 看護研修 補助研修 ランチョンセミナー	4日(火) 看護部副師長会議 医療安全研修会
19日(月)	医療安全管理委員会 事例	5日(火) 拡大管理者会議 医療安全研修会
20日(火)	クリニカルパス委員会 新人研修 JCHO 講演会 ランチョンセミナー	2023 認知症看護研修 (Web) 予定 経理 (ベンチマークシステム説明会)
21日(水)	拡大管理者会議 CST (12:15~) 健康管理センター会議 医療安全	6日(木) スキルアップ研修 医療安全研修会
22日(木)	患者サービス向上委員会 看護研修 補助研修	2023 認知症看護研修 (Web) 予定 リハビリ JCHO 研修 Web
23日(金)	NST 勉強会 ラダーIII 新任副看護部長研修 JCHO 説明会	7日(金) 看護部師長会議 医療安全研修会
26日(月)	退院調整看護師会議 安全管理室会議 事例	2023 認知症看護研修 (Web) 予定 10日(月) 安全管理室会議 事例 医療安全研修会
27日(火)	ラダーIV BLS	11日(火) スキルアップ研修 感染対策委員会 腎臓教室 特定行為 院長会議 (TV) RST
28日(水)	管理室会議 (8:45~) 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議	12日(水) 管理者会議 (8:45~) ラダーII 医療安全研修会 輸血療法委員会 医事課 全体打合せ JCHO 研修 Web
		13日(木) 看護部安全対策委員会 セーフティM 医療安全研修会 副師長会議
		14日(金) 看護副師長会 災害対策

	医療安全研修会		医療安全研修会
	給食	31日(月)	事例
17日(月)	医療安全管理委員会	2023	新任副看護師長研修(Web) 予定
	事例		医療安全研修会
18日(火)	医療安全研修会		
	新人研修	【令和5年8月】	
	教育委員会	1日(火)	JCHO ベンチマーク説明会
19日(水)	拡大管理者会議		看護部副師長会議
	CST(12:15~)	2023	新任副看護師長研修(Web) 予定
	医療安全研修会		研修会
	健康管理センター会議	2日(水)	拡大管理者会議
	副師長会議		包括ケア推進研修会
	入札		ラダーI
20日(木)	看護部業務委員会		セーフティーマネージメント
	地域包括ケア病棟WG		NST
	医療安全研修会	3日(木)	包括ケア推進研修会
	JCHO研修会(Web)		スキルアップ研修
21日(金)	ランチョンセミナー	4日(金)	看護部師長会議
	医療安全研修会		感染対策委員会
	副師長会議	5日(土)	健管佐藤 三島市オンラインセミナー
24日(月)	安全管理室会議	7日(月)	入札(経理)
	事例		安全管理室会議
	退院調整看護師会議		事例
	副師長会議		感染対策研修会
25日(火)	ラダーIV	8日(火)	スキルアップ研修
	医療安全研修会		感染対策委員会
	看護部記録委員会		特定行為
	JCHOリハ職員会議	9日(水)	管理者会議(8:45~)
26日(水)	管理者会議(8:45~)		看護部副師長会議
	看護部感染対策		ラダーII
	医療安全研修会	10日(木)	入札(経理)
	部署連絡診療会議		看護部安全対策委員会
27日(木)	病院長向けDX勉強会		セーフティーマ
	医療安全研修会		認知症Web
	患者サービス向上委員会	⑥JCHO経営パワートレーニング(基礎編)	
	リハビリ JCHO研修Web	14日(月)	安全管理室会議
	入札(経理)		事例
28日(金)	NST勉強会(12:15~)		感染対策研修会
	Web講演(院長定例会議)	15日(火)	クリニカルパス委員会
	ラダーIII		新人研修

16日(水)	教育委員会 拡大管理者会議 C S T (12:15~) 健康管理センター会議 感染対策研修会	29日(火)	管理課 看護部
17日(木)	入札(経理) 看護部業務委員会 看護研修 地域包括ケア病棟WG	30日(水)	管理者会議(8:45~) 令和5年度情報セキュリティ監査(JCHO) 情報セキュリティ
18日(金)	ランチョンセミナー 感染対策研修会 総務	31日(木)	入札(経理) 令和5年度情報セキュリティ監査(JCHO) 総務
21日(月)	入札(経理) 医療安全管理委員会 事例 感染対策研修会	【令和5年9月】 1日(金)	令和5年度情報セキュリティ監査(JCHO) 看護部師長会議
22日(火)	看護部記録委員会 ラダーIV OP研修 4F勝又 オンライン研修	4日(月)	安全管理室会議 事例 OP小出 Zoom会議
23日(水)	管理者会議(8:45~) 看護部感染対策委員会 総務(DX) 部署連絡診療会議 医療安全研修 入札(経理)	5日(火)	看護部副師長会議 入札(経理)
24日(木)	患者サービス向上委員会 感染対策研修会 ⑦JCHO経営パワートレーニング(基礎編) 医事課 栄養	6日(水)	拡大管理者会議 入札(経理) 感染
25日(金)	N S T勉強会(12:15~) 勤務時間システム説明会 ラダーIII Zoom会議 経理	7日(木)	スキルアップ研修 リハビリ尾熊
28日(月)	入札(経理) 安全管理室会議 事例 退院調整看護師会議	8日(金)	給食 災害対策
		11日(月)	安全管理室会議 事例
		12日(火)	スキルアップ研修 感染対策委員会 特定行為 5F病棟会
		13日(水)	管理者会議(8:45~) ラダーI 輸血療法委員会
		14日(木)	看護部安全対策委員会 セーフティーM 総務
		15日(金)	入札(経理) ランチョンセミナー 医療安全研修

19日(火)	総務 新人研修 感染セミナー 教育委員会	3日(火)	安全管理室会議 事例 看護部副師長会議 副看護師長登用試験
20日(水)	拡大管理者会議 CST(12:15~) 健康管理センター会議	4日(水)	拡大管理者会議 医療の質・安全管理委員会 JCHO広報勉強会
21日(木)	①JCHO経営パワートレーニング(実施編) 看護部業務委員会 地域包括ケア病棟WG 総務 ランチョンセミナー	5日(木)	スキルアップ研修 認知症研修
22日(金)	NST勉強会(12:15~) ラダーⅢ 令和5年度病院立入検査(標準) 医療安全地域連携会議 院長ヒアリング 入札(経理)	6日(金)	看護部師長会議 ②JCHO経営パワートレーニング(実施編) 感染 10日(火) QQ症例検討会 感染対策委員会 特定行為 災害対策 5F会議
25日(月)	令和5年度病院立入検査 退院調整看護師会議 安全管理室管理 事例 入札(経理)	11日(水)	管理者会議(8:45~) ラダーⅡ 看護安全研修 JCHO研修(尾熊) 経理 順天学生
26日(火)	ラダーⅣ 看護部記録委員会 看護認知症研修Web 経理(浅野)	12日(木)	看護部安全対策委員会 セーフティーマ JCHO研修(尾熊) 総務 順天学生
27日(水)	管理者会議(8:45~) 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議 医療安全 組合	13日(金)	給食 災害対策 新人研修
28日(木) 2023	在宅療養支援研修(Web) 予定 患者サービス向上委員会 入札(経理)	16日(月)	医療安全管理委員会 事例 OP小出
29日(金) 2023	在宅療養支援研修(Web) 予定	17日(火)	クリニカルパス委員会 新人研修 教育委員会 JCHO研修(栄養) 管理課

【令和5年10月】

	経理		
18日(水)	拡大管理者会議 CST(12:15~) 健康管理センター会議 看護安全研修 経理 医療安全	【令和5年11月】	
		1日(水)	拡大管理者会議 中学生職場体験学習(中郷) 順天学生 東部学生 総務
19日(木)	看護部業務委員会 看護研修 入札(経理)	2日(木)	病院機能評価受審支援セミナー スキルアップ研修 中学生職場体験学習(中郷) 順天学生 東部学生 地域協議会
	③JCHO経営パワートレーニング(実施編)		
	地域包括ケア病棟WG		
20日(金)	ランチョンセミナー デク委員会	6日(月)	安全管理室会議 事例 (仮)勤務環境改善研修会 東部学生 医療センター学生 4F 団交
23日(月)	退院調整看護師会議 安全管理室会議 事例 入札(経理)		
24日(火)	看護部記録委員会 ラダーIV リハ尾熊 Web研修	7日(火)	健康管理部門事務担当者会議 教育委員会 新人研修 東部学生 医療センター学生 4F 看護連盟Web
25日(水)	管理者会議(8:45~) 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議 健康管理センター会議 総務	8日(水)	管理者会議(8:45~) ラダーI 輸血療法委員会 東部学生 医療センター学生 4F
26日(木)	補助員研修、小川師長 中学生職場体験学習(北中) 契約実施者研修 災害	9日(木)	医局説明会 医療安全担当者研修(Web) 看護部安全対策委員会 セーフティM 東部学生 感染対策 医療センター学生 4F リハビリ
27日(金)	NST勉強会(12:15~) ハラスメント研修 ラダーIII 中学生職場体験学習(北中)		
30日(月)	安全対策委員会 東部看護学生		
31日(火)	管理課 順天学生 東部看護学生	10日(金)	老健管理者会議 給食

	災害対策 東部学生 栄養科 医療センター学生 4F 副師長会議		医療安全管理委員会 事例 看護 Web テスト 医療センター学生 4F
13日(月)	入札(経理) 2023 中堅看護師研修(Web) 予定 安全管理室会議 事例	21日(火)	期中監査 コンプライアンス研修④ 新人研修 医療安全研修 教育委員会
14日(火)	2023 中堅看護師研修(Web) 予定 医療安全研修(Web) 教育委員会 スキルアップ研修 感染対策委員会 特定行為	22日(水)	医療センター学生 4F 管理者会議(8:45~) 摂食嚥下勉強会 医療安全研修 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議 医療センター学生 4F 地域連携会議
15日(水)	2023 医療スタッフ中間管理職研修(Web) 拡大管理者会議 CST(12:15~) 第2回感染研修 健康管理センター会議 東部学生 助産師	24日(金)	NST 勉強会(12:15~) 医療安全研修 ラダーⅢ 医療センター学生 4F 地域連携室
16日(木)	コンプライアンス研修① 看護部業務委員会 補助委員研修 医療安全研修 地域包括ケア病棟WG 教育委員会 東部学生 医療センター学生 4F	27日(月)	看護部教育 安全管理室会議 事例 退院調整看護師会議 医療センター学生 4F 経理
17日(金)	コンプライアンス研修② ランチョンセミナー 医療安全研修 教育委員会 情報システム担当者連絡会 東部学生 医療センター学生 4F 経理	28日(火)	看護部記録委員会 医療安全研修 ラダーⅢ 順天学生 看護研修
20日(月)	期中監査 コンプライアンス研修③	29日(水)	管理者会議(8:45~) 医療安全研修 順天学生 看護研修 経理 地域連携会議 アストラゼネカ説明会

	健康管理センター会議 総務		医療安全研修 スキルアップ研修
30日(木)	医療安全研修 順天学生 病院長フォーラム 看護研修 総務		感染対策委員会 特定行為 5階病棟 静岡県立看護専門学校 管理者会議(8:45~)
		13日(水)	医療安全研修 ラダーⅡ 情報セキュリティ研修 静岡県立看護専門学校 大塚製薬
【令和5年12月】			
1日(金)	看護研修 総務		看護部安全対策委員会 静岡県立看護専門学校
4日(月)	事務部長等会議 看護部長等会議 医療安全 事例 看護研修	14日(木)	ランチョンセミナー 医療安全研修 静岡県立看護専門学校
5日(火)	医療安全研修 看護研修 看護業務監査	15日(金)	褥瘡委員会 経理(入札)
6日(水)	拡大管理者会議 医療安全研修 ラダーⅠ 看護研修 総務 病院協会(総務) 前田Dr	18日(月)	医療安全管理委員会 事例 入札 補助員委員会
7日(木)	医療安全研修 スキルアップ研修 看護研修 Dr 関 勉強会	19日(火)	入札 看護新人研修 教育委員会
8日(金)	医療安全研修 給食 災害対策 地域連携 副師長会議 業者打合せ(トーテック)大木	20日(水)	拡大管理者会議 CST(12:15~) 健康管理センター会議 看護部業務委員会 看護研修 地域包括ケア病棟WG 補助員委員会 リハビリ 看護部
11日(月)	安全管理室会議 事例 経理(入札)	21日(木)	NST勉強会(12:15~) ラダーⅢ セーフティー 師長会
12日(火)	感染管理担当者会議(Web)	22日(金)	
		25日(月)	医療安全地域連携ラウンド



	看護師会		災害対策
	退院調整看護師会議		看護セミナーテスト
	検診システム説明会		総務
	経営改善プロジェクト	15日(月)	入札(経理)
26日(火)	看護部記録委員会		医療安全管理委員会
	ラダーⅣ		事例
	尾熊パワトレ		検査BML打合せ
27日(水)	管理者会議(12:15~)		DMAT
	看護部感染対策委員会		パワハラ
	部署連絡診療会議	16日(火)	新人研修
	面接		教育委員会
	総務		看護セミナー
	薬事審議会		経理
28日(木)	患者サービス向上委員会		4F 東部看護学生
		17日(水)	拡大管理者会議
			CST(12:15~)
			健康管理センター会議
			保健師助産師看護師実習指導者講習会
			医局説明会(ノバルティスファーマ)
			4F 東部看護学生
【令和6年1月】			院長(TV)
4日(木)	スキルアップ研修		システム担当者勉強会
	初め式		
	総務		
5日(金)	看護部師長会議		
9日(火)	スキルアップ研修		
	感染対策委員会		
	特定行為	18日(木)	看護部業務委員会
	総務		地域包括ケア病棟WG
	5F病棟会		看護補助研修
	業務監査		保健師助産師看護師実習指導者講習会
	リハ尾熊 パワトレスカイプ		経理
10日(水)	管理者会議(8:30~)		4F 東部看護学生
	輸血新人研修会	19日(金)	ランチョンセミナー
	ラダーⅡ		医事・りあん監査
	4F 東部看護学生		医事(監査準備)
	前田院長		保健師助産師看護師実習指導者講習会
11日(木)	看護部安全対策委員会		4F 東部看護学生
	セーフティM		褥瘡委員会
	リハビリ	22日(月)	安全管理室会議
	面接		事例
	4F 東部看護学生		退院調整看護師会議
	看護師長会議		入札(経理)
12日(金)	看護部副師長会議		4F 東部看護学生
	給食	23日(火)	看護部記録委員会

	ラダーⅣ		人事調整会議
	順天学生		選挙管理委員会
	入札（経理）	7日（水）	拡大管理者会議
	4F 東部看護学生		入札（経理）
24日（水）	管理者会議（8：30～）		ラダーⅠ
	看護部感染対策委員会		JCHO MRM委員会
	順天学生	8日（木）	看護部安全対策委員会
	4F 東部看護学生		セーフティM
25日（木）	患者サービス向上委員会		ハラスメント会議
	順天学生		感染対策セミナーZoom
	特定行為報告書		⑧JCHO 経営パワートレーニング（実施編）
	4F 病棟	9日（金）	給食
	リハビリ		災害対策
26日（金）	NST 勉強会（12：15～）		入札（経理）
	ラダーⅢ		副師長会議
	感染対策	13日（火）	入札（経理）
	経理		スキルアップ研修
	リハビリ		感染対策委員会
27日（土）	NST 勉強会		特定行為
	DMAT 会議		新人研修
29日（月）	事例		看護部
	医局説明会		経理（職員用シューズ配布作業）
	プロジェクト	14日（水）	管理者会議（8：30～）
30日（火）	選挙管理委員会		地域包括研修会
31日（水）	管理者会議（8：30～）		ラダーⅡ
	リーダー育成共同研修（JCHO）		ランチョンセミナー
	センター会議		入札（経理）
	経理		選挙
	面接	15日（木）	看護部業務委員会
			看護研修
			地域包括ケア病棟WG
<b>【令和6年2月】</b>			補助員会
1日（木）	入札		医局説明会（アストラゼネカ）
	スキルアップ研修		入札（経理）
	リハセミナー総会		入札（経理）
	弁護士打合せ	16日（金）	看護部副師長会議
2日（金）	看護部師長会議		褥瘡委員会
5日（月）	安全管理室会議		選挙
	事例		JCHO 放射線セミナー
	入札（経理）		リハ尾熊
6日（火）	ラダーⅠ、Ⅱ 看護部		

19日(月)	医療安全管理委員会 事例 入札(経理) 選挙 リハ尾熊 面接	29日(木)	パワハラ ラダーⅢ 医局説明会(ファイザー) 師長会議 団体交渉会議 清掃打合せ
20日(火)	クリニカルパス委員会 新人研修 教育委員会 選挙 面接		
21日(水)	拡大管理者会議 CST(12:15~) 健康管理センター会議 摂食嚥下チームカンファレンス 地域包括研修会 医療安全Web研修 検査、江川 リハ尾熊		
22日(木)	医局説明会(大塚製薬) 補助員会議 機能評価プロジェクト 面談 医事課		
26日(月)	安全管理室会議 事例 退院調整看護師会議 入札(経理) プロジェクト		
27日(火)	看護部記録委員会 ラダーⅣ 入札(経理) 検査打合せ 看護学生 総務		
28日(水)	管理室会議(8:30~) 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議 薬事審議会 薬剤部Web		
			【令和4年3月】
		1日(火)	看護部副師長会議 感染対策委員会 特定行為委員会
		2日(水)	拡大管理者会議 ラダーⅠ NST委員会
		3日(木)	スキルアップ研修
		4日(金)	看護部師長会議
		8日(火)	スキルアップ研修 セーフティマネージャー委員会 教育委員会
		9日(水)	管理者会議 ラダーⅡ
		10日(木)	看護部安全対策委員会
		11日(金)	給食 災害対策
		15日(火)	新人研修
		16日(水)	拡大管理者会議 CST委員会 健康管理センター会議
		17日(木)	看護部業務委員会
		22日(火)	医療安全管理委員会
		23日(水)	管理者会議 看護部感染対策委員会 部署連絡診療会議
		24日(木)	患者サービス向上委員会
		25日(金)	NST勉強会 ラダーⅢ
		28日(月)	退院調整看護師会議
		30日(水)	管理者会議

## 病院行事

### 消防訓練実施（2023年1月20日）



### 消防訓練実施（2023年7月21日）



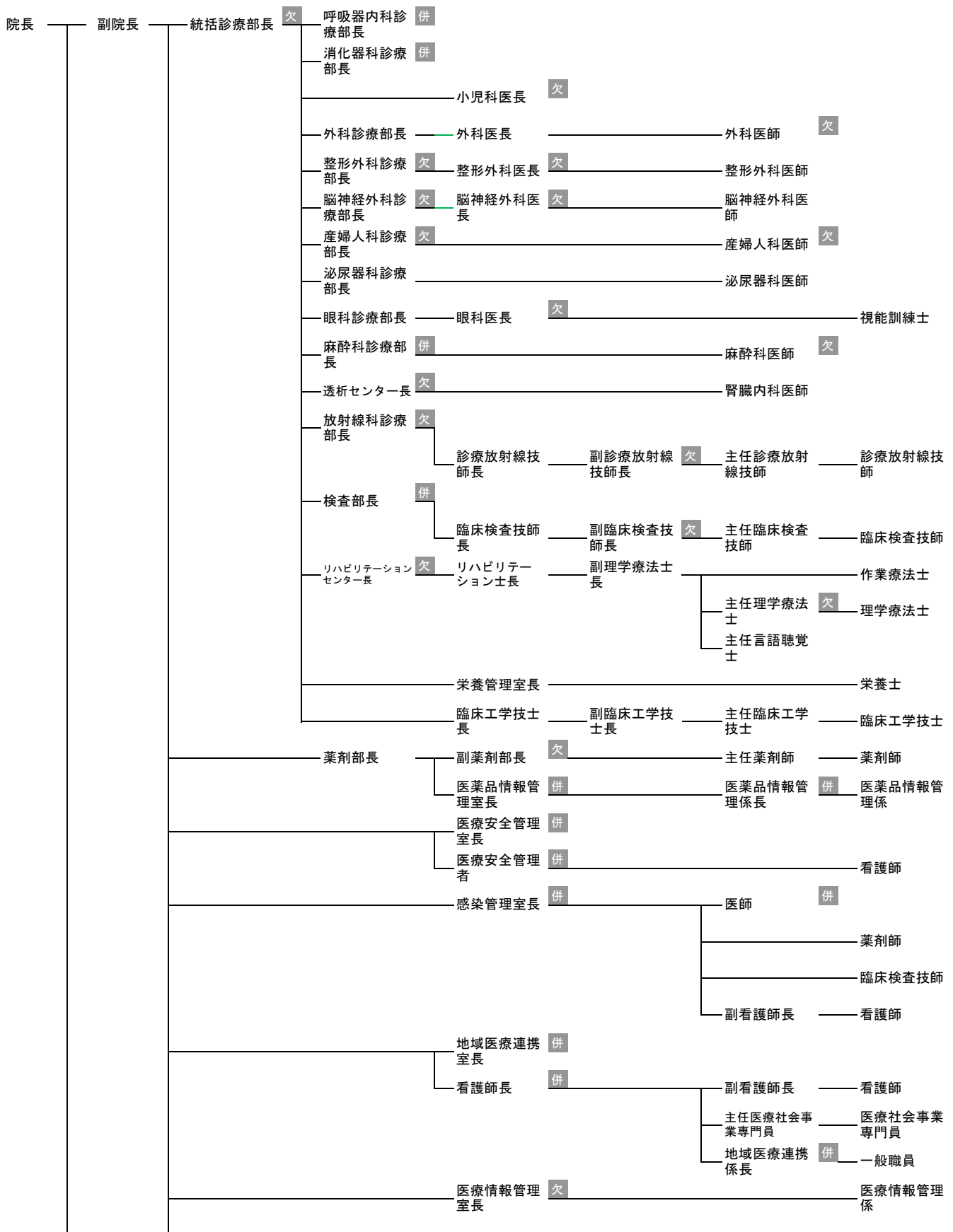
新年あいさつ（2024年1月4日）

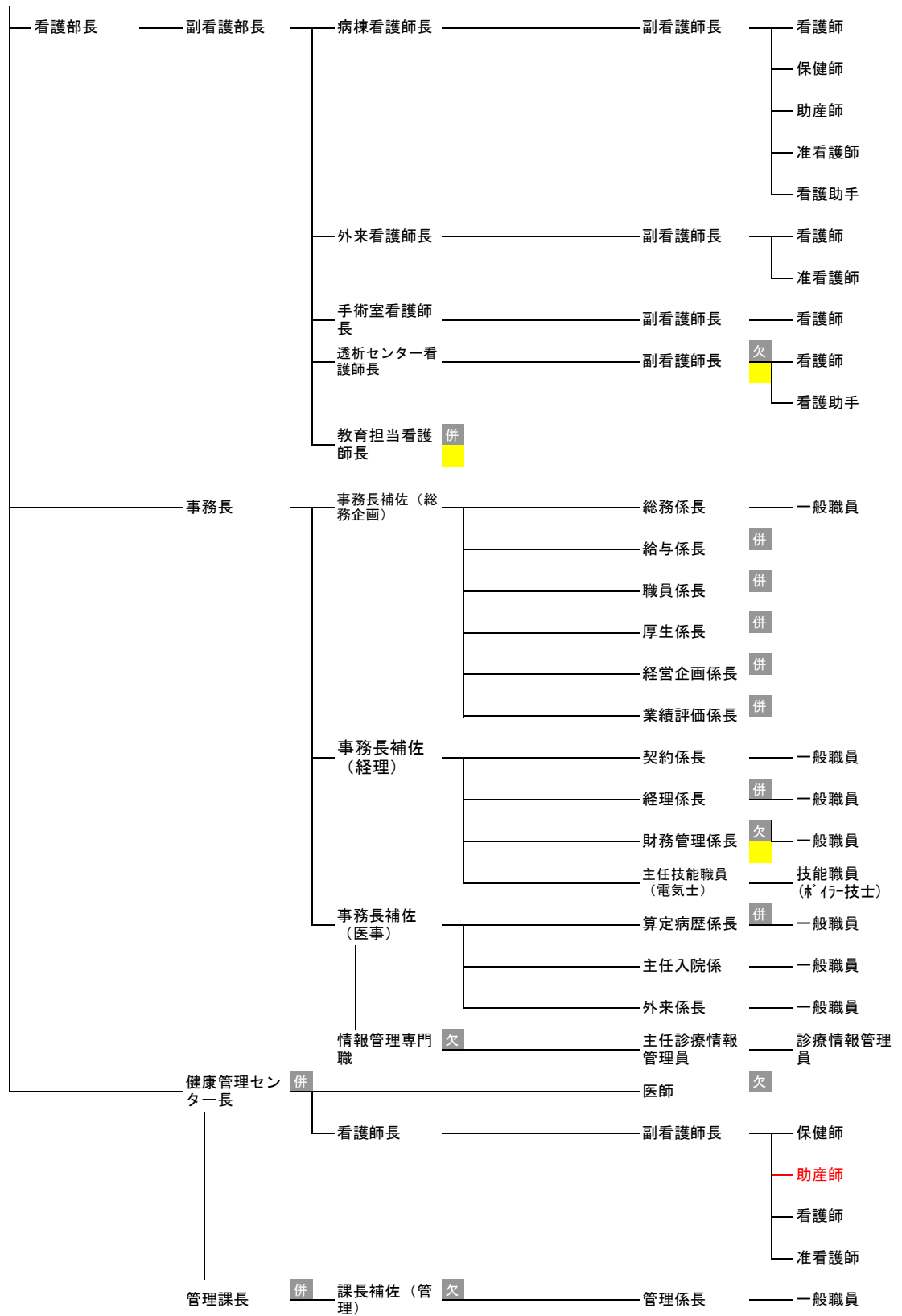


# 部 署 報 告

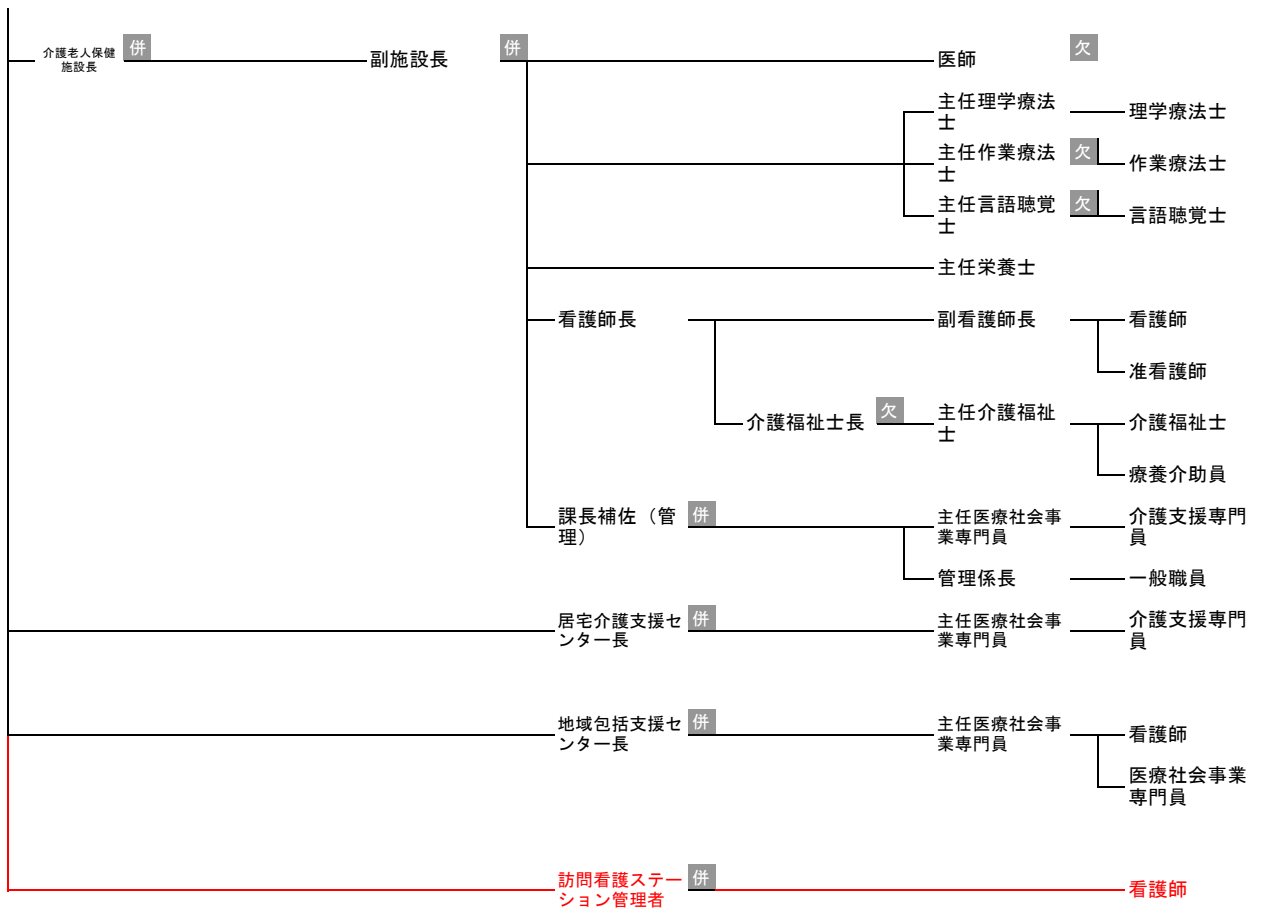
# 独立行政法人地域医療機能推進機構 三島総合病院 組織体制図

令和5年4月1日現在









診 療 部 門

# 内 科

【スタッフ】

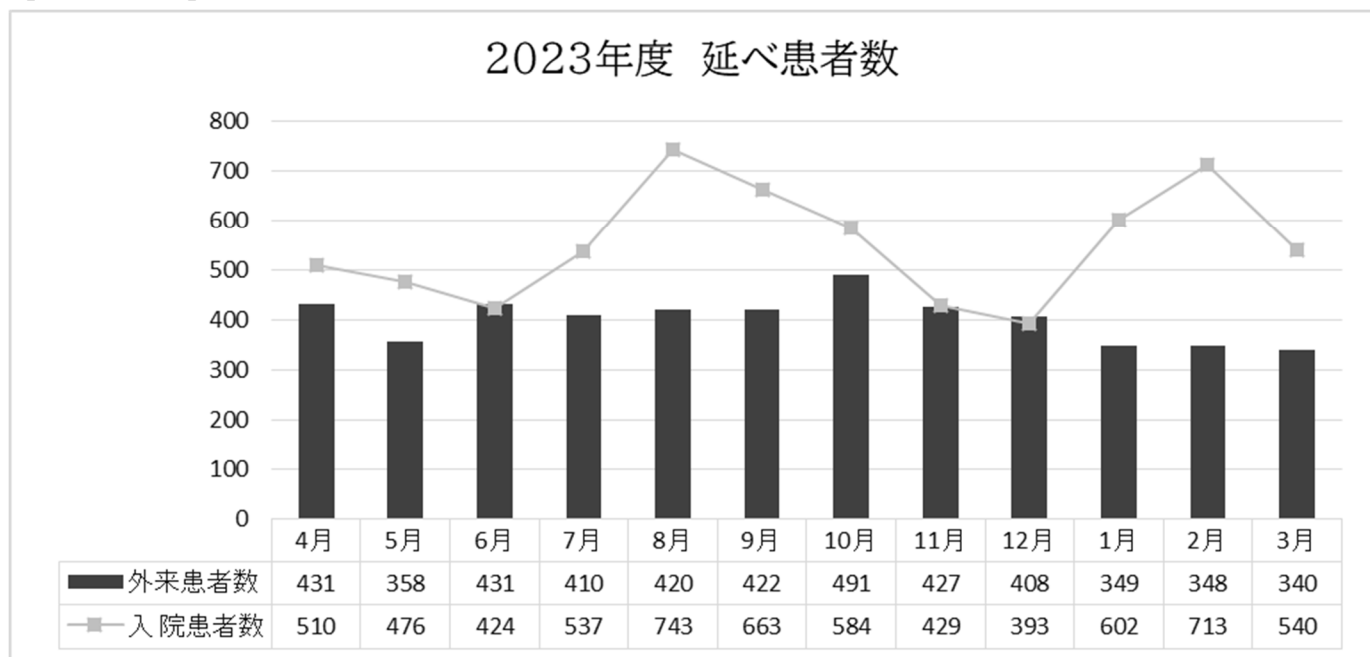
〔腎臓内科〕

腎臓内科医師 木村 貴英  
 腎臓内科医師 山田 敏生（任期付常勤）  
 腎臓内科医師 渡邊 佳織（任期付常勤）  
 非常勤医師 白井 博之

〔糖尿病代謝〕

非常勤医師 杉山 輝明  
 非常勤医師 加藤 繁夫

【業務の内容】



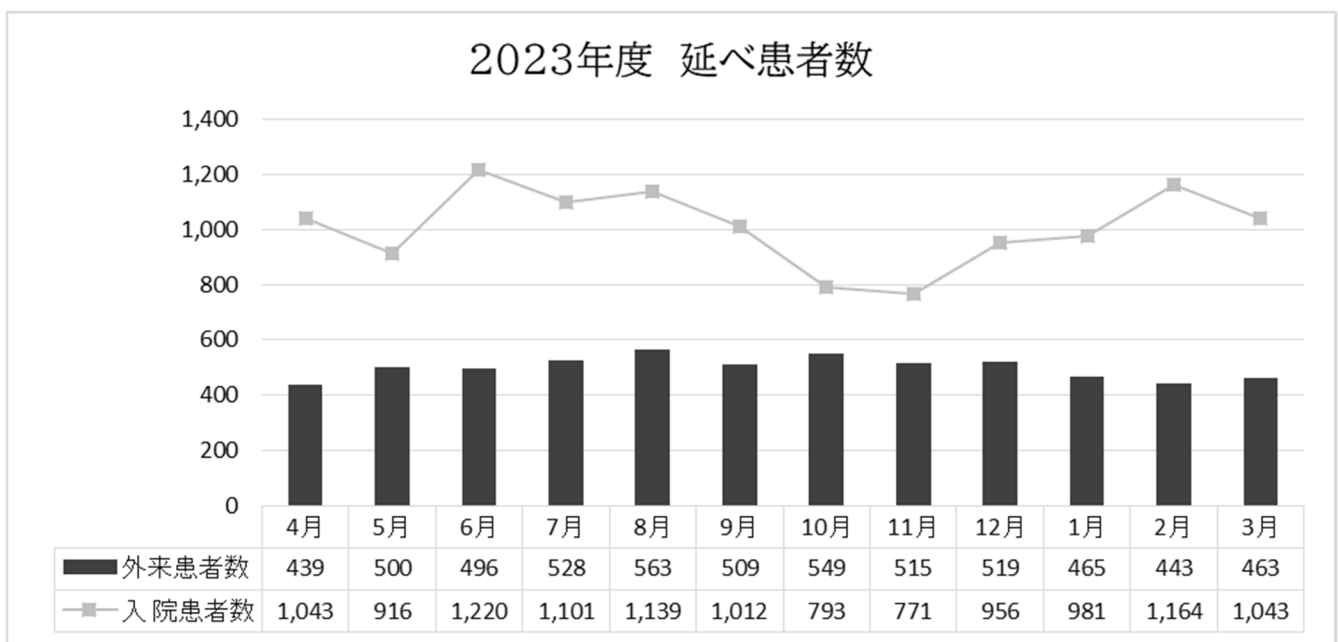
腎臓内科 ・ 人工透析			
2023年1月1日～2023年12月31日			
◆ 総 数		336	例 ◆
【内 訳】			
経皮的シャント拡張術・血栓除去術		265	例
末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）		15	例
内シャント血栓除去術		4	例
連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術		38	例
胸水・腹水濾過濃縮再静注法		14	例

## 呼 吸 器 科

### 【スタッフ】

副 院 長 江原 洋（呼吸器内科診療部長併任）  
 非常勤医師 狭川 玲  
 非常勤医師 加藤 里奈  
 非常勤医師 島村 貴史  
 非常勤医師 古川 佳奈子

### 【業務の内容】

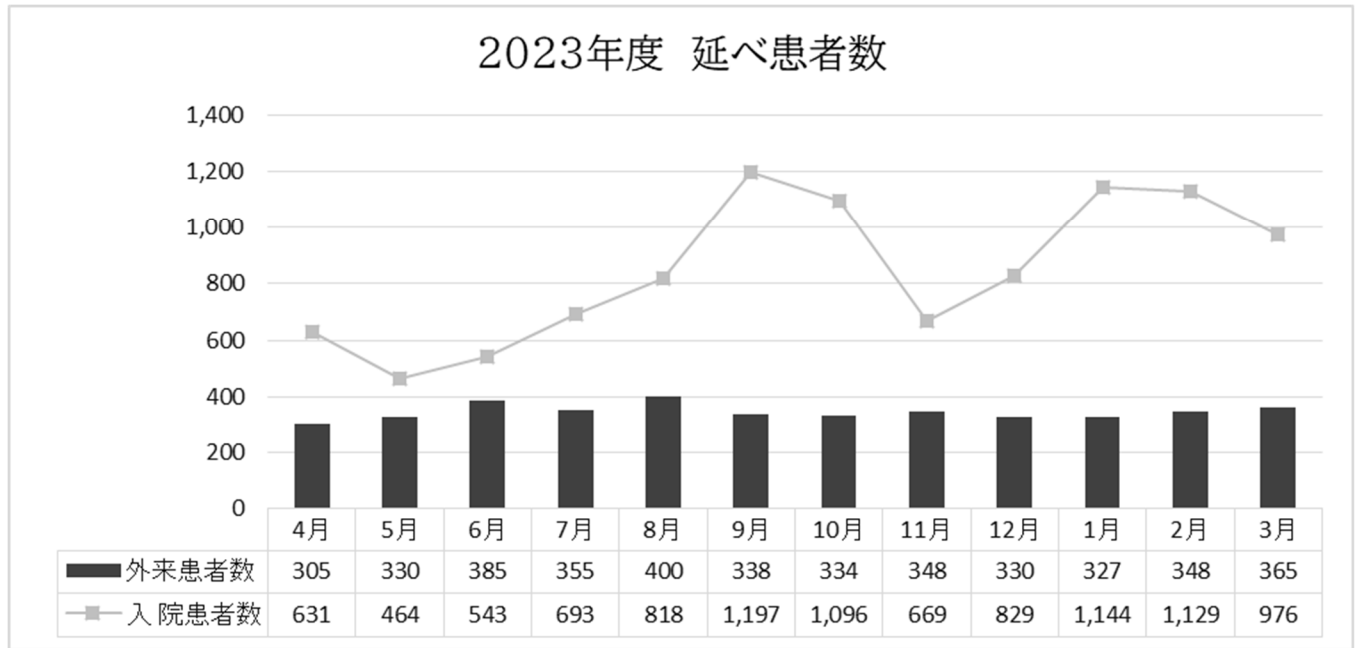


## 消 化 器 科

【スタッフ】

病 院 長 前田 正人（消化器科診療部長・検査部長併任）

【業務の内容】



## 循環器科

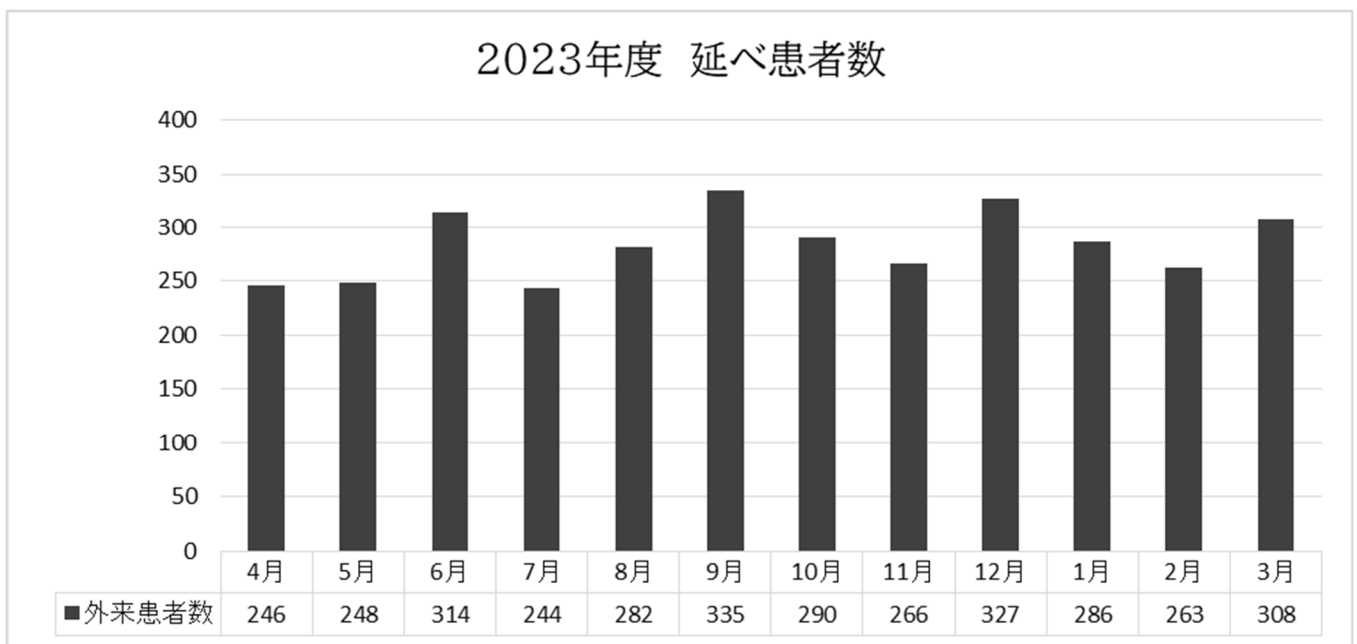
### 【スタッフ】

非常勤医師 坂本 泰三  
非常勤医師 山内 貴雄  
非常勤医師 手塚 大介  
非常勤医師 阿部 圭希  
非常勤医師 遠藤 裕久

### 〔心臓血管外科〕

非常勤医師 田中 利昌  
非常勤医師 森田 三奈子

### 【業務の内容】

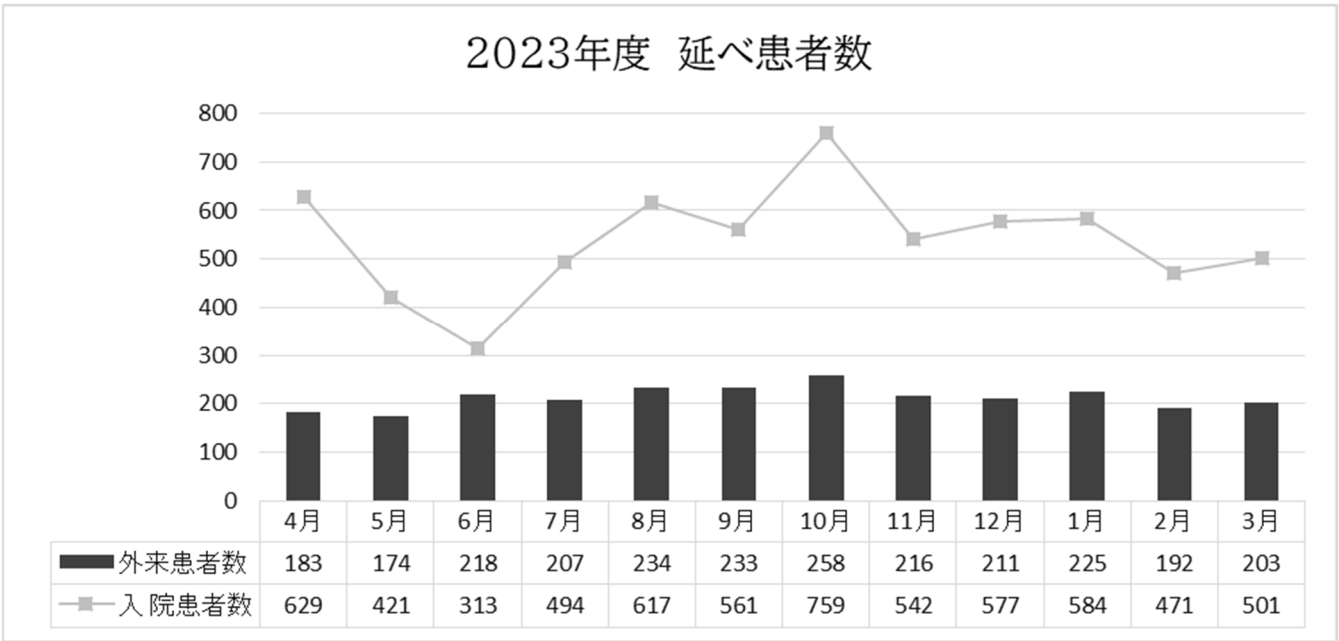


# 外科

**【スタッフ】**

外科医長 染野 泰典  
 外科医長 関 亮太  
 非常勤医師 圓城寺 恩  
 非常勤医師 岡田 卓也

**【業務の内容】**



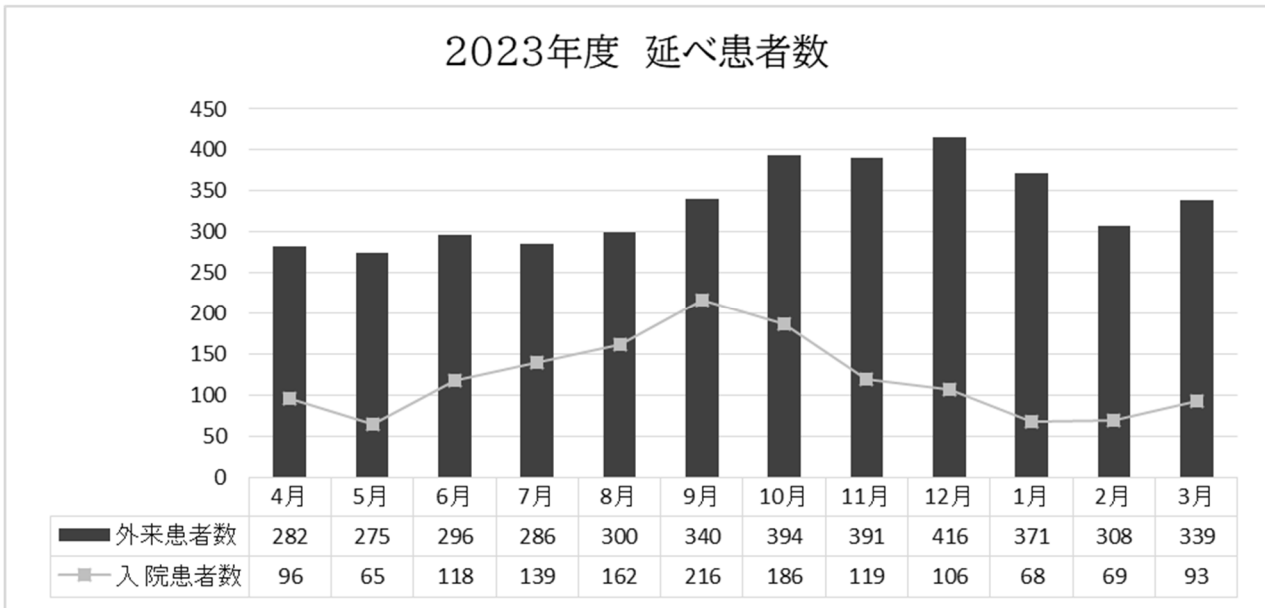
外科手術件数			
2023年1月1日～2023年12月31日			
◆ 総数		162	例 ◆
【内訳】			
I	悪性疾患（がんの手術）	20	例
	上部消化管（食道、胃、十二指腸）	3	例
	下部消化管（結腸,直腸,腹腔鏡下手術含）	14	例
	肝臓、膵臓、胆嚢	0	例
	その他	3	例
II	良性疾患	142	例
	胆石、総胆管結石（腹腔鏡下手術含）	23	例
	急性虫垂炎	4	例
	痔（痔核、痔ろう、脱肛）	28	例
	ヘルニア（鼠径部、大腿部、腹壁）	57	例
	その他（膿瘍、外傷など）	30	例
	年間全身麻酔件数	39	81 例

# 乳 腺 外 科

## 【スタッフ】

外科診療部長 永原 誠  
外科医長 手塚 康二

## 【業務の内容】



乳 腺 外 科 手 術 件 数	
2023年1月1日～2023年12月31日	
◆ 総 数	120 例 ◆
【内訳】	
乳腺腫瘍摘出術	15 例
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの))	26 例
乳腺悪性腫瘍手術(拡大乳房切除術)	3 例
胸壁悪性腫瘍摘出術	1 例
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))	7 例
乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	30 例
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	11 例
中心静脈注射用植込型カテーテル設置(頭頸部その他に設置した場合)	7 例
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	7 例
その他	13 例
(再掲) 乳がんセンチネルリンパ節加算2	40 66 例



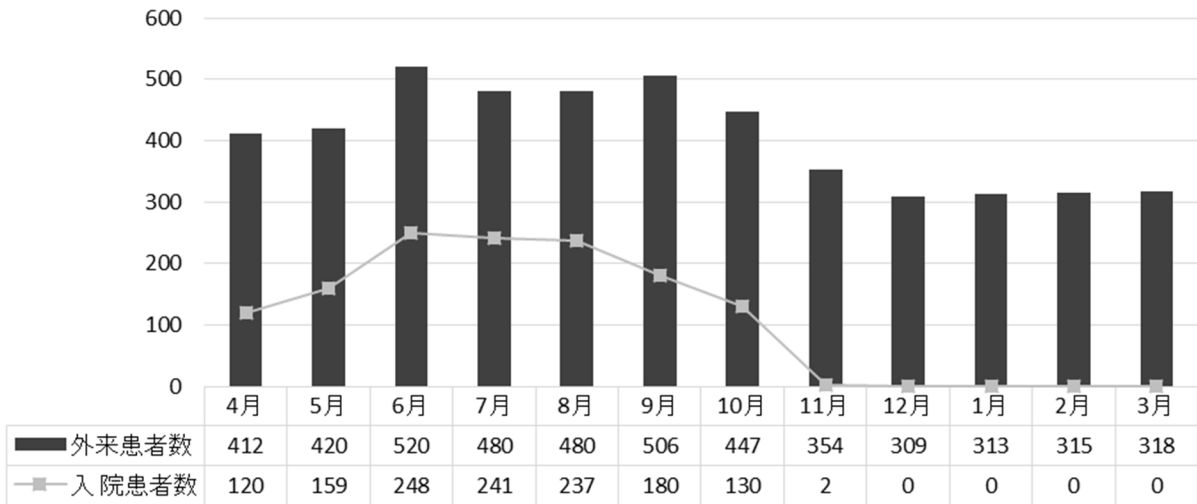
## 整形外科

### 【スタッフ】

整形外科医師	靱負 耕史 (任期付常勤)		
非常勤医師	松山 嘉彦	非常勤医師	諸橋 達
非常勤医師	牟田 智也	非常勤医師	松丸 聡
非常勤医師	江川 聡	非常勤医師	日山 鐘浩
非常勤医師	石井 悠也	非常勤医師	布谷 茉莉香

### 【業務の内容】

2023年度 延べ患者数



## 整形外科 手術件数

2023年4月1日～2024年3月31日

◆ 総数 17 例 ◆

【内訳】

骨折観血的手術 (大腿)	4	例
骨内異物 (挿入物含む) 除去術 (大腿)	2	例
骨内異物 (挿入物含む) 除去術 (前腕)	2	例
骨内異物 (挿入物含む) 除去術 (膝蓋骨)	1	例
骨内異物 (挿入物含む) 除去術 (足)	1	例
骨内異物 (挿入物含む) 除去術 (その他)	2	例
ガングリオン摘出術 (足)	1	例
人工骨頭挿入術 (股)	2	例
手根管開放術	1	例
ラッツ	1	例

## 脳神経外科

### 【スタッフ】

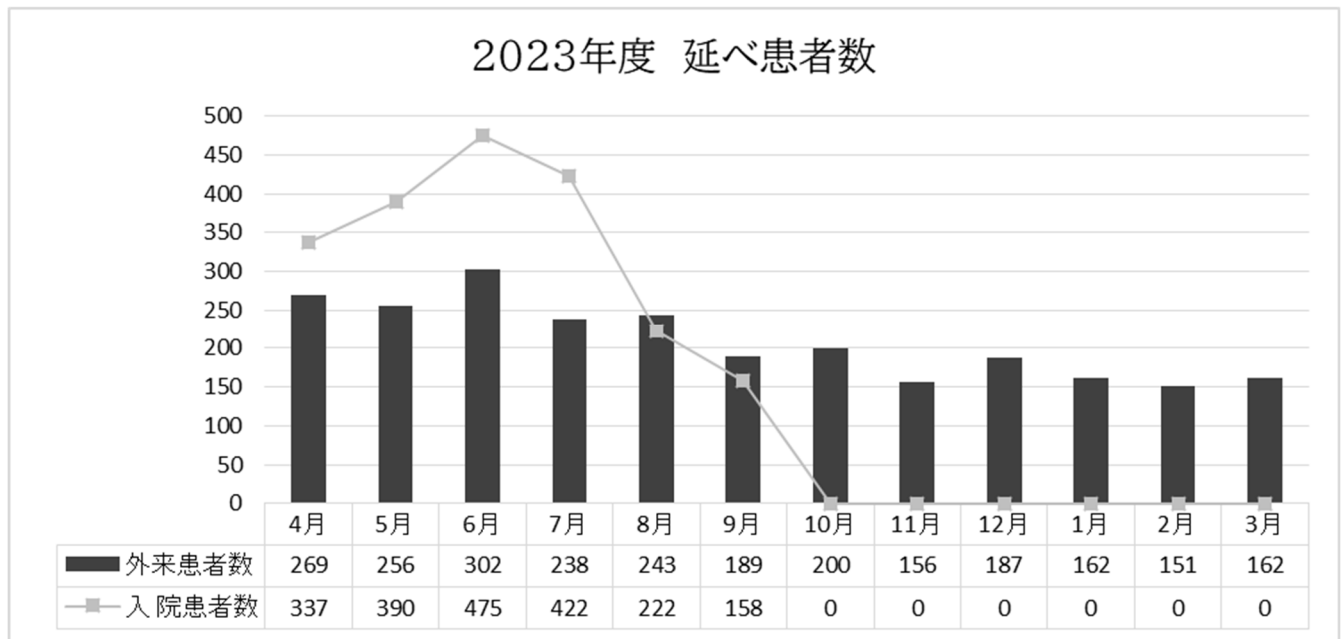
〔脳神経外科〕

脳神経外科医師 青柳 昌樹（健康管理センター長）  
 脳神経外科医師 武井 秀憲（非常勤）  
 非常勤医師 西岡 和輝  
 非常勤医師 黒田 清隆  
 非常勤医師 牧野 健作  
 非常勤医師 藤田 修英  
 非常勤医師 田部井 勇助  
 非常勤医師 下地 一彰

〔脳神経内科〕

非常勤医師 篠江 隆

### 【業務の内容】



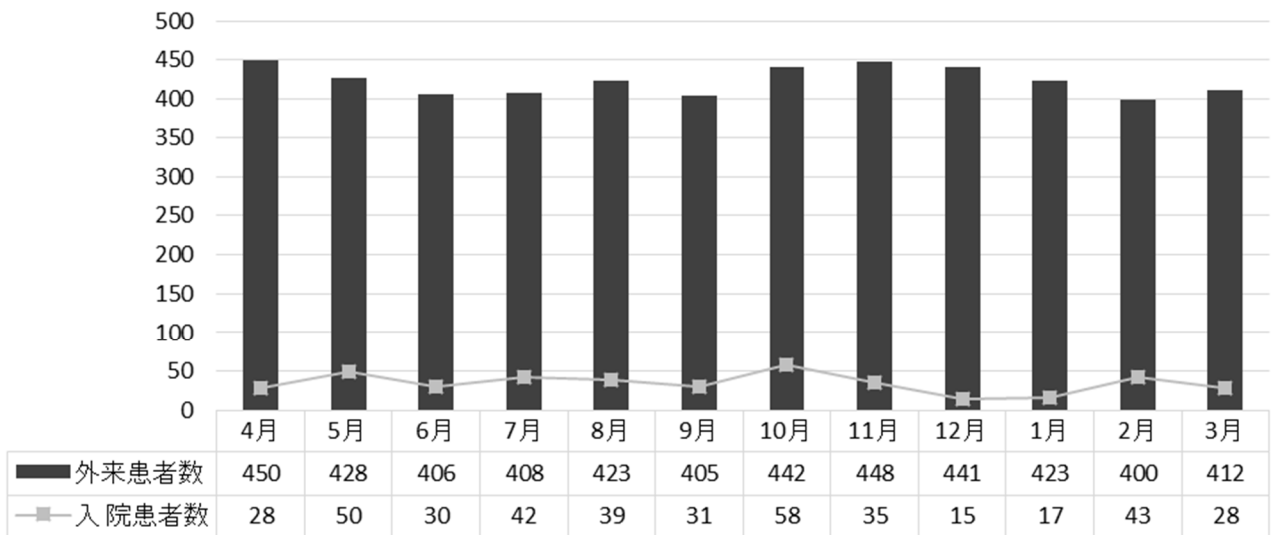
## 泌 尿 器 科

### 【スタッフ】

副 院 長	赤倉 功一郎
泌尿器科診療部長	泉谷 敏文
泌尿器科医師	平賀 聖悟 (非常勤)
非常勤医師	中島 明子
非常勤医師	福田 翔平
非常勤医師	藤原 基裕

### 【業務の内容】

2023年度 延べ患者数



## 泌 尿 器 科 手 術 件 数

2023年1月1日～2023年12月31日

◆ 総 数

68

例 ◆

【内 訳】

I 悪性疾患 (がんの手術)

3 例

膀胱 (経尿道的膀胱腫瘍切除など)

3 例

II 良性疾患

9 例

腎盂・尿管 (WJステント留置、抜去、尿管瘤切除など)

1 例

膀胱 (膀胱碎石術、異物除去、膀胱瘻など)

3 例

その他

5 例

III 検査手術 (前立腺生検など)

43

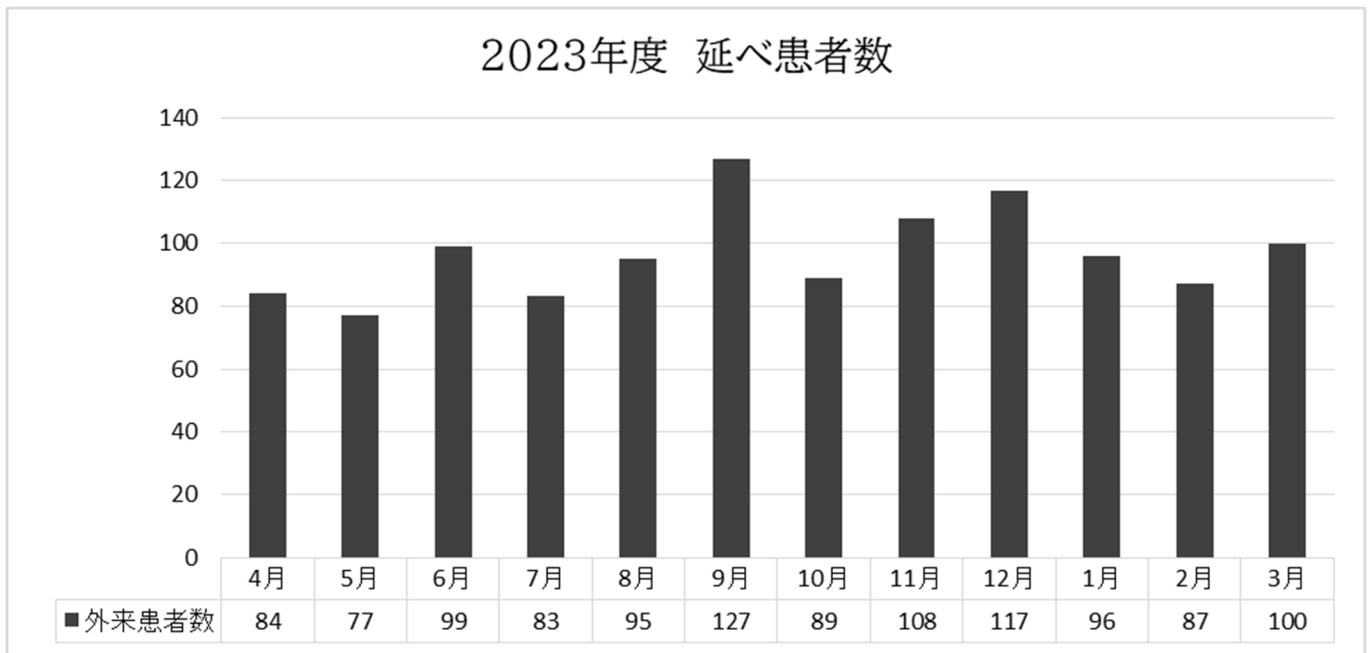
56 例

## 産 婦 人 科

### 【スタッフ】

非常勤医師 野田 芳人 (名誉院長)  
 非常勤医師 田口 明  
 非常勤医師 梅崎 光  
 非常勤医師 布施 養善  
 非常勤医師 舩渡 孝郎  
 非常勤医師 伊地知 航司  
 非常勤医師 田嶋 俊彬  
 非常勤医師 星野 将輝  
 非常勤医師 杉村 有泉  
 非常勤医師 大島 直紀  
 非常勤医師 平山 雄一郎  
 非常勤医師 切替 麻以子

### 【業務の内容】



## 眼科

### 【スタッフ】

医師 鈴木（常勤、眼科部長）、高橋（非常勤（月））、畠（非常勤（水））

看護師 山本加根子、鈴木なが子

クラーク 成瀬、関野、比嘉

### 【業務の内容】

視力検査、眼圧測定、視野検査、Hess 検査、診察

白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、外眼部手術、硝子体注射

### 【2023 年度総括】（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

外来患者数（前年度）	手術件数（前年度）	
新患 539 人（681 人）	白内障手術	450 件（502 件）
再来 12786 人（12791 人）	硝子体手術	3 件（8 件）
計 13325 人（13428 人）	眼内レンズ強膜内固定術	2 件（0 件）
	緑内障手術	5 件（4 件）
	眼瞼下垂手術	48 件（24 件）
	眼瞼内反症手術	6 件（1 件）
	翼状片切除術	10 件（3 件）
	抗 VEGF 硝子体内注射	79 件（75 件）
	その他	38 件（50 件）
	合計	639 件（667 件）

### 誌上発表

1. Suzuki Y, Kiyosawa M. Relationship between Diabetic Nephropathy and Development of Diabetic Macular Edema in Addition to Diabetic Retinopathy. Biomedicines. 2023;11(5):1502.
2. 鈴木幸久、Visual snow 症候群、第 6 章神経眼科症候、ビジュアル神経眼科、229-235、2023
3. 鈴木幸久、Visual snow 症候群、第 8 章全身疾患と神経眼科的症状、新篇眼科プラクティス 10、神経眼科はじめの一步、283-285、2023

### 学会発表

4. 鈴木幸久、清澤源弘、石井賢二. Visual snow 患者における立体視障害、第 61 回日本神経眼科学会総会、東京、2023. 12. 1-2
5. 鈴木なが子、緑内障の静的視野検査における補助台を使用した同一姿勢の苦痛軽減への試み（ポスター発表）、第 8 回 JCHO 地域医療総合医学会、三重県津市、2023.12.9

### 【今後の課題と展望】

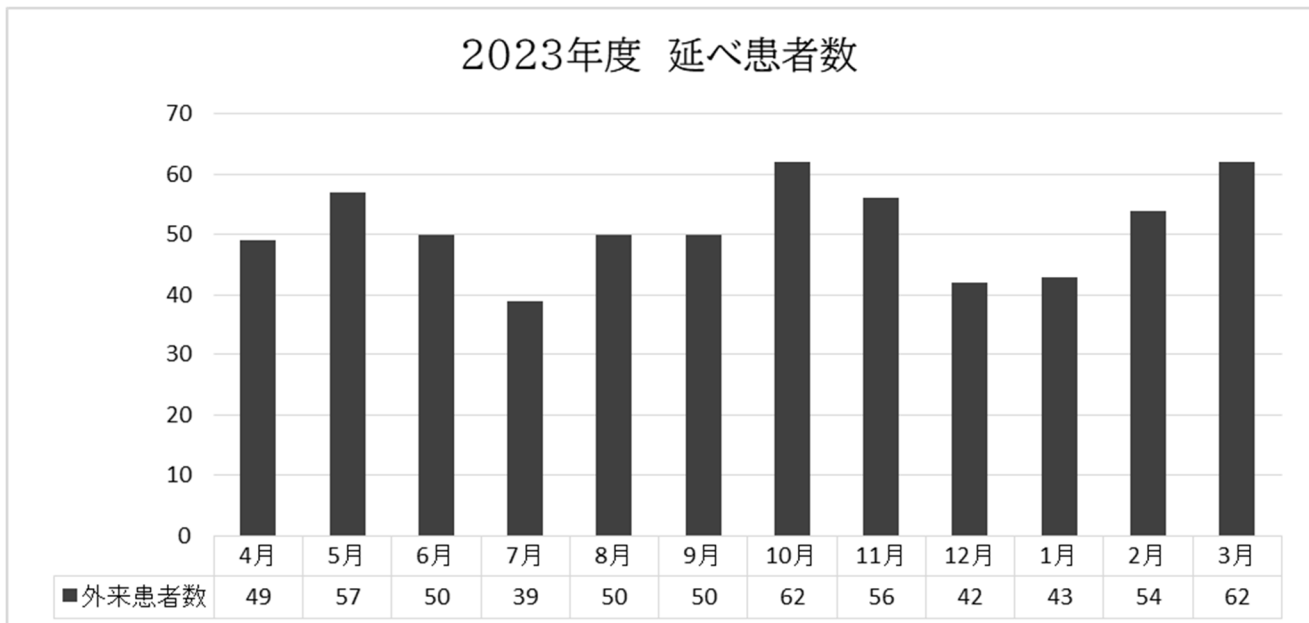
外来患者数は前年と同様に多いので、外来業務を効率よく行い、待ち時間の短縮に努めたい。

## 耳鼻咽喉科

### 【スタッフ】

非常勤医師 近藤 景介  
非常勤医師 尾形 麻斗  
非常勤医師 田村 文乃  
非常勤医師 菅原 康平  
非常勤医師 大久保 航太  
非常勤医師 佐々木 絃人

### 【業務の内容】



## 麻酔科

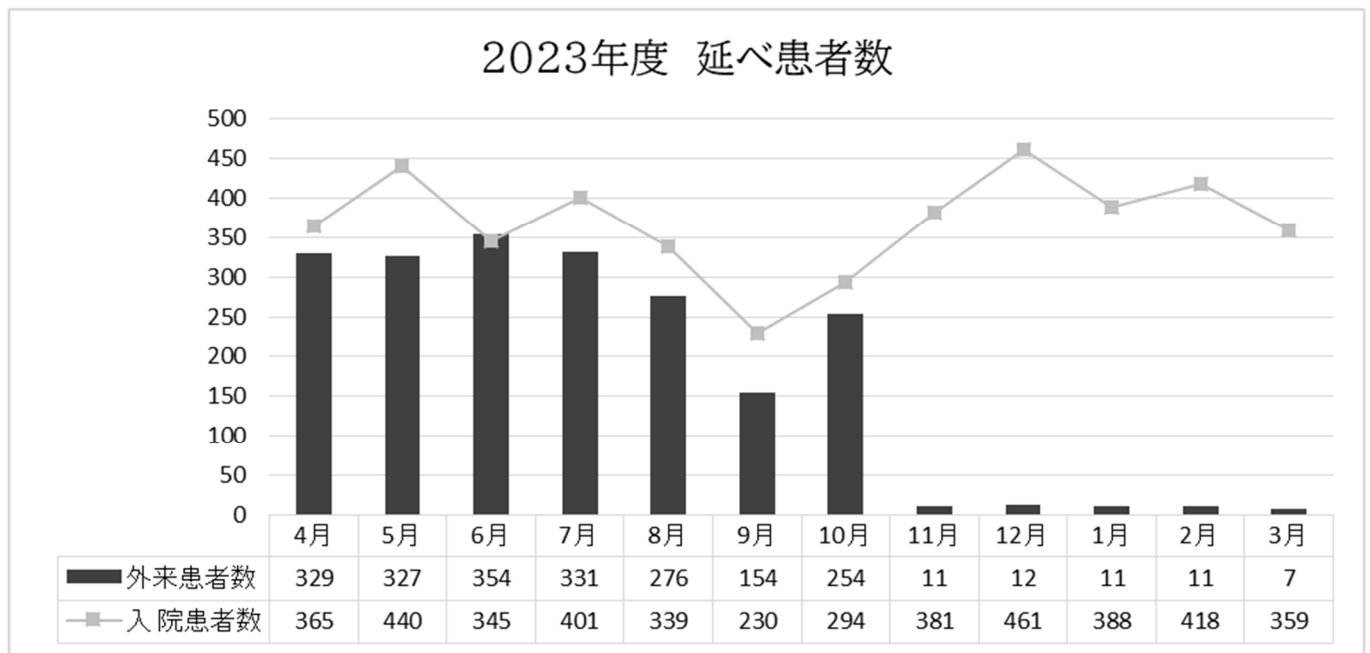
### 【スタッフ】

副 院 長 寺田 享志  
 非常勤医師 川崎 美緒  
 非常勤医師 洪 景都  
 非常勤医師 山崎 翔

### 〔ペインクリニック〕

麻酔科医師 寺田 哲（任期付常勤）

### 【業務の内容】

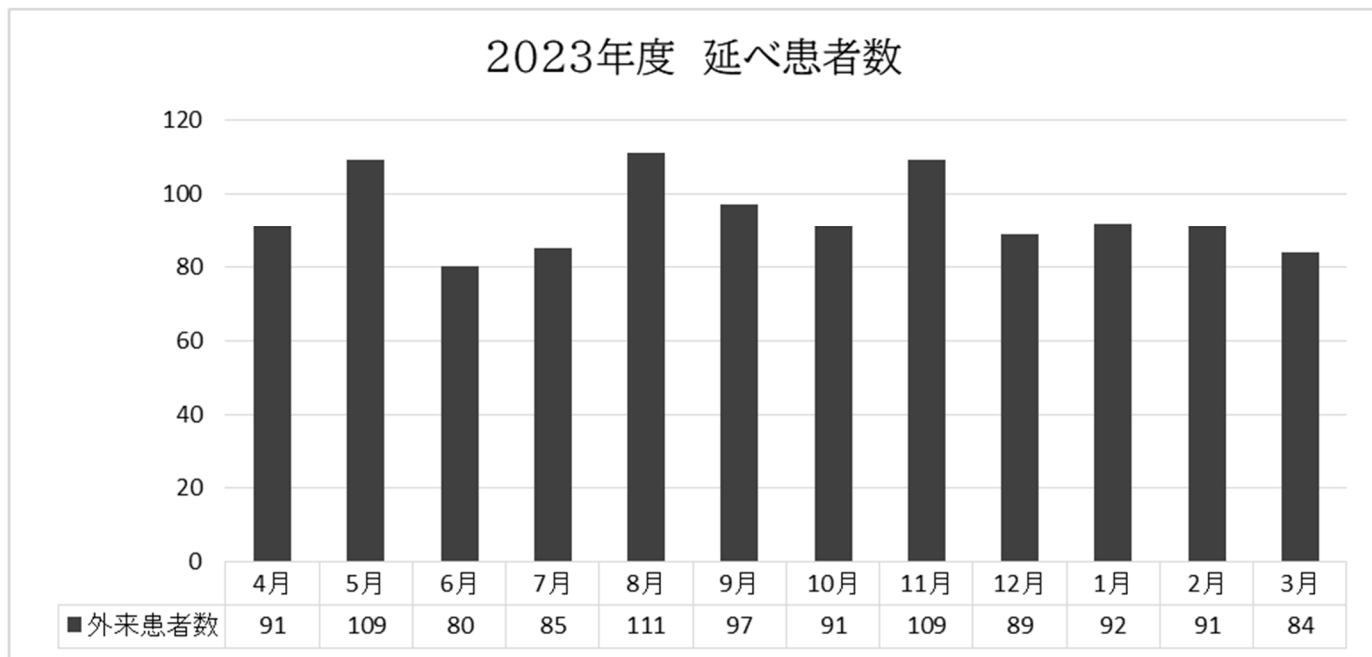


皮膚科

【スタッフ】

非常勤医師 天羽 康之

【業務の内容】





## 透析センター

### 【スタッフ】

医師 山田敏生（常勤）、木村貴英（常勤）、渡邊佳織（常勤）、白井博之（非常勤（水））  
 看護師 11名 看護助手 1名  
 臨床工学技士 6名

### 【業務の内容】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
延べ患者数（名）	861	905	907	1035	1156
血液浄化回数（回）	10374	10872	11051	11863	12625
透析導入患者数（名）	13	6	14	20	16
転入患者数（名）	47	52	37	84	100
転出患者数（名）	52	52	38	80	104
旅行透析患者数（名）	10	0	0	0	1
シャントP T A回数（回）	82	131	154	205	276

### 【2023年度総括】

- ・木村貴英医師が開設したCAPD外来が1年経過し、延べ患者数は490名、導入患者は27名になった。
- ・シャントP T Aを医師2名が実施、また、透析センタースタッフのシャント観察によるトラブル対応が速やかになり、連携によるチーム医療体制が強化し、臨時P T Aを含め回数が205件から276件に増加した。
- ・画像診断装置を1台購入し、シャントP T A、頸静脈直接穿刺、エコーガイド下シャント穿刺の同時進行が可能になり、エコーを用いた業務の効率化が図られた。
- ・エコーガイド下シャント穿刺を臨床工学技士と看護師各2名が担当し、タスクシフトを行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性患者4名に、入室方法の変更など10日間予防策を行った。
- ・他院からの転入依頼を積極的に受け入れる体制を継続し、84名から100名に転入患者が増加し、ベッド稼働率が前年度111.5%から、118.6%に上昇した。
- ・一部の患者を8時に入室し穿刺を行う勤務を月、火曜グループで開始した。
- ・慢性腎不全患者の筋力低下、血圧低下を予防し、身体機能、日常生活の活動向上を目指し、血液浄化療法中の腎臓リハビリテーションを継続した。
- ・通院患者確保にむけた患者送迎車の運用を継続し、通院患者数の維持に努めた。
- ・透析システム更新により35床でon-lineHDFが可能となり、治療の選択肢が拡大した。

### 【今後の課題と展望】

- ・常勤医師が3名となり、血液浄化療法の拡充と安定したベッド稼働率を増加
- ・エコーガイド下シャント穿刺は看護師を加え継続し、タスクシフトを推進する。
- ・地域医療機関からの転入、また、特殊血液浄化療法を受け入れ地域医療への貢献
- ・地域医療への貢献のため、患者家族への援助を視野に、レスパイト入院を推進し、入院患者の確保
- ・リハビリテーション、栄養指導など他部署と連携し、透析患者の維持・管理・日常生活の質の向上

## 内 視 鏡 室

### 【スタッフ】

医師 病院長 前田 正人（消化器科診療部長・検査部長兼任）  
外科医長 染野 泰典  
外科医長 関 亮太  
非常勤医師 勝亦 重弘  
非常勤医師 櫻井 経徳  
副院長 江原 洋（呼吸器内科診療部長併）

看護師 多田和美、紅林やよい、村岡萌、岩瀬佳世（非常勤）  
クラーク 1名

### 【業務の内容】

内視鏡件数（件）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
上部消化管内視鏡	3696	3614	3049	3912	4145	4427
下部消化管内視鏡	487	446	386	451	471	454
ERCP	27	26	38	21	27	32
気管支鏡	46	38	39	42	33	25

### 【2023年度総括】

今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたため、検査数は昨年と比べて増加傾向となった。エアロゾル発生に留意し、感染予防策を講じて業務を遂行できた。

### 【今後の課題と展望】

上記の状況を鑑みると、受診者数の増加や健診業務の回復から検査数の増加が見込まれる。しかし、今度もインフルエンザとコロナの二重流行等も起こりうるため、引き続き感染予防策を徹底することで安全を確保していきたい。

また、良好な医療を提供する努力を惜しまず、専門的な知識を共有し技術を向上させていくことが重要と考える。

診 療 技 術 部 門

## 薬 剤 部

### 【スタッフ】

薬剤部長	露木 徹
薬剤部主任	勝又智恵子 飛嶋佳子
薬剤師	佐藤裕美 秋山 諒 西川由紀子（～2023.12） 佐野翔太 松本貴久代（非常勤） 横山美智江（非常勤） 海野洋美（非常勤）（～2023.9） 持田恭子（非常勤） 田中宏（非常勤）（2023.11～2024.2）
事務員	石川ひとみ（非常勤）

### 【業務の内容】

1. 調剤業務
2. 注射業務
3. 病棟業務
4. 製剤業務
5. 医薬品情報管理（DI）業務（持参薬鑑別を含む）
6. 医薬品管理業務
7. 各委員会、チーム医療への参加
8. 調剤薬局との薬薬連携（院外処方疑義照会、吸入連携など）

### 《業務実績》

- 1) 業務月報まとめ（別表 1）
- 2) 診療報酬月報まとめ（別表 2）
- 3) 薬事審議会決定事項（別表 3）
- 4) 後発品への移行の取り組み  
総数（2023.8 時点） 361 品目（内服 221、注射 92、外用 48）  
新規切替（2023.4～2024.3） 8 品目（内服 0、注射 5、外用 3）

5) 教育・研修

①薬剤部内勉強会（月1回運営会議）

開催日	内 容	担当者
2023.4.12	小細胞肺がん・非細胞肺がん	佐野
5.10	Triple Whammy のリスクと予防	勝又
6.14	AMR について	飛嶋
7.12	術後疼痛管理	佐藤
8.9	DMAT 隊員養成研修	秋山
9.13	低ナトリウム血症	西川
10.11	透析	佐野
11.8	病棟業務標準化ツールの作成	勝又
12.13	腹膜透析のしくみ	飛嶋
2024.1.10	術後疼痛管理 2-1	佐藤
2.7	能登半島地震災害派遣	秋山
3.13	リンヴォック	佐野

②院内研修会（医薬品安全管理研修会）の開催

開催日	内 容	担当者
2023.6.20	薬剤知識を高めよう	露木
2024.3.6～3.25	R5 年度医薬品安全研修会	勝又

6) 地域との連携

①院外処方疑義照会件数

	FAX コーナー (9:00~13:00)	薬剤科 (13:00~)	合計
2023.4月 ～2024.3月	545 件	1060 件	1605 件

※このうち事後報告件数： 550 件

②吸入連携： 2023.4～2024.3 計 14 件

7) 新規に取り組んだ業務、変更となった業務

①院外処方箋における疑義照会プロトコール改訂

### 【2023 年度総括】

- ・病棟業務を充実させることにより、薬剤管理指導業務の件数を高いレベルで継続し、入院患者の薬学的管理、処方設計、相談応需など医師及び看護師等の業務軽減につながった（服薬指導率 80%以上、退院時指導率 90%以上）
- ・持参薬鑑別および管理や薬剤総合評価調整など、医薬品の適正かつ安全な使用に貢献できた
- ・後発品への移行を継続的に実施することで後発品使用割合を高め、費用縮減効果につながり経営改善に貢献できた（後発品置き換え率 85%以上をキープ）
- ・院外処方箋疑義照会の合意プロトコルの運用や地域薬剤師会との協力により、医師の業務負担軽減や患者待合時間の短縮、外来患者の適正かつ安全な薬物療法を実現し、薬薬連携に貢献できた
- ・薬剤総合評価調整加算及び薬剤調整加算が前年度より増加した
- ・ICU カートを 5 階カートに統合し病棟在庫数の減少及び補充に係る時間が減少した

### 【今後の課題と展望】

1. 薬学的ケアや処方提案を積極的に行い、医薬品の適正かつ安全な使用のための業務に努める
2. 薬学的ケアをより一層推進し、その情報を共有することで薬剤部全体のレベルアップを図る
3. チーム医療の一員として薬学的専門性を発揮できるよう自己研鑽する
4. 後発品への移行を引き続き推進し、置き換え率 85%以上をキープする
5. 地域連携を推進し、薬薬連携の更なる充実を図る
6. 院外処方箋疑義照会プロトコルを改訂し、更なる効率化・業務負担軽減を図る
7. 外来自己注射指導の拡充
8. 術前外来において中止薬剤の最終チェックを実施し、周術期の薬剤の安全かつ適正使用に努める
9. 薬剤総合評価調整加算及び薬調整加算のさらなる取得
10. 薬剤部スタッフの増員を行い安全に業務が行える体制を作る



診療報酬月報まとめ(2023年度)

年度累計金額 (円)

項目	点数	2023.4月		2023.5月		2023.6月		2023.7月		2023.8月		2023.9月		2023.10月	
		件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)
薬剤管理指導料 1	380	118	448,400	119	452,200	124	471,200	127	482,600	134	509,200	91	345,800	93	353,400
薬剤管理指導料2	325	108	351,000	108	351,000	122	396,500	116	377,000	106	344,500	104	338,000	119	386,750
麻薬指導加算	50	2	1,000	2	1,000	0	0	0	0	3	1,500	4	2,000	2	1,000
退院時薬剤情報管理指導料	90	173	155,700	179	161,100	164	147,600	174	156,600	190	171,000	161	144,900	189	170,100
退院時薬剤情報連携加算	60	62	37,200	64	38,400	45	27,000	62	37,200	63	37,800	61	36,600	72	43,200
病棟薬剤業務実施加算1	120	580	696,000	427	512,400	506	607,200	617	740,400	614	736,800	566	679,200	568	681,600
薬剤総合評価調整加算	100	19	19,000	10	10,000	11	11,000	16	16,000	15	15,000	8	8,000	12	12,000
薬剤調整加算	150	11	16,500	3	4,500	3	4,500	5	7,500	5	7,500	4	6,000	7	10,500
無菌製剤処理料1 (閉鎖式)	180	31	55,800	30	54,000	24	43,200	21	37,800	37	66,600	23	41,400	26	46,800
無菌製剤処理料1 (上記以外)	45	18	8,100	14	6,300	18	8,100	12	5,400	18	8,100	16	7,200	18	8,100
無菌製剤処理料2	40	4	1,600	0	0	0	0	5	2,000	6	2,400	17	6,800	24	9,600
外来腫瘍化学療法診療料2	570	41	233,700	31	176,700	32	182,400	23	131,100	45	256,500	35	199,500	33	188,100
外来腫瘍化学療法診療料2	270	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来化学療法加算2A	470	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来化学療法加算2B	370	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤情報提供料 (+手帳加算)	13	95	12,350	117	15,210	94	12,220	105	13,650	135	17,550	124	16,120	117	15,210
一般名加算1	7	1,552	139,680	1,510	135,900	1,797	161,730	1,507	135,630	1,700	153,000	1,598	143,820	1,647	148,230
一般名加算2	5	1,102	77,140	1,152	80,640	1,184	82,880	1,121	78,470	1,169	81,830	1,151	80,570	1,138	79,660
後発品使用収益*1			244,155		217,190		238,655		247,322		263,800		255,894		235,998
合計		3,916	2,497,325	3,766	2,216,540	4,124	2,394,185	3,911	2,468,672	4,240	2,673,080	3,963	2,311,804	4,065	2,390,248

\*1 後発品係数×診療単価×述べ入院患者数

2023.11月		2023.12月		2024.1月		2024.2月		2024.3月		年度累計	
件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)	件数	金額 (円)
77	292,600	74	281,200	84	319,200	88	334,400	74	281,200	1,203	4,571,400
90	292,500	76	247,000	80	260,000	82	266,500	80	260,000	1,191	3,870,750
0	0	2	1,000	0	0	2	1,000	5	2,500	22	11,000
140	126,000	129	116,100	121	108,900	159	143,100	151	135,900	1,930	1,737,000
49	29,400	48	28,800	43	25,800	57	34,200	48	28,800	674	404,400
370	444,000	471	565,200	487	584,400	553	663,600	507	608,400	6,266	7,519,200
6	6,000	2	2,000	5	5,000	3	3,000	4	4,000	111	111,000
3	4,500	1	1,500	3	4,500	1	1,500	2	3,000	48	72,000
27	48,600	25	45,000	22	39,600	25	45,000	35	63,000	326	586,800
19	8,550	11	4,950	2	900	0	0	0	0	146	65,700
16	6,400	18	7,200	12	4,800	20	8,000	11	4,400	133	53,200
38	216,600	31	176,700	23	131,100	20	114,000	30	171,000	382	2,177,400
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
114	14,820	126	16,380	133	17,290	101	13,130	119	15,470	1,380	179,400
1,520	136,800	1,623	146,070	1,506	105,420	1,492	104,440	1,592	111,440	19,044	1,622,160
1,024	71,680	1,030	72,100	995	49,750	962	48,100	1,007	50,350	13,035	853,170
	189,234		206,021		228,862		242,417		209,158		2,778,707
3,493	1,887,684	3,667	1,917,221	3,516	1,885,522	3,565	2,022,387	3,665	1,948,618	45,891	26,613,287



薬審採用薬一覧2023年度

採用月	新規採用品		削除品	
	名 称	販売メーカー	名 称	販売メーカー
2023年4月	ブログラフ顆粒0.2mg	アステラス製薬	シクロスボリンカプセル10mg「サンド」	サンド
2023年4月	亜鉛華軟膏「ニッコー」	丸石製薬	希コードチンキ「マルイシ」	丸石製薬
2023年4月	ヒアルロン酸Na関節注25mgシリンジ「明治」ロクあり	MeijiSeikaファルマ	スペニールディスボ関節注25mg	中外製薬
2023年4月	ピコスルファートナトリウム内用液0.75%「イワキ」	岩城製薬	ピコスルファートナトリウム内用液0.75%「日医工」	日医工
2023年4月	—————	—————	グランダキシ錠50	持田製薬
2023年4月	—————	—————	ホスミシ錠500	MeijiSeikaファルマ
2023年6月	デクスメトミジン静注液200μg「サンド」	サンド	ラボナール注射用0.5g	ニプロESファーマ
2023年6月	ヘパリン類似物質クリーム0.3%「日医工」 25g	帝國製薬	ヒルドイドクリーム0.3% 25g	マルホ
2023年6月	カルナクリン錠50	三和化学研究所	カリジノゲナーゼ錠50単位「サワイ」	沢井製薬
2023年6月	ニコリンH注射液0.5g	武田テバ	シチコリン注500mg/2mL「日医工」	日医工
2023年6月	—————	—————	ダイアアップ坐剤10	高田製薬
2023年6月	—————	—————	クロルフェニシンカルバミン酸エステル錠125mg「NP」	ニプロ
2023年8月	アロカリス点滴静注235mg	大鵬薬品工業	プロイメンド点滴静注用150mg	小野薬品
2023年8月	マイトマイシン眼科外用液用2mg	協和キリン	マイトマイシン注用2mg	協和キリン
2023年8月	レボカルニチンFF静注1000mgシリンジ「トローワ」スリッパ型	東和薬品	エルカルチンFF静注シリンジ スリッパタイプ	大塚製薬
2023年8月	ロゼウス静注液10mg	日本新薬	ナベルピン注10	協和キリン
2023年8月	ロゼウス静注液40mg	日本新薬	ナベルピン注40	協和キリン
2023年8月	一般診断用精製ツベルクリン(PPD)1人用 0.25μg	日本ビーシージー	一般診断用精製ツベルクリンPPD 1μg/瓶	日本ビーシージー
2023年10月	エクストラニール腹膜透析液シングルバッグ機器専用2L	バクスター	—————	—————
2023年10月	レギュニールLCa1.5腹膜透析液シングルバッグ機器専用2.5L	バクスター	—————	—————
2023年10月	フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液27.5μg「武田テバ」56噴霧用	武田テバ	アラミスト点鼻液27.5μg56噴霧用	グラクソスミスクライン
2023年10月	ビルシカイニド塩酸塩カプセル25mg「DSEP」	第一三共エスファ	ビルシカイニド塩酸塩カプセル25mg「タナベ」	ニプロESファーマ
2023年10月	シプロフロキサシン錠200mg	バイエル薬品	シプロフロキサシン錠200mg「SW」	沢井製薬
2023年10月	—————	—————	ビタメジン配合カプセルB25	アルフレッサファーマ
2023年12月	ベグフィルグラスチムBS皮下注3.6mg「モチダ」	持田製薬	ジーラスタ皮下注3.6mg	協和キリン
2023年12月	アサコール錠400mg	ゼリア新薬工業	メサラジン腸溶錠400mg「VTRS」	ヴィアトリス製薬
2023年12月	リーバクト配合顆粒 4.15g/包	EAファーマ	リックル配合顆粒 4.74g/包	沢井製薬
2023年12月	ポビドンヨード外用液10%「明治」 250mL	MeijiSeikaファルマ	ポビドンヨード外用液10%「VTRS」 250mL	ヴィアトリス製薬
2023年12月	シプロフロキサシン点滴静注液200mg「NP」	ニプロ	シプロフロキサシン点滴静注液200mg/100mL「明治」	MeijiSeikaファルマ
2023年12月	ラタノプロスト点眼液0.005%「ニッテン」	ロートニッテン	ラタノプロスト点眼液0.005%「NIG」	武田薬品工業
2023年12月	—————	—————	070 ツムラ香蘇散エキス顆粒(医療用)	ツムラ
2023年12月	—————	—————	027 ツムラ麻黄湯エキス顆粒(医療用)	ツムラ
2023年12月	—————	—————	クロルマジノン酢酸エステル錠25mg「日医工」	日医工
2023年12月	—————	—————	オイグルモン錠2.5mg	太陽ファルマ
2023年12月	—————	—————	スルピリン注射液250mg「日医工」	日医工
2024年2月	ケトプロフェンテープ20mg「パテル」	杏林製薬	モーラステープ20mg	久光製薬

## 放射線科

### 【スタッフ】

放射線非常勤医師 砂場鋼治、桑原宏文、本田真希子、渡邊亮輔  
診療放射線技師 大須賀健（技師長）、芹澤和彦（主任）、高屋敷英明（主任）、島田織衣（主任）  
田中大介、鈴木紀久、中村洋介、渡邊七瀬、大田実希、小林健朗  
鈴木博寿（非常勤）  
事務員 田中里美

### 【資格取得】

マンモグラフィ技術講習会	B 認定 2 名
胃がん検診専門技師認定	取得者 2 名
胃 X 線検診読影補助認定	取得者 1 名
告示研修修了者	認定者 8 名

### 【業務内容】

■ 一般撮影	■ マンモグラフィ	■ 巡回健診(胸部・胃部)	■ X 線 CT(64 列)
■ X 線透視	■ 眼底カメラ(健診)	■ 手術室 C アーム操作	■ 骨密度測定
■ MRI(1.5T)	■ 病棟ポータブル		

### 【2023 年度総括】

2023 年 4 月 東京医科歯科大学放射線科医局と遠隔読影画像診断を開始。  
三島－東京間での遠隔読影が実現し、より迅速な読影レポートの作成が可能となった。

2023 年 6 月 健診車（B 車）の X 線装置機器更新。  
老朽化した装置の更新により機器故障による業務延期または中止の回数が大幅に削減され、安心かつ安全な健診業務に貢献できるようになった。

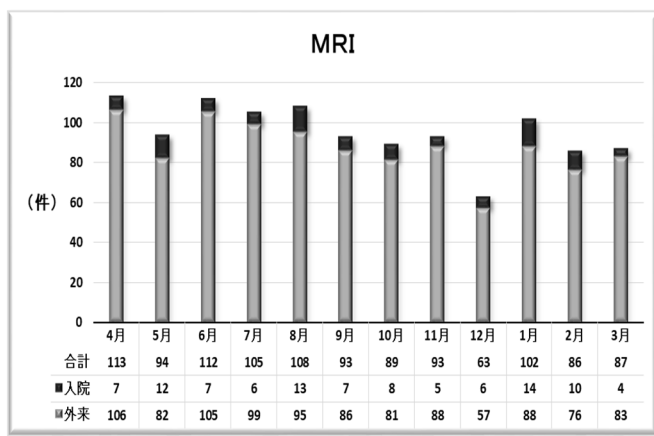
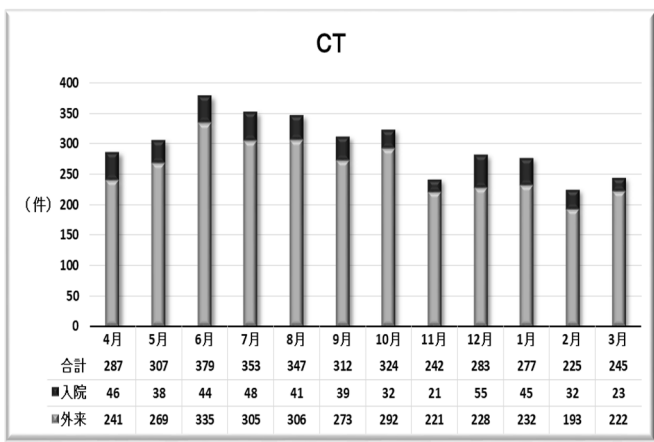
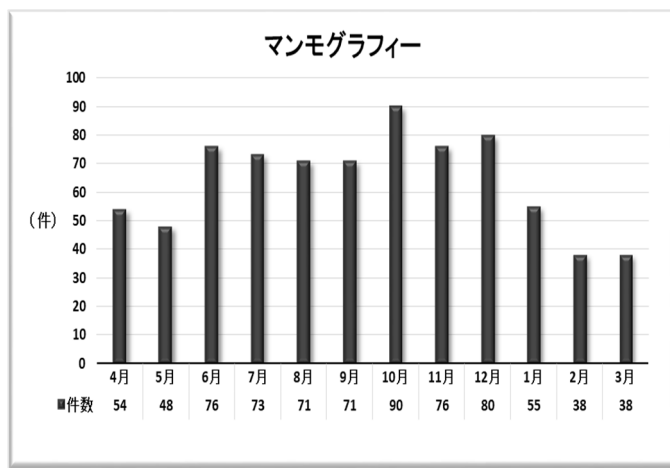
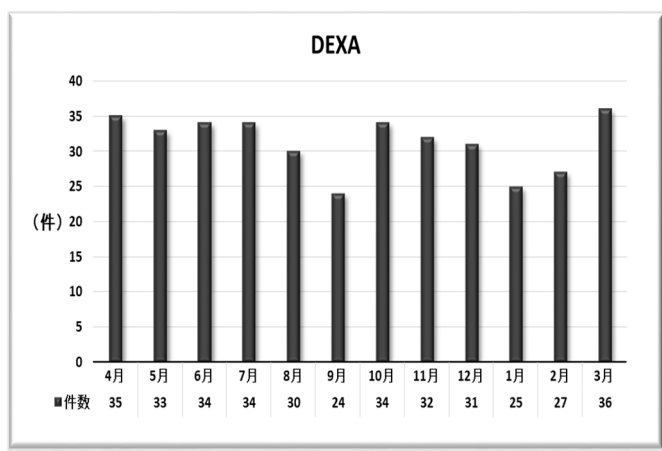
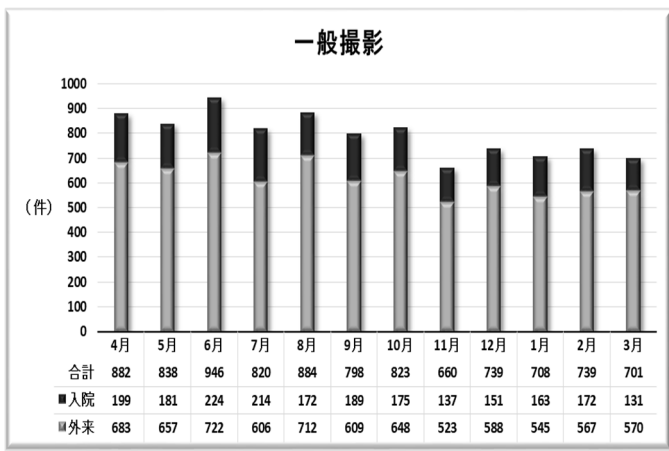
2024 年 2 月 マンモグラフィ装置更新。  
乳がんの画像診断が飛躍的に向上した。

### 【今後の課題・展望】

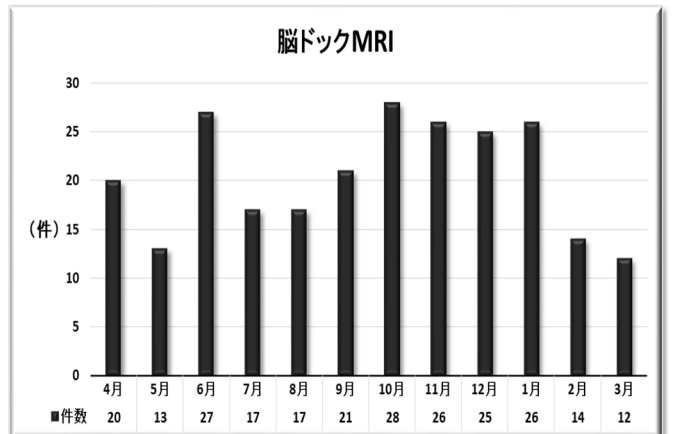
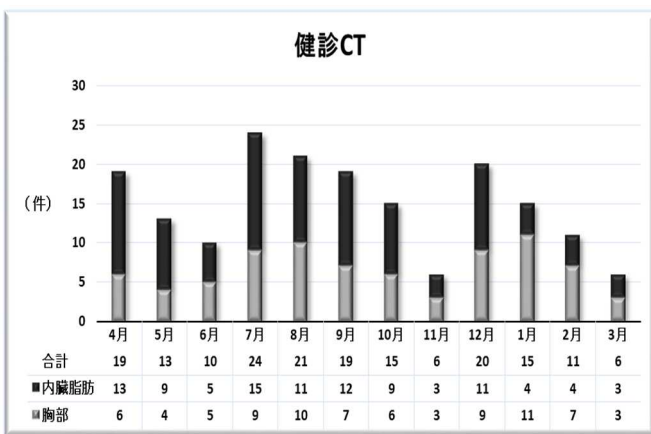
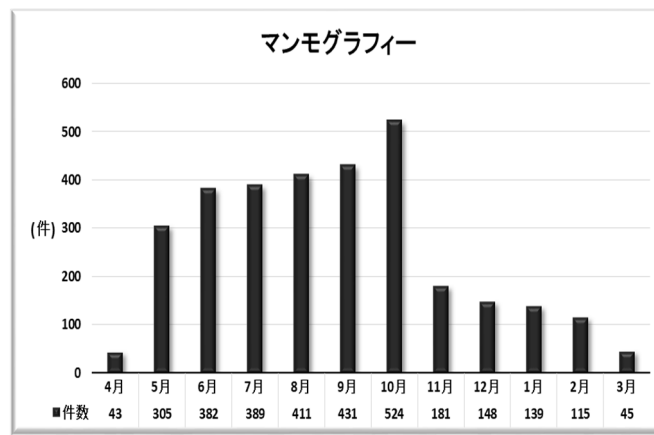
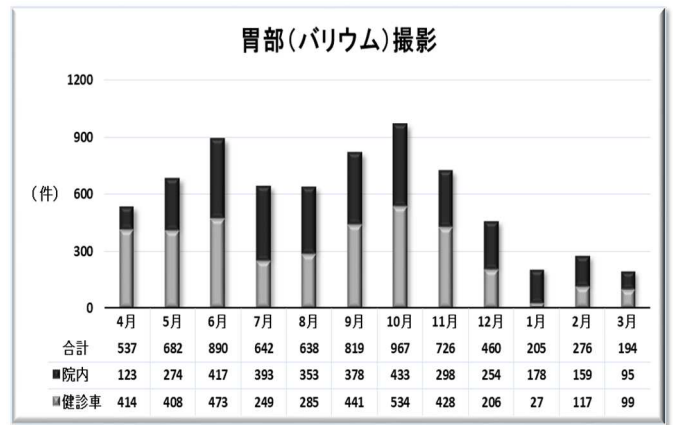
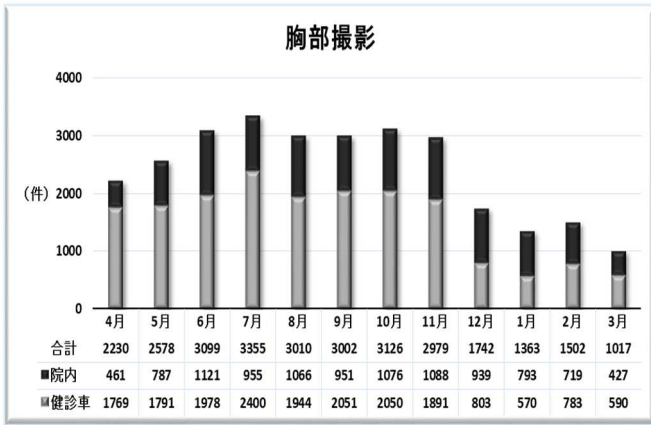
- ・医療法等改正に伴う業務範囲の拡大により院内におけるタスク・シフト/シェアを推進する。
- ・STAT 画像報告を中心とした新人教育の充実を図る。
- ・電子カルテ内の読影レポートシステムとの連携を図り質の高い医療の提供を行う。
- ・高額医療機器更新（X 線 CT 装置、胃 X 線透視装置、X 線ポータブル装置）
- ・近隣開業医に対し CT、MRI 検査依頼の拡大および営業活動の確立。
- ・近隣開業医に対し骨密度測定装置利用促進を行う。
- ・脳ドック利用拡大および健診におけるマンモグラフィ、CT 検査の情報発信。
- ・医療被ばくの標準化を図り、患者さんや受診者さんに分かりやすい安心安全な検査を提供する。
- ・実施検査件数に基づき適正な人員配置を図り、効率的な検査体制を築き上げる。

【放射線検査件数】

令和5年度 検査件数（診療部門）



令和5年度 検査件数 (健診部門)



## 臨床検査科

### 【スタッフ】

非常勤病理医師 竹本 暁、大西 威一郎、伊藤 崇、小林 大輔  
 臨床検査技師 市成美智代（技師長）、米山富江（主任）、大島真由美（主任）、久保友恵（主任）、鈴木信二、望月恵一、大橋勝春、河合めぐみ、戸井田由希子、江川有美、藤井尚冨、増田來也  
 非常勤：早川かずみ、眞田真弓、狩野陽子、南角茜、神尾恭子、飯田弘子、萱沼瑞穂

2023 年度検査件数		
検査項目	診療件数	健診件数
生化学	254,501	382,508
血液一般	25,284	34,216
凝固	5,665	0
免疫血清	14,331	6,091
尿一般	16,868	34,967
便潜血	205	33,410
穿刺液等	937	0
血液ガス	600	0
輸血 赤血球製剤 単位	420	0
小計	318,811	491,192
細胞診	553	2,555
病理組織	595	0
ゲフリールなど	211	0
細菌・迅速抗原	640	0
小計	1,999	2,555
心電図・負荷心電図	2,506	29,746
ホルター心電図	55	0
超音波検査	3,862	4,083
肺活量	330	2,634
脳波	18	0
聴力	75	0
出血時間	527	0
ABI	202	264
腹囲、血圧等	0	11,193
小計	7,575	47,920
採血	1,459	2,161
合計	329,844	543,828

### 【業務の内容】

- ・診療、健診部門の検体検査と生理検査業務
- ・院内健診業務と健診車による巡回健診業務
- ・外来、健診の採血業務
- ・院内各種委員会活動の参加

### 【認定技師】

- ・超音波検査士 3名
- ・細胞検査士 2名
- ・血液検査技師 1名
- ・輸血検査技師 1名
- ・精度管理責任者 1名
- ・NST 専門療法士 1名

### 【2023 年度総括】

- ・乳腺外科医師増加に伴い乳腺超音波検査の依頼増加依頼枠を臨時で対応し、件数増加に貢献した
- ・心臓超音波検査を術前検査に提案、件数増加した
- ・検体検査支援業務 FMS 契約更新に伴い、機器更新生化学、血液、凝固、尿自動分析装置

### 【検査部研修会】

- ・一般検査研修会 症例検討 増田來也
- ・輸血研修会 紙面伝達講習会  
輸血製剤、輸血過誤防止、輸血副作用について

### 【院外学会、研修会】

- ・日臨技 中部圏支部血液部門研修会 講演 大橋勝春
- ・日臨技 中部圏支部医学検査学会 司会 大橋勝春
- ・静岡血液フォーラム 座長 大橋勝春

### 【今後の課題と展望】

- ・学会、研修会に積極的に参加し常に新しい情報を得る
- ・認定技師資格取得を目指し、質の高い医療を提供する
- ・他部署と連携し情報共有を行い、安全な医療に努める

## リハビリテーションセンター

### 【スタッフ】

2023年4月1日 : 理学療法士 9名 作業療法士 2名 言語聴覚士 1.8名

2024年3月31日 : 理学療法士 10名 作業療法士 2名 言語聴覚士 1.8名

入職者 理学療法士 3名 (4月 2名 8月 1名 1月 1名)

内部異動 理学療法士 : 3名 (4月 1月)

退職者 理学療法士 3名 (12月 1日 1名 3月 31日 2名)

リハビリテーション士長 1名 副理学療法士長 1名 主任理学療法士 1名

主任言語聴覚士 1名

専門技術認定資格

- ・ 3学会合同呼吸療法認定士 : PT3名 ST1名
- ・ NST 専門療法士 : ST1名
- ・ 日本理学療法士協会専門理学療法士 基礎 : PT1名
- ・ 日本理学療法士協会認定理学療法士 運動 : PT1名 呼吸 : PT2名 生活地域 : PT1名
- ・ 日本理学療法士協会、言語聴覚士協会認定  
地域ケア会議推進リーダー : PT4名 ST1名  
介護予防推進リーダー : PT4名 ST1名  
地域リハビリテーション推進員 : PT4名 ST1名
- ・ がんのリハビリテーション研修会受講修了者 (施設基準取得条件)  
医師 3名 看護師 4名 PT5名 OT2名 ST1名
- ・ 日本腎臓リハ学会 腎臓リハビリテーション指導士 : PT1名  
透析中の運動療法等指導加算 算定条件研修会修了者 : PT3名

### 【業務の内容】

#### 1. 施設基準 (診療体系) \*実績別表

- ・ 疾患別リハビリテーション (入院/外来) : 脳血管Ⅱ 運動器Ⅰ 呼吸器Ⅰ 廃用Ⅱ
- ・ がんのリハビリテーション
- ・ 摂食機能療法 摂食嚥下機能回復体制加算
- ・ 透析中の運動指導等における加算 (評価, プログラム立案, 指導)
- ・ 地域包括ケア病棟 (専従理学療法士 PT1名)

#### 2. 診療補助

嚥下造影検査, 嚥下内視鏡検査, 神経心理学的検査, 時間内歩行試験, 診断書計測

#### 3. 三島市 リハビリテーション職員派遣支援

- ・ 介護予防体操サポーター養成講座、サロン等体力測定支援 オーラルフレイル講義
- ・ 自立支援サポート会議

#### 4. 教育・研修

- ・ リハセンター内勉強会 3-4回/月

内容 : 症例検討会, 新入職員研修, 接遇研修、BLS・嘔吐対応トレーニング, 予演会

危険予知トレーニング，リスク管理，腎臓リハ等

- ・臨床実習生の受け入れ指導 1校 1名

5. 学術活動（学会・論文）

- ・小野和春：透析中の運動療法における心身機能変化～透析時運動指導加算算定症例を通して～  
第8回 JCHO 地域医療総合医学会 2023年12月8～9日 三重
- ・苅谷充涼：看護・介護スタッフと協働した生活リハビリの取り組み～振り返り分析～  
第8回 JCHO 地域医療総合医学会 2023年12月8～9日 三重

【2023年度総括および今後の展望】

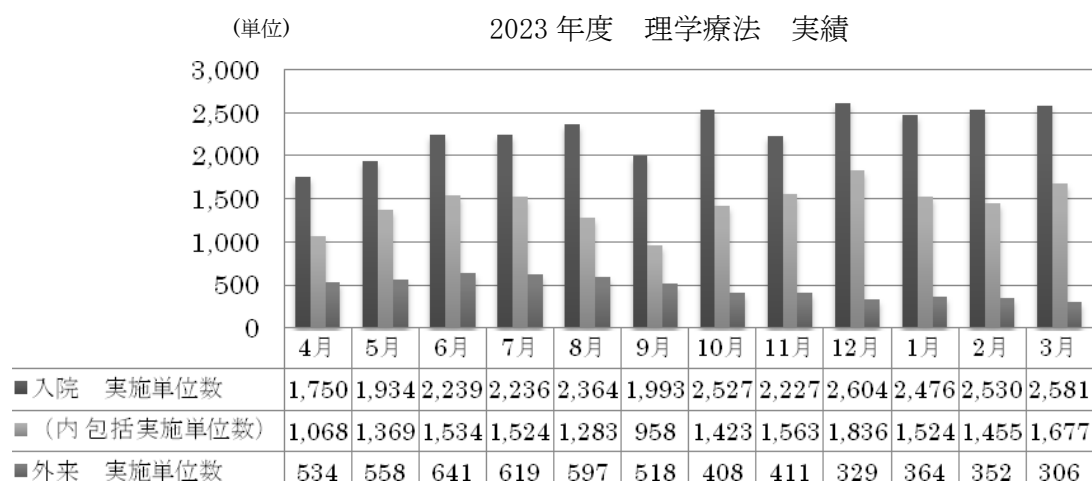
2023年度 リハビリテーションセンター 目標

1. リハビリテーションスタッフの質の向上とマニュアルの周知
2. OT 体制作り
3. 腎臓リハビリテーション教育プログラムの構築と発信

2023年度は上記目標を掲げ取り組んだ。PT2名増員しスタート。5月に適時調査が入り、昨年度より進めていたマニュアル整備と周知の取り組みが役立ち無事に終わることができた。年度途中で医師の退職があり、リハ処方数の減少が危惧されたが、廃用症候群のリハ処方が増え減少を補えた。OTは地域包括ケア病棟に直接入院する患者への初日評価を実施し、家族と会話の場を設け信頼関係の構築および入院時療養環境の整備に関りサービス向上を図った。また、腎不全患者のリハ処方が増加した。心疾患や糖尿病を合併しリスクの高い患者が多く、リスク管理教育が課題である。今年度は保存期腎不全患者への教育入院パスを作成した。また、がんリハ算定数が増加し、乳がん患者へのアンケート調査を行いQ&A集作成に取り組んだ。STに摂食嚥下評価の依頼が増加している。次年度OT1名ST0.8名の定数増が承認されたが、採用に至っていない。

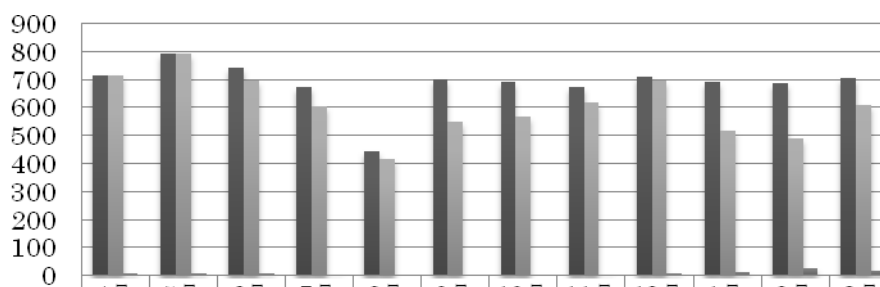
2024年度は診療報酬、介護報酬、福祉制度のトリプル改定がある。急性期リハの充実と医療介護福祉連携が要点とされており、土日祝日のリハ実施、入院早期からのリハ介入、転院先病院との連携が課題である。増員計画を立てながら対応していきたい。また、当院は次年度よりJCHO 東海北陸地区から東日本地区に移転する。専門職をはじめ、地区病院と連携を強化していきたい。

(別表) 2023年度リハビリテーションセンター 実績



### 2022年度 作業療法 実績

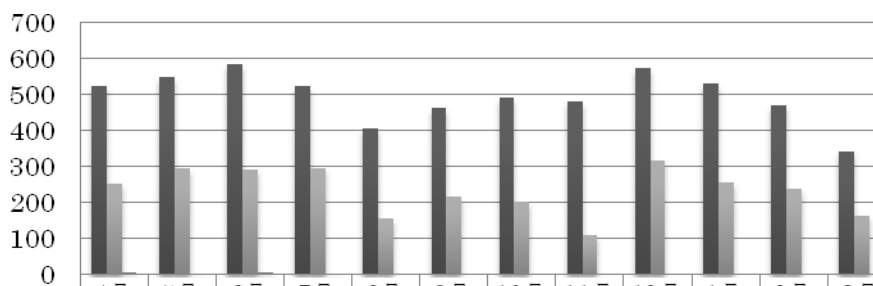
(単位)



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■入院 実施単位数	713	791	740	671	445	699	691	672	708	693	685	704
■(内 包括実施単位数)	713	791	695	605	415	550	567	617	696	517	489	609
■外来 実施単位数	9	9	9	3	0	0	0	2	6	12	27	18

### 2023年度 言語聴覚療法 実績

(単位)



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■入院 実施単位数	524	549	585	525	406	464	493	479	573	529	469	343
■(内 包括実施単位数)	254	295	292	295	157	215	201	108	317	255	239	162
■外来 実施単位数	7	4	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0

### 2023年度 摂食機能療法 実績

(回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
摂食機能療法(全体)	404	409	323	444	435	525	477	364	370	382	397	313
(内 ST 実施回数)	19	18	10	12	32	82	73	34	14	26	63	50
摂食嚥下機能回復体制加算	13	9	20	33	27	22	27	12	14	23	28	15

以上



## 臨床工学室

### 【スタッフ】

臨床工学技士長 杉田栄一  
 副臨床工学技士長 西尾勝  
 主任臨床工学技士 満間大介  
 臨床工学技士 藤野瑛里加、高橋壮太郎、山内諒聖

### 【業務の内容】

1. 血液浄化業務 透析装置 34台 血漿処理装置 1台

血液浄化件数 12625回、HD 12572回、On-lineHDF 28回、CART 13回

2023年度	導入	転入	転出	離脱	旅行者
患者数(名)	16	100	104	3	1

透析液水質管理 透析液清浄化ガイドライン Ver.2.01 を遵守

透析液水質確保加算2

2. 医療機器保守管理業務 定期点検、使用前、使用后点検、使用中点検

医療機器使用患者数と延べ使用回数

2023年度	人工呼吸器	NIPPV	輸液ポンプ	シリンジポンプ
使用患者数(人)	21	94	307	385
使用回数(回)	140	668	2632	1447

医療機器安全管理の取り組み

- 1) 手術室、麻酔器日常点検
- 2) 医療機器使用患者安全巡視確認、安全使用確認
- 3) 病棟ME棚にて医療機器、消耗品管理

3. 血糖測定器管理業務 新規 18台

4. 医療機器購入・更新業務

2023年度 更新ME機器

一般名称	台数
パルスオキシメータ	2台
オージオメータ	1台
心電・呼吸・SpO2送信機	1台
電子血圧計	16台
高圧ガスレギュレーター	2台
透析システム	1式
生体情報モニタ	2台

## 5. 学会発表

11月 JCHO学会 三重

「当院における透析センターの医療安全への取り組み」高橋

「穿刺困難患者に対するエコーガイド下穿刺の有効性と今後の展望」満間

## 6. 地域連携

三島地区透析施設災害時協力ネットワーク

災害に対する患者様の不安を少しでも緩和するため、施設間で情報を共有し震災の対策を講じている。毎月第3火曜18時より会議 ネットワーク代表

## 7. 医療法等改正に伴う臨床工学技士業務拡大による研修会参加 高橋

### 【2023年度総括】

血液浄化回数が2023年度は2022年度に比べ、11863回から12625回に増加していた。転入患者は約1.2倍増加した。CAPD患者も増加した。血液透析患者8時穿刺開始に対応するため、全日、7時からの早出勤務を開始した。

### 【今後の課題と展望】

1. 他部署との更なる連携を図り、情報を共有し安心と安全な医療を提供する

①患者個々に配慮した医療を提供する為に、治療方針の情報共有と継続的な治療補助を行う

②医師の負担軽減と標準的な質の高い医療を提供するために、患者個々にあった治療法の提案を行う

③医療機器安全情報の共有を行う

④医療機器取り扱い研修会を企画し、医療機器取扱者のスキルアップを行う

⑤医療機器のトラブル対応状況を把握し、随時マニュアルの改訂を行う

⑥常に、安全管理、感染管理を意識しマニュアルの改訂を行う

⑦常に、出来ること、やるべきことを考え、タスク・シフティング、シェアリングを推進する

2. 治療に関する信頼を確保し、安定的な患者確保に繋げる

①血液浄化法、医療機器操作、保守管理を、日常業務から学ぶ体制を築き、治療に対する信頼を確保する

②地域病院からの治療依頼をいつでも受け入れられる体制を確保し、積極的な医療の提供を行う

③学会、研修会に積極的に参加し、常に新しい情報を習得する

④災害時に備えて、地域病院との連携を深めネットワーク強化に努める

3. 一層の業務改善を図り、コスト意識を持った医療機器の保守管理を行う

①医療機器、医療材料を効率的に運用し、医療機器管理にかかる費用を削減する

②医療機器保守管理を徹底するとともに、効率的な保守作業を行う

③アイデアを出し、チャレンジを積極的に行う

## 栄養管理室

### 【スタッフ】

栄養管理室長 田中真帆（2022年4月～2023年12月）  
栄養管理室主任 海野優子  
管理栄養士 加納有葉（～2024年3月） 瀬古実里（2023年4月入職）  
委託給食会社 日清医療食品株式会社（23名）

### 【業務の内容】

#### 院内業務

- ・病棟業務：各病棟に管理栄養士配置
- ・外来栄養指導：月～金
- ・入院栄養指導：特食加算算定者・癌、低栄養、嚥下障害者対象
- ・健診オプション栄養指導：随時
- ・NST活動：摂食嚥下（嚥下造影検査）・褥瘡
- ・カンファレンス参加：整形、ケモ、外科、脳外、総合診療、麻酔科、腎臓内科
- ・NST勉強会講師（褥瘡と栄養管理、NST修練実地報告）

#### 院外活動

- ・静岡県給食協会活動：海野
- ・三島市自立支援サポート会議：海野

### 【2023年度 総括】

#### 食数

- ・一般食：81772食
- ・特食加算食：25791食（特食加算食割合23%）
- ・濃厚流動食：3238食

#### 栄養指導件数

- ・外来栄養指導件数：新規85件／継続816件
- ・入院栄養指導件数：新規173件／継続4件
- ・集団栄養指導件数：0件
- ・健診栄養指導件数：7件

#### 資格

NST専門療法士取得（田中真帆）

#### 実習生受け入れ

日本大学短期大学 10名 日本大学専攻科生 4名 鈴木学園歯科衛生士学生 31名

#### 役員

- ・静岡県給食協会沼津伊豆支部 委員

### 【今後の課題と展望】

#### 今後の課題

- ・2023年度後期は栄養管理室スタッフの退職が重なり欠員のまま業務を遂行。
- ・少人数の部署のためそれぞれが他の業務を理解し協力できる体制が必要だと痛感した1年となった。未経験の業務がないよう教育やマニュアル等の整備を行い、現在も業務を適宜修正している。
- ・入院：嚥下困難な患者様に安心して食べられる献立作り。嚥下食内容検討。
- ・患者様に満足して頂けるよう、献立の見直しと行事食を充実させる。(高齢者に対する献立検討)
- ・入院の早期介入から退院を視野に入れた栄養管理体制を整備したい。腎臓教育入院も始まり職員の知識向上や専門資格取得なども考慮していきたい。

#### 今後の展望

- ・栄養管理体制を整備

部署では入院患者様ひとりひとりの栄養管理を実施し、チームではチーム医療に参加していきたい。

行事食		お楽しみメニュー	
4月 6日	【花祭り】五目ちらし寿司、春野菜の炊合せ	19日	【旬の野菜の日】豆ごはん 金目鯛の煮つけ メロン
5月 3日 5日	【憲法記念日】山菜おこわ 【こどもの日】ミックスプレート	18日	【大阪郷土料理】箱寿司
6月		16日	【静岡ごはん】とうもろこしご飯、金目鯛の野菜蒸し 三島コロケ メロン
7月 7日 30日	【七夕】七夕そうめん 【土用の丑の日】ひつまぶし	19日	【静岡ごはん】三島馬鈴薯と鶏肉の揚げ煮
8月		14日	【三島野菜の日】トマトの卸和え ナスの味噌汁 巨峰
9月	【敬老の日】赤飯、金目鯛の煮つけ	8日	【地場野菜の日】メンチカツ、秋茄子の銀あんかけ、さつま芋と南瓜サラダ
10月 10日	【スポーツの日】	11日	【名古屋飯】味噌カツ さつま芋とリンゴの重ね煮 澄まし汁 シャインマスカット
11月 23日	【勤労感謝の日】おこわ、栗のデザート	15日	【三島料理】三島サツマイモコロケ、メロン
12月 25日	【クリスマス】クリスマスケーキ	14日	【地場野菜の日】静岡産豚カツ、ふろふき大根、冬野菜の浅漬け
1月 1日	【元旦】赤飯、祝い肴、金目鯛の煮つけ	10日 11日	【地場野菜の日】静岡産豚カツ 【鏡開き】お汁粉
2月 3日 14日	【節分】海苔巻き 【バレンタイン】チョコデザート	2日	【三島野菜の日】三島コロケ、ふろふき大根、白和え、伊豆のフルーツ
3月 3日	【ひな祭り】ちらし寿司	9日	【三島野菜の日】金目鯛、春野菜、メロン

看 護 部 門

# 看護部

看護部長：大沼 以恵

【看護職員】総数 234 名 2023 年 4 月

管理	看護部長		副看護部長		看護師長		副看護師長	
	1 名		1 名		9 名		12 名	
	保健師	助産師	看護師	准看護師	看護補助者	介護福祉士	介護員	
常勤 看護職	病院	3 名	3 名	111 名	1 名			
	老健			9 名	2 名		22 名	2 名
任期付 看護職	病院			2 名		10 名		
	老健			1 名				
非常勤 看護職	病院			29 名		5 名		
	老健			5 名			2 名	4 名

## 【研鑽】

副看護師長登用試験合格 渡辺宏美 井上美穂 小出愛美 鈴木麻紗美 寺田由美子

JCHO 保健師助産師看護師実習指導者講習会修了 鈴木麻紗美 米田美紅

JCHO 地域医療総合医学会発表 相原木綿子 勝又裕美子 鈴木なが子 廣澤文子  
星合薫 高梨秀敏 鈴木光陽 (7 演題)

特定行為研修実施 創傷関連 1 名 . 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入 1 名

JCHO 新任管理者研修参加 副看護部長 1 名 看護師長 1 名 副看護師長 3 名

医療安全管理者研修修了 堀口瑞穂 勝間田智美

JCHO 専門研修修了 21 名

## 【貢献】

能登半島地震支援 DMAT 隊（看護師 2 名）派遣 支援看護師 2 名派遣

## 【看護職の質向上】

1. 入退院支援の充実とサービスの質向上
  - ・地域連携室看護師 3 名増員 各病棟各 1 名を入退院支援専従看護師として配置
2. 「思いやりのある看護」の看護理念浸透と醸成
3. 各部門における倫理カンファレンスの定例化と ACP 活動の推進の定着
4. 手術室、内視鏡室合併運営による看護師スキルの向上と業務の効率化
5. 看護補助者質向上支援
  - ・看護補助者委員会設立による看護補助者スキル向上のための人材育成の充実の開始
  - ・看護補助者の常勤採用起用による看護補助者のスキル向上と定着

## 【病院運営参画】

1. 夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算取得
2. リリース体制による看護職員夜間 16 対 1 配置加算取得の維持
3. 急性期看護補助体制加算（25 対 1）5 割以上の上位加算取得

# 外 来

## 【スタッフ】

看護師長：齊藤路子

副看護師長：多田和美

常勤看護師：7名 非常勤看護師：16名 クラーク：13名

## 【業務内容】

外来診療科：眼科・脳外科・呼吸器内科・糖代謝内科・腎臓内科・循環器内科・消化器内科・  
乳腺外科・外科・整形外科・ペインクリニック・泌尿器科・耳鼻科・皮膚科・内視鏡室

## 2023年度実績数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	3473	5668	6172	5714	6022	5793	5783	5449	5399	5168	4958	5246
月1日	273.8	283.4	280.5	285.7	273.7	289.7	275.4	272.5	257.1	272.0	260.9	262.3
GF	218	424	527	428	423	464	489	448	328	273	261	144
CF	24	35	45	41	44	46	41	42	48	29	34	25
ERCP	4	1	2	1	3	2	1	3	3	2	2	1
BF	4	1	4	3	1	4	2	1	7	1	1	3
EMR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PEG 造設	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0
PEG 交換	3	1	0	1	0	2	1	1	2	1	1	0
ケモ	42	31	33	24	48	35	35	39	29	21	33	31

## 【2023年度総括】

2023年度は1日平均患者数が273.9人であり、昨年度と比較してマイナス8.5人であった。脳神経外科・整形外科・麻酔科の常勤医が不在となり患者数の減少となった。特に脳神経外科では診療日も少なく近隣の病院へ紹介するなど患者減少につながってしまった。

常勤医が不在の中、新たに非常勤医師が外来診療を行うことになり、患者獲得のため体制を整備した。医師と診療協力を行い救急患者受け入れや、地域連携室との連携を密にし、患者を確保することができた。

引き続きマニュアルの整備し、安全に業務を行うことができるよう業務改善に取り組むことができた。患者の声をフィードバックしクレーム件数は減少している。

## 【今後の課題と展望】

外来看護の質の向上と業務改善の意識を高めるため、0レベルインシデント報告を10%増加させ良質で安心安全な医療を提供していく。接遇に関する勉強会を継続的に開催し、常に患者様を意識した看護・医療が提供できるようにしていく。スタッフが意識を高めながら外来業務を行うことができるようにいき、JCHOの患者満足度85%以上を目指していく。

継続事項として、患者獲得のために地域連携室との連携を密にし、医師と診療協力、タスクシフティングを行いながら1日平均患者数が280名以上獲得できるようにしていく。

## 5 階 病 棟

### 【スタッフ】

看護師長：向笠亜子                      副看護師長：園田優希  
 常勤看護師：25名                      看護補助員：4名

### 【業務内容】

許可病床数：55床

看護基準：10:1

入院診療科：外科 整形外科 脳神経外科 泌尿器科 乳腺外科 眼科 腎臓内科

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数 (人)	110	141	140	128	160	122	127	100	114	114	125	124
退院患者数 (人)	129	140	122	128	150	131	143	97	120	104	122	135
病床稼働率 (%)	78.2	62.5	76.2	87.3	88.6	93.8	81.3	48.6	54.3	70.2	86.6	65.0
地域包括 病棟転床数 (人)	14	12	16	14	22	12	9	10	10	14	15	4
看護必要度 (%)	19.3	20.9	15.5	15.2	14.1	14.5	14.3	21.5	21.5	21.6	20.2	15.1

2023年9月より看護必要度Ⅱで集計

### 【2023年度総括】

インシデント報告に関しては、レベル3a以上のアクシデントは発生していない。  
 緊急入院の割合は平均41%であり、病棟稼働率74.3%であった。緊急入院に関わる時間が多かった。  
 そのため、遅出勤務を取り入れることや、チーム編成を3チームから2チームとし、チーム内で受け持ち人数を調整した。腎臓内科の患者さんの受け入れが増え、新しい業務に対して手順を作成し統一した看護が実践できるよう整えた。スキルアップでは、個々がラダー取得のための知識向上につとめることが出来た。

### 【今後の課題と展望】

インシデントの報告が多いことから、業務が煩雑とならないようリーダーを中心に、後輩指導ができる人材の育成に努めたい。急性期治療が終了した患者さんは、医師と情報を共有し、地域包括ケア病棟へ転棟がスムーズに行えるよう実施していきたい。



## 4 階病棟(地域包括ケア病棟)

### 【スタッフ】

看護師長：勝又裕美子                      副看護師長：瀬戸由貴  
 常勤看護師：22名      非常勤看護師：1名                      看護補助員：10名

### 【業務内容】

許可病床数： 50 床

看護基準：13：1

入院診療科：総合診療科・消化器内科・呼吸器内科・外科・麻酔科・泌尿器科・整形外科

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	35	41	42	50	42	40	44	48	39	37	37	27
退院患者数	38	44	38	48	44	39	45	52	41	32	37	37
平均 在院日数	43.7	32.8	33.4	31.3	33.3	36.3	33.2	25.7	35.8	42.0	37.3	41.1
病床稼働率	87.5	90.1	88.1	93.0	89.0	95.5	95.3	85.5	91.3	93.4	95.2	95.4
地域包括 病棟転床数	18	19	24	27	23	24	26	18	17	25	22	13
看護必要度	23.3	14.0	15.5	17.5	17.0	12.6	17.1	12.3	12.4	15.5	8.6	11.5
在宅復帰率	83.7	85.7	83.8	74.4	87.2	89.2	88.1	85.4	85.0	86.2	88.2	82.4
自宅/入院%	34	44	26	36	33	30	36	50	49	30	38	33
平均 在院患者数	36.5	45	44	46.5	44.5	47.8	47.6	42.8	45.6	46.7	47.6	47.7

### 【2023 年度総括】

病床稼働率 90%以上、在宅復帰率 85%以上を目標とし取り組んだ。入院患者総数は 482 名、退院患者総数は 495 名であった。平均在院患者数 45.2 名であり、前年比 3.6 人増加した。地域連携室と情報交換し、積極的に入院を受け入れ自宅からの入院は月平均 30%以上を確保できた。在宅復帰率は 84.8%となり、前年度比 2.2%減少となった。認知症患者の割合は 50%以上/月であり医療行為が少なく看護必要度の規定 12%以上の確保が困難な月もあったが、平均 14.7%であった。

新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、デイルームでの集合レクリエーションを再開することができた。患者が安心して自宅に帰宅し、かつ自分らしい生活を行うことが出来るよう看護師と看護補助員が連携し在宅復帰を支援するリハビリテーションやレクリエーションに取り組んでいくことができた。

### 【今後の課題と展望】

前年度、在宅復帰率 84.8%であり目標を達成できなかった。病棟リハビリテーションやレクリエーションを計画的に取り組み、患者の ADL 向上に努め在宅復帰率 90%保持してく。また、地域包括ケア病棟の広報活動や看護の振り返りを積極的に行い良質で思いやりのある看護を提供し、地域より選ばれる病棟を目指し活動していく。

## 3 階 病 棟

### 【スタッフ】

看護師長： 小川麻由美                      副看護師長： 渡邊登実  
 常勤看護師： 25名 非常勤看護師： 2名 看護補助員：4名 クラーク：1名

### 【業務内容】

許可病床数： 54 床

看護基準：10:1

入院診療科：呼吸器内科・消化器内科・眼科・総合内科

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院患者数	66	45	55	75	73	66	60	46	54	71	66	36	59.4
退院患者数	64	43	47	63	62	70	57	38	42	45	75	28	52.4
平均入院数	43.8	36.5	43.8	43.5	48.9	47.5	40.5	31.9	37.7	42.0	47.4	38.3	41.8
病床稼働率%	81.1	79.6	81.1	80.5	90.5	87.9	75.0	59.0	69.8	77.7	87.7	70.9	77.4
地域包括 病棟転床数	9	5	8	7	12	9	8	9	12	12	3	6	8.3
看護必要度	26.1	23.2	31.4	22.0	24.0	30.8	34.5	32.7	36.1	30.9	20.0	24.0	27.9

※看護必要度Ⅰから、9月にⅡへ移行

### 【2023年度総括】

75歳以上の患者が7割を占める。高齢者への療養環境整備は毎年の課題である。今年度はコロナ禍で面会制限のある中で患者家族に提供できる環境の整備に努めた。患者の様子を家族からの電話対応時間枠を設けて進捗の様子を伝えること、MSWとケアマネジャーとの連携の強化にて入退院によるベッドコントロール調整を円滑に行えた。CST介入基準である患者に対して、カンファレンスにて計画を検討、修正を繰り返し、抑制の低減、低床ベッド、センサーコールの提示できるナースコール機器で対応するなど病棟内で工夫した。また、慢性疾患と併存して生活する高齢者に対して、早期の退院調整を多職種と連携し地域包括病棟（平均8.3名/月転床）、訪問看護ステーション（りあん）に10名/年と繋ぐことができた。

誤嚥性肺炎や、認知症での鬱、活気低下を症状とする患者は、食事摂取困難、栄養価の低下が生じやすい。NST専門療法士3名配置しカンファレンスの充実を図った。病棟内看護研究にて褥瘡予防対策ポジショニングなど学習会や実践から予防対策へのスタッフの認知は高まり、現在継続ケア実践中である。

新型コロナウイルス感染症、結核、VRE、MASA、緑膿菌など感染症に対する取り扱いスキル安定し環境の整備、患者家族対応、検査の把握など円滑に実施できている。標準予防策の徹底と理解は看護質担保となった。

### 【今後の課題と展望】

内科疾患患者の療養環境について、安全・感染管理を考慮し、患者に寄り添う「思いやり」看護実践を行う。また、栄養価の確保に重点をおき、褥瘡発生予防と経口摂食アプローチからNST活動を支援し在宅での生活へつなげる看護を行う。

# 透析センター

## 【スタッフ】

看護師長：山本英理      副看護師長：村田絢子  
 常勤看護師：7名      非常勤看護師：4名

## 【業務内容】

許可病床数：34床（重症室1床、感染症用2床含む）  
 血液浄化（HD）、腹膜透析外来（PD）、シャント外来、シャント血管拡張術（PTA）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HD患者数	95	94	93	96	102	100	105	99	91	95	90	96	1156
導入	0	0	1	3	3	0	2	1	2	2	1	1	16
転入	6	10	8	8	12	8	10	6	6	9	6	11	100
転出	9	10	9	9	12	6	13	8	5	10	7	6	104
PD患者数	36	39	39	39	42	44	44	41	41	42	41	42	490
導入	1	4	1	2	3	4	2	3	0	2	4	1	27
転入	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
転出	2	1	1	2	0	0	0	3	2	0	1	0	12
離脱	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	3	9
PTA件数	27	22	22	16	29	20	20	29	27	18	22	24	276

## 【2023年度総括】

腹膜透析患者の導入が月平均2名あり、昨年度より66%増となった。PD外来では全身管理と指導、出口部、排液のチェックやPDの手技の確認、患者・家族の負担の有無の確認、HD併用へ移行時の指導、チューブ交換など継続した看護を行っている。そして、血液透析患者も積極的に受け入れ透析稼働率は118.6%となり、7.1%増となった。PTAも緊急対応も行い、前年度より65件増となった。

末期腎不全患者の継続看護を行なっていくため、内科外来や病棟と連携し、外来通院時から関わり腎代替療法の説明や腹膜透析のデモンストレーションを行い、患者の意思決定支援を行っており、入院後は病棟スタッフと情報交換し、退院指導を行い外来通院に繋がるよう介入していった。安心して安全な医療・看護の提供を行っている。

## 【今後の課題と展望】

透析患者やその患者を支える家族の高齢化が進んでいる。透析患者が健康で安心して生活できるよう、看護師はより一層知識を深め、患者・家族に寄り添った看護を提供していく必要がある。患者や家族とコミュニケーションを十分に図り、他職種とも情報を共有し、包括的な指導やケアを提供していきたいと考える。また、腹膜透析患者の腹膜炎での再入院も増えているため、患者が自己管理をできるよう指導し、ライフスタイルに合った生活を継続できるようサポートしていきたい。そして、外来や地域連携、病棟との連携を深め、外来・入院の透析患者の受け入れを積極的にいき、病院経営へ参画していきたいと考える。

# 健康管理センター

## 【スタッフ】

看護師長：加藤知佐      副看護師長：廣田俊子 川村晃子  
 常勤保健師：2名 常勤助産師：2名 常勤看護師：3名 非常勤看護師：5名

## 【業務内容】

人間ドック、生活習慣病健診、三島市特定健診、検査後二次検査、採用時健診等の健診や予防接種、特定保健指導の実施。また、健診バスによる巡回健診。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人間ドック	73	78	128	117	116	122	187	184	175	139	113	55
生活習慣病健診	2247	2613	3305	2689	3847	3041	3156	2858	1912	1269	1700	1157
予防接種	5	2	6	3	5	5	174	1640	360	11	244	58
保健指導	31	37	59	63	54	68	97	59	70	76	47	50
その他	84	1060	1374	1365	1250	1600	2309	285	258	198	235	92
巡回健診（上記健診と重複あり）	1868	1910	2287	2734	2125	2061	2628	1952	1033	926	984	596

## 【2023年度総括】

周産期棟を利用してのドック健診が2年目となり、健診センター全体での利用アンケートを実施した。人間ドックでは、個室での更衣や鎮静後の休息については高評価である一方、検査が優先的に行われる優遇はないため個室を使用するメリットがないとの健診者の声もあり改善を模索する一年となった。各職種の接遇について、指摘された部署に対してフィードバックする、待ち時間に関しては検査順番等の変更にて対応した。

保健指導については、今年度保健師1人減ったにも関わらず、看護師と協力し健診者に積極的な声掛け、業務調整を行った事で目標の250件以上の実施となった。

三島市健診は期間が決められているが、今年度予備期間が廃止され短くなった。家庭や仕事の関係で期間内に受診できなかった住民に対し三島市より委託を受け期間外休日に検診を実施。200名以上の受診者がいることを踏まえ、健診者の確保には休日健診の必要性を感じた。

助産師は産後ケアや三島市より委託を受け産前母親学級等の事業を実施した。当院の産後ケアはマンツーマンであり母親が休息できると評判であり、またチラシの配布、予約の整備をしたことで昨年より利用者が52.7%アップとなった。

## 【今後の課題と展望】

限られたスタッフで健診者の満足度を向上させ、健診者数の増加に繋げるためには人間ドック15名に対して事務3名看護師2名の体制は改善が必要。また、スムーズな案内をするために適宜各部署とのコミュニケーションが必要で随時改善の話し合いが必要。また、平日受診が難しい乳がん検診を2回/月土日開放し増員に繋げる方向。事務職員と協力し対応していく必要がある。

保健指導は件数も重要だが、対象者1人1人が最後まで完結する件数も重要。当院で保健指導を受けて良かったと思ってもらえる対策を考えていく。

# 手術室

## 【スタッフ】

看護師長 : 勝間田智美  
副看護師長 : 廣澤文子  
常勤看護師 : 4名

## 【業務内容】

総手術件数 : 1078 件 (全身麻酔手術 239 件)  
手術診療科 : 消化器外科・整形外科・泌尿器科・乳腺外科・眼科・脳神経外科  
腎臓内科 (血液透析科含む)・麻酔科 (ペインクリニック科含む)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
手術件数	96	86	101	91	101	90	100	87	66	76	98	85	1184
全身麻酔	18	14	18	25	23	27	23	18	14	19	22	18	239
外科	9	4	10	12	9	15	8	9	7	12	11	10	108
整形	3	5	3	2	1	0	0	1	0	1	0	1	17
泌尿器	9	8	6	0	3	1	6	6	3	7	7	7	63
脳外	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
腎内科	5	7	4	8	10	7	8	8	4	6	12	3	82
眼科	54	48	63	49	65	54	62	50	42	42	58	52	639
乳腺	9	7	6	9	12	11	12	12	9	8	8	11	114
麻酔科	7	7	8	11	2	1	4	1	1	0	2	1	54

## 【2023 年度総括】

整形外科、脳外科、ペインクリニック科の医師がいなくなったことで手術件数が減少したが、全身麻酔手術を 239 件実施でき、今年度目標としていた全身麻酔手術 200 件を上回ることができた。昨年度に引き続き定時、緊急ともに麻酔科管理手術患者に周術期外来を実施。他職種連携で、安心して手術を受けていただけるよう取り組んだ。術後悪心・嘔吐 (PONV) をテーマに看護研究をおこないながら麻酔科医師、病棟看護師と連携し、術後に患者様が PONV を発症することなく安楽に過ごすことができるよう努めた。また、手術カンファレンスを週 1 回開催し、医師、手術室看護師、病棟看護師が参加して手術患者の情報を共有することで、安全な周術期管理に努めた。コスト管理では、術衣、ドレープなどのリユース品導入を検討。次年度も引き続きコスト削減につながるか検証していく。スタッフのスキルアップを図るため、部署内で勉強会を企画・実施した。

## 【今後の課題と展望】

内視鏡室と合併となり、手術室、内視鏡看護師がどちらの業務もできるようスキルアップを図る。医師が少ない状況の中でも、安全に手術が実施できるよう、他職種で連携、協力していく。

## 訪問看護ステーションりあん

### 【スタッフ】

看護師長：相原木綿子  
常勤看護師：3名

### 【業務内容】

疾病や負傷によって看護や介護が必要な状態にある方を対象に看護師が本人の居宅を訪問し、疾病の観察や清拭、褥瘡の処置、カテーテルの管理、リハビリテーション、家族への療養上の指導など介護に重点を置いた看護サービスの実施。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医療保険延べ回数	110	124	157	115	108	122	89	111	108	89	127	149
医療実利用者	13	13	11	12	11	14	10	12	16	13	11	17
介護保険延べ回数	47	55	53	55	86	129	163	143	175	156	130	141
介護実利用者	9	14	14	14	18	27	29	27	32	32	29	31
総延べ回数	157	179	210	170	192	251	252	254	283	245	257	290
総利用者数	22	27	25	26	29	41	39	39	48	45	40	48

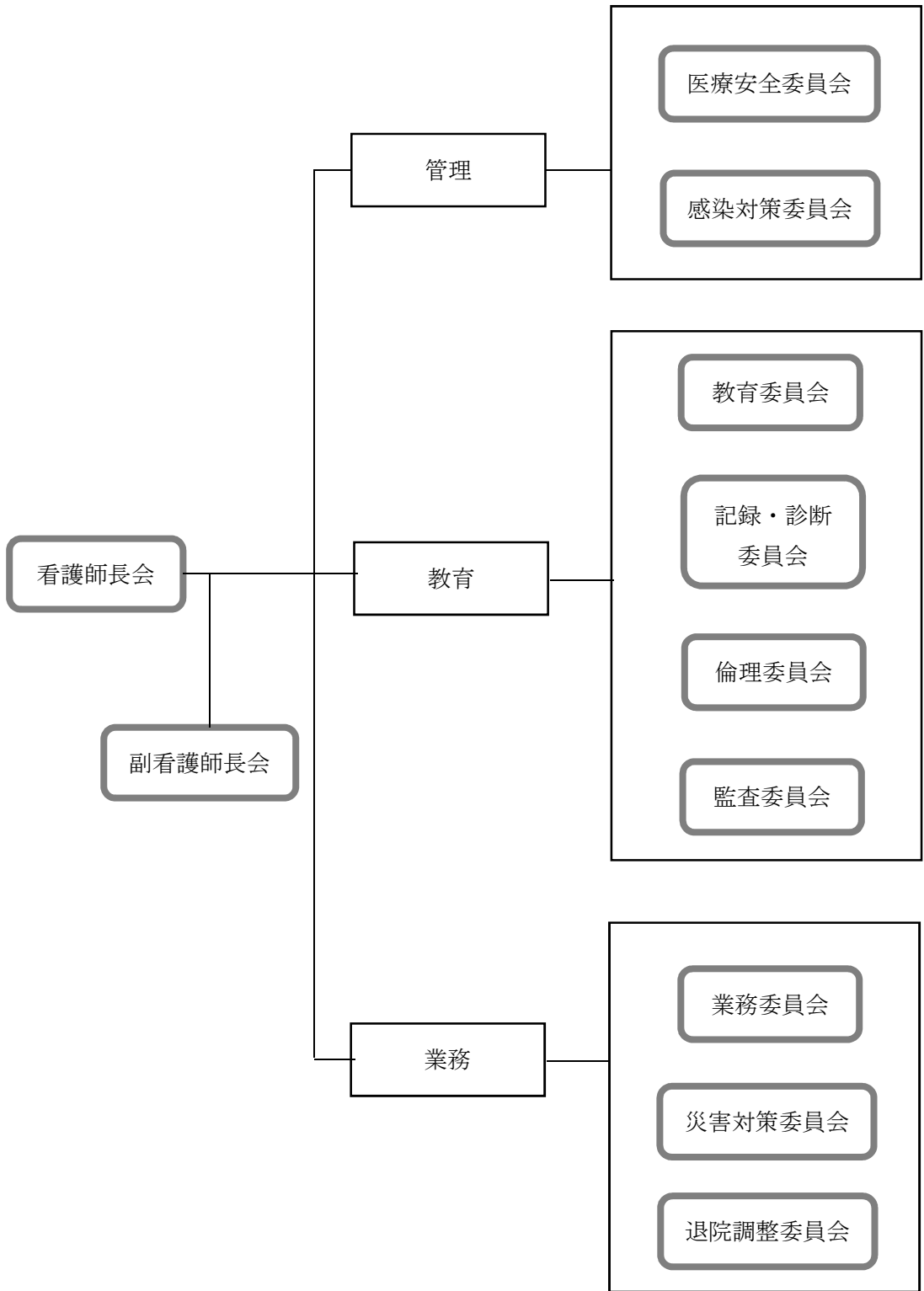
### 【2023年度総括】

2023年2月に開設した。地域包括ケア病棟入院料1の算定要件であるみなし看護と並行し、業務をすすめてきた。もう一つの算定要件である、訪問看護基本療養費算定回数3カ月間で300回以上を本年5月よりみたしたため、みなし訪問看護は終了なり、訪問看護ステーションのみの活動となった。ほとんどの利用者は当院退院後の利用者であり、退院後の生活で直面する問題や不安によりそい住み慣れた地域でできる限り自立した自分らしい生活を送ることができるよう支援を行ってきた。徐々に地域のケアマネジャーや近隣の3次救急病院、静岡がんセンター等からの依頼も増えていった。カフティポンプやキャドレガシーポンプなどの在宅用医療機器の取りつかいを行い1日でも長く在宅での生活を送ることができるよう支援を行ってきた。

### 【今後の課題と展望】

訪問看護ステーション開設2年目となった。今後は、より迅速な医療や看護を提供することで、利用者の方が、少しでも不安や苦痛を軽減して生活を送ることができる体制を整えることが当ステーションの課題である。認定看護師取得や機能強化型訪問看護ステーション、看護体制強化加算、サービス強化型の取得を目指し体制を整え、訪問看護師スタッフのキャリアアップや質の高い訪問看護サービスの提供を目指す。

看護部委員会組織図





## 看護部 安全対策委員会

### 【スタッフ】

委員長：勝間田智美

副委員長：中西美保

委員会メンバー：牧野良麻 佐々木真希 長池沙映 松本栄子 佐藤和子 秋本しのぶ  
鈴木穂冬 鈴木なが子 紅林やよい 早野晃世

オブザーバー：鈴木雅代（医療安全管理者）

### 【2023 年度総括】

- 目標：1. インシデント・アクシデント報告を啓蒙し、院内目標の達成につなげる  
2. 医療安全管理マニュアルの見直し・作成をおこなう  
3. 転倒・転落防止に取り組み、インシデント・アクシデントを昨年度より削減する  
4. 業務が安全に実施できるよう、医療安全マニュアルを活用する  
5. 研修を開催する

### 【目標に対する取り組み・評価】

1. インシデント・アクシデントレポートの提出を、病棟部門月 15 件以上、外来部門月 5 件以上を目標に啓蒙した。看護部報告数 621 件。目標 720 件には届かなかったが、0～1 レベル報告数が多く、患者に影響を与える前に対策が検討でき、再発防止に努めることにつながった。
2. 看護部医療安全マニュアル「骨折時の看護」「頭部外傷時の看護」を新たに作成した。また、既存のマニュアルを見直し修正した。
3. 今年度転棟・転落報告は 196 件（病院 146 件、老健 55 件）。昨年度より 18 件増えてしまった。病院での発生が 23 件増えた。老健は職員が少なくなる夜間にセンサー対応の遅れでの転倒が多く見受けられたが昨年より減少した。事象については各部署で SHELL 分析を実施するよう啓蒙し、予防対策の検討をおこなった。
4. 入院患者の離院・離棟が発生した際マニュアルを活用したが一部対応に不十分などところがあることがわかりマニュアルを修正、部署に周知した。
5. 全職員を対象に BLS 研修を開催し、AED の使い方を指導した。新人看護師、中途採用看護師に対し輸血委員会と協働で研修を実施。その他新人研修、スキルアップ研修、補助員研修をおこなった。また、委員会内で勉強会を実施し、メンバーの安全に対するスキルアップに取り組んだ。委員会メンバーが講師となり各部署で KYT、SHELL 分析の講習を行った。

### 【今後の課題】

今年度も引き続き病棟月 15 件以上、外来部門月 5 件以上のインシデント・アクシデントレポート提出を目標に啓蒙していきながら再発防止につなげていく。また、病院機能評価の取得に向け、機能評価準備委員会と連携して取り組む。安全ラウンドや安全だよりの発行、研修を企画・開催し、患者・職員の安全が守られるよう、積極的に活動する。さらに、院内の安全関連委員会と連携し、院内の安全への取り組みに協力する。



## 看護部 感染対策委員会

### 【スタッフ】

委員長：岩川美由紀 副委員長：多田和美 小出愛美

委員会メンバー：早川文美 松本栄子→今枝奈穂 加勢純子 工藤早苗 高梨秀敏 勝亦美晴  
中村史人→太田千枝子 土屋美恵→佐藤和子 鈴木正子

### 【活動内容】

- 1) 部署内で感染対策の周知、教育、問題点を抽出し改善する。
- 2) ICT と連携し病棟ラウンドを実施：第2火曜日 14時より：2名のリンクナースと ICT が 5F 病棟よりラウンドを行い、結果を部署長またはリーダーにフィードバックし改善依頼する。
- 3) 手指消毒剤の使用量・直接観察結果・病棟ラウンド結果を委員会で報告し、遵守率向上にむけ問題点を解決する。
- 4) 感染対策委員会の議事内容を共有し、院内の感染対策状況を理解する。
- 5) 看護部感染対策委員会終了後は、委員会内容を部署長に報告し、病棟スタッフに内容を周知する。
- 6) 部署内の感染症発生時は、対応(現状の把握、感染管理室との連携、二次感染の予防)を行う。
- 7) 部署内で伝達講習(スキルアップ研修・委員会開催研修等)を行い、部署内の知識の共有を図る。

### 【2023 年度総括】

今年度は、3名の新たなメンバーと、途中で更に3名のメンバー交代があったため、各部署長にリンクナースをフォローしていただくことを依頼しての活動であった。部署長の声掛けにより手指消毒使用量が増加した部署もあった。病棟ラウンドでは、ラウンド時の観察ポイントを確認し、自部署の問題点を抽出し解決できることを目標にした。しかし、病棟全体への周知が難しく解決までに時間を要することが複数あった。病棟全体での取り組みとしては、環境の見直し、隔離表示の周知が継続中である。

各種データ収集は、提出日を設定したが遅れることが多かった。その要因の一つとして、病棟での活動時間が確保されていないことが考えられたが、活動時間の確保が困難であった。

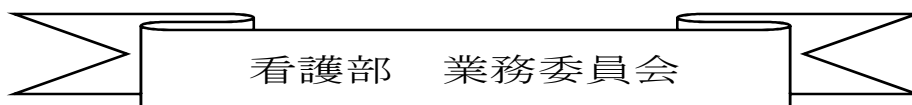
院内感染対策委員会の議事内容は、部署長へスタッフへの伝達を依頼したが2週間後のリンク会でも知らないリンクスタッフが多かったため、感染対策委員会の議事録を配布し説明することにした。

スキルアップ研修は、リンクナースより4項目と感染管理認定看護師より現在問題となっているVREやSPACEなど4項目について行い、スキルアップ①14名、②9名、③7名、④20名の参加人数であった。参加人数が少なかった要因として、同じ時間に別の勉強会が追加され分散されたことがあった。また、経験年数の少ないスタッフの参加が多い為病棟への伝達講習に至らないこともあった。

### 【今後の課題と展望】

リンクナースが自部署で活躍することにより感染対策の底上げになることはわかっている。来年度その弊害となった活動時間の確保、任期、看護師経験年数の短さによる周知の難しさへの対応として、メンバー選抜や感染改善活動のフォローアップ体制を構築することが必要と考える。

また、ICTラウンドで分かった問題点に対し部署内で改善策を考えることでタイムリーに改善へつなげていけると考えるため、感染対策の立案等ができるしくみを整え所属長の協力を得て看護部の活動を行いたいと考える。



看護部 業務委員会

### 【スタッフ】

委員長：加藤知佐 副委員長：勝呂しのぶ 渡辺登美

委員会メンバー：村岡 萌 高橋美利 石橋萌衣 新井彩夏 太田千枝子 下防地夕葵  
星合薫 牧野夕香子 神未来

### 【業務内容】

看護業務の安全性、且つ合理性を追求し、看護の質を保証するため業務改善に関して審議、推進する

- 1, 看護基準、手順の作成、改定
- 2, 看護補助員の指示基準、手順の作成、改定
- 3, マニュアルの整理

### 【2023 年度総括】

昨年、学研ビジュアルナーシングメゾットの活用開始となり手順書をファイリングし各部署へ配布された。特に新人には活用がみられている。しかし、当院既存の手順書もあり基本と当院手順書との相違部分があることで、混乱を招きインシデントに繋がってしまっている現状があった。業務監査委員とも協力し相違部分の確認と改正を順次行っている。

看護補助者の活用により指示書や指示受け書類の作成、実施手順の確立に努めた。指示する看護師、指示を受ける補助者の両者共、当初手順に混乱がみられたが、現在では浸透しつつあり、指示書の活用が出来るようになった。

看護補助員の使用する業務マニュアルが不完全である。口伝えで行っている業務を可視化し、各部署統一された業務となるように作成中。補助員の声を取り入れながら作成している。

現場から必要とされる手順書、フローを作成し提供した。スタッフへの周知を図るために業務便りとして発行する必要があった。

### 【今後の課題と展望】

委員会への参加部署が少なく活動が思うように出来ない現状があった。代理出席、または委員会業務を振り分け計画がスムーズに進むように指示していく。

「看護補助員の活用」により手順書や指示書の試作実施後、各部署で実施している。現状の確認と改善を現場の声を吸い上げ行っていく。また、補助員業務マニュアルを補助員と共に作成を急ぎたい。

安全委員と協力しインシデント内容から業務手順書の見直し、改善を随時行って安全・安心できる看護業務の定着を図り働きやすい環境を整えることを目標に活動していきたい。



## 看護部 教育委員会

### 【スタッフ】

委員長：小川麻由美 副委員長：廣田俊子 園田優希

委員会メンバー：多田和美 森聖 井上美穂 瀬戸由貴 渡辺宏美 廣澤文子 紺野里美 村田紘子  
吉野久美 川村晃子 野際一孝 勝呂しのぶ 米田美紅 佐藤和子

### 【業績の内容】

目標：

1. ラダー教育の実施（専門職業人の育成）
2. 看護部年間教育企画・インターンシップ・高校生体験・看護学生実習の運営
3. 看護部各委員会との教育連携
4. 職員間のコミュニケーションの円滑

### 【2023 年度総括】

目標に対する取り組み：

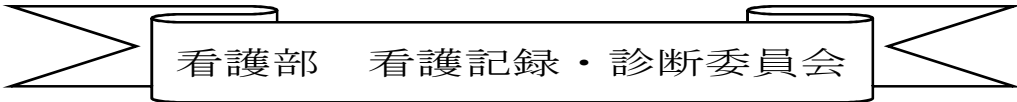
1. ラダー評価の方法を統一するために評価基準を作成した
2. 学研 E ランニングの活用と学習の把握のために聴講レポートを作成
3. 教育計画の講師との目標設定を依頼文書作成
4. 教育委員の活動を電子カルテ内で閲覧可能にした（フォルダー整理）

評価：

ラダーへの取り組みを可視化できるように評価基準を作成したことにより自己の課題を明確にできた。各部署が目標管理に取り入れることで看護スキル向上に努めた。また、学生の育成に対して受け入れる体制を構築し看護部の意向に沿った体験を提供した。看護学生の臨地実習を受け入れる部署での臨床指導者の対応については検討できなかった。他、新しい情報や根拠のある教育計画を継続して実施できるように努めた。

### 【今後の課題と展望】

- ・研修参加が難しいスタッフに対して、学研 E ランニングの活用と集合研修の二通りの方法での参加を提案。ラダーへの取り組みを可視化した評価を行い部署内の活性化へつながるように体制構築をさらに改正していく。
- ・新しい知識伝達のために、特定看護師、認定看護師、専門看護師などから講師を依頼して活用する
- ・看護学生の臨地実習を受け入れる部署の対応についてパンフレットなど改正していく



## 看護部 看護記録・診断委員会

### 【スタッフ】

委員長：向笠亜子 副委員長：川村晃子 瀬戸由貴

委員会メンバー：小出愛美 内田昂徳 竹内奈緒美 梅原未充 石原千夏 杉本真実 太田麻理子  
市川朋奈

### 【業績の内容】

目標：

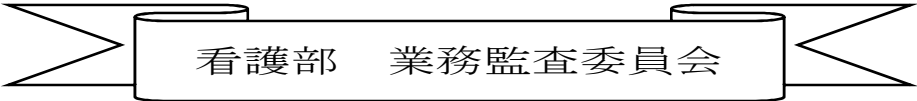
1. 看護必要度の理解と実践ができる
2. 看護記録監査の充実
3. 電子カルテ運用による記録物の管理
4. 記録診断便りの発行

### 【2023 年度総括】

今年度はテンプレートの見直しと一覧表を作成し、現在活用しているものを見やすく整理した。入院時の監査用紙を修正し、形式監査を実施。急性期病棟の入退院時チェックリストの統一と地域包括ケア病棟の入退院時チェックリストの見直しを行い、記録の不足がないよう努めた。また、クリニカルパスでは患者用の入院計画の修正を適宜行い周知した。研修としては、看護必要度の研修会の開催、eラーニングを活用した必要度研修を看護職員に対して実施し知識の習得に努めた。

### 【今後の課題と展望】

引き続き、看護記録の質の向上と、記録の充実を図るため、マニュアルの見直しを行っていく。看護必要度の研修参加者より伝達講習を実践し、スタッフ全員が看護記録の理解を深めていく。看護記録監査より、看護記録の目的の理解不足や、看護計画が個別性のあるものでないことがあるため、監査内容を記録便りなどでお知らせし記録の充実を図っていく。



## 看護部 業務監査委員会

### 【スタッフ】

委員長：勝又裕美子 副委員長：廣澤文子 村田紘子  
委員会メンバー：亀田昌江 渡邊豊和 山田貴子 山本恵

### 【業務内容】

#### 1) 医療・看護環境の整備

- ① 看護の質を保障するため、安全で安心できる看護業務の推進及び定着を図る
- ② 良質で効果的な看護サービスを提供するために、働きやすい環境を整える

### 【2023 年度総括】

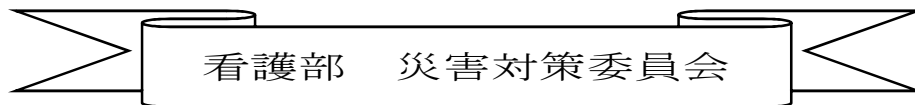
看護業務監査委員は、看護の質を保障し安全で安心できる看護業務が行えるよう立ち上げられた。

看護技術マニュアルにそって業務が行われているか病棟ラウンドを取り入れ活動した。前年度、業務委員会で作成した「義歯・補聴器・眼鏡チェックリスト」が遵守されているか、抑制を実施している患者の医師指示やカンファレンスの実施記録、看護計画の修正が行われているか監査を行った。また、配薬マニュアルが各病棟で異なるため、統一に向け配薬カートのラウンドを行った。配薬準備は、勤務形態により夜間の確認方法が異なるため、安全委員会と情報共有しダブルチェックの方法の周知を行った。「義歯・補聴器・眼鏡チェックリスト」の活用に関しては、入院時にチェックリストを立ち上げ活用されていた。各病棟でチェックリストの保管方法が異なっていたため、3病棟で同様の管理方法とした。チェックリストを活用することで、貴重品確認の定着へ繋がった。拘束ラウンドでは、毎日のカンファレンスを行っている記録はあるが、内容は同一であることが多く、抑制解除に向けての活動がされているが不明瞭であった。各部署へのフィードバックについては、病棟の業務監査委員がリンクナースとなりスタッフへ周知していった。

今後、業務監査委員会より「業務委員会だより」を発行し、活動を周知していく必要がある。また、業務委員会と情報交換しマニュアルの改正を行っていく。

### 【今後の課題と展望】

看護技術マニュアルを活用し新人への技術指導が実施されているが、実際の手順とマニュアルに相違があり看護技術提供においてインシデント報告があった。安全に看護技術が提供できるようマニュアルの監査、修正を行っていく。また、病棟ラウンドを実施し、働きやすい環境を整えていく。



看護部 災害対策委員会

### 【スタッフ】

委員長：勝間田智美 副委員長：牧野良麻

委員会メンバー：有村美吹 望月由佳 早川文美 勝呂しのぶ 前出栞 紺野里美 中原美智子  
米山由紀

### 【業務内容】

災害時における看護部門に関する諸問題の把握検討、対策、実施

災害医療訓練の協働と実施

災害発生時の院内対応の協働

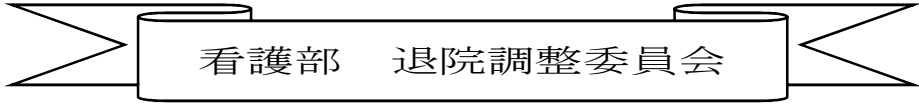
### 【2023 年度総括】

- ・各部署で災害初期動作時のアクションカードを活用した災害訓練の実施
- ・ラダーⅢ看護師を対象に災害初期対応について研修をおこなった  
11名が受講  
三角巾法を学習した。応急処置について理解が深まった。実際に三角巾法をおこない実践できそうとの感想が得られた
- ・スキルアップ研修でDMATの紹介、トリアージ訓練を行った  
11名が受講し、トリアージの方法を知り、事例を用いたトリアージ訓練をおこなったことで実際の災害で対応できそうとの感想が得られた
- ・ヘルメットが安全に使用できるか確認、不足分を購入し各部署へ配布した
- ・マニュアルの見直しを行った

### 【今後の課題と展望】

当院は災害拠点病院であり、災害発生時に災害医療を行う医療機関を支援する役割を担っている。その役割を果たすため日ごろから準備し、看護師が災害対応できる実践スキルを身につけなければならない。

- 1) 外来新設ブースの物品整備
- 2) 研修の企画・実施し、災害時の対応についてスキルアップを図る
- 3) 院外研修に参加し災害委員のスキルアップを図る
- 4) 災害訓練
  - ①院内災害訓練に協働する
  - ②自部署での災害訓練を毎年継続して実施する



## 看護部 退院調整委員会

### 【スタッフ】

委員長：斎藤路子 相原木綿子 副委員長：竹内愛子

委員会メンバー：坂元千佳子 遠藤さやか 加瀬純子

### 【業績の内容】

- 目標：1.地域包括ケア病棟と一般病棟のそれぞれの役割を理解し、地域包括ケア病棟利用率・在宅復帰率を維持する。
- 2.退院調整マニュアルの見直し
  - 3.必要書類の提出状況の把握と確実なコスト実施確認

### 【2023 年度総括】

- ・地域包括ケア病棟と一般病棟の入退院支援加算状況、介護支援連携指導料・カンファレンス件数・在宅復帰率等、委員会メンバー内で毎月確認・把握をした。
- ・退院支援加算を適正に取得する為、退院調整マニュアルを改正。
- ・ラダー勉強会で、担当看護師の役割について講義を行い担当する事で、メンバー内でも退院支援の為を深めた。

### 【今後の課題と展望】

入退院支援のマニュアル改正を引き続き行い、病棟・外来・地域連携室が協力し、よりよい退院支援・適正な加算取得が行えるよう活動していく。さらに、院内で活用しているパンフレット等の見直しを行い、退院指導の充実と、効果的な継続看護の取り組みができるよう活動していく。

三島総合病院 2023 年度研修一覧

JCHO 研修【東海北陸地区】

研修名	日付	内容	参加者
新人職員 研修	4 月 11・12 日	JCHO の組織・理念を共有するとともに社会人としての基本的態度を学び、自覚を持つ。 (Web 研修)	渡部理澄 高梨茉耶 渡邊七海 原楓花 渡邊瑠依 大川七海 瀬口美香 大嶋しおり 山崎虹美
看護師長 研修	5 月 16 日	集合研修	相原木綿子
新任副看護部長 研修	6 月 23 日	Web 研修	堀口瑞穂
労務および勤務時間 管理に係る研修	6 月 28 日	Web 研修	勝又裕美子
認知症看護研修	7 月 5 日～7 日	認知症に関する基本的知識と具体的な対応方法に加え、入院中に必要な認知症看護に関する専門的知識と技術を習得する (Web)	工藤早苗 梅原朋美 寺田由美子 太田晶子
新任副看護師長 研修	7 月 31 日 ～8 月 1 日	看護実践と所属部署の管理を担うプレイングマネージャーとして、必要な知識を習得し、実践できる能力を向上する	瀬戸由貴 村田紘子 渡邊登美
副看護師長 登用試験	10 月 3 日	試験の実施 筆記試験／小論文	寺田由美子 渡邊宏美 小出愛美 鈴木麻沙美 梅原朋美 井上美穂
在宅療養 支援研修 (Web)	9 月 28 日 ～29 日	患者・家族が安心して地域で生活するための在宅療養支援に関する知識を習得し、実践に活かすことができる能力を向上する	加勢純子 小松友子 佐々木恵美
中堅看護師研修 (Web)	11 月 13 日 ～14 日	スタッフのロールモデルとして、組織の理念にそって整合性のとれた中堅看護師としての能力を向上する	遠藤景子 米山由紀 太田千枝子
セカンドフォロー アップ研修	7 月 12 日 13 日	セカンド研修終了後 実践内容発表	向笠亜子
JCHO 学会参加	12 月 8 日・9 日	発表者：相原木綿子 勝又裕美子 星合薫 鈴木光陽 廣澤文子 高梨秀敏 鈴木なが子	
実習指導者講習会	11 月 28 日 ～2 月 2 日	前期 11/28～12/22 (対面 12/11～22) 後期 1/17～2/2 (対面 1/22～2/2)	鈴木麻紗美 米田美紅
医療安全管理者 養成研修	11 月 10 日 ～2 月 21 日	医療の質の向上と安全確保を目的とした医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。	堀口瑞穂
特定行為指導研修	10 月 23 日	特定行為研修の指定研修機関・協力施設になる医療従事者、指導者として係る者	山本英理



静岡県看護協会研修

研修名	日付	内容	参加者
みんなで考え実践に活かそう 看護倫理	11月24日 1月29日	患者の人権擁護者として、日々の臨床現場で倫理的問題に気づき、倫理原則や倫理綱領を基に問題解決のための課題を見出す。倫理カンファレンスや事例検討をどのように進めたらよいか等を分析し、対処するスキルを学ぶ。	蒲田優 高梨秀敏
ぐんぐん伸びる 教え方・育て方	7/23	人を育てるための教育的かかわりの本質やリフレクションの基本的考え方と方法を学ぶ	園田優希 米田美紅
最新の感染予防	8/25・26	感染予防リンクナースの役割	早川文美
医療安全管理者 養成研修	7月3日～ 1月31日	医療の質の向上と安全確保を目的とした医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。	勝間田智美
災害看護地区 研修	8月26日	発災時、地域の救護所で適切なトリアージや限られた資材による応急処置が提供できる基本的知識、技術を習得する	鈴木光陽
看護補助者の活用推進のための 看護管理者研修	6月 22日28日	効果的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育及び就労環境について理解する	勝又裕美子
医療従事者向け 認知症対応力向上 研修 オンライン研修	8月10日 9月26日 10月5日	石橋萌衣 早川文美 前出栞 佐藤那奈実 中西美帆 蒲田優 勝呂しのぶ 原口亜希美 渡邊敬介 松橋美文 瀬戸由貴 竹内奈緒美 内田昴徳 小野和春 (いずれかの1日研修)	14名
B研修 看護管 理者のための 「看護施策」 研修	7月29日	看護部の代表として、病院と地域をつなぐ地域包括ケア体制構築のために看護職が担う役割とその課題や看護施策について学び、自施設の地域連携に向けた具体的な取り組みを考えることができる。	相原木綿子 堀口瑞穂
C研修(1日) 修 了者のための フォローアップ 研修	11月7日	「暮らしをつなげる看護 職員のための研修」を修了した方を対象に、地域連携で抱える問題や職場内の課題などを持ち寄り、GWを通して今後の対応に向けて考える	竹内愛子
看護の専門性の 発揮に資するタ スクシフト・シ ェア	10月3日	ガイドラインに示した法令等で定める看護師や他職種の業務範囲、医師の指示のあり方等、制度的な理解を深め各施設における取組の推進をはかる	小川麻由美 向笠亜子
看護師の視点か ら ACP を考える	1月20日	Web 研修	向笠亜子 佐藤那奈実 前出栞

その他

研修名	日付	内容	参加者
「重症度、医療・ 看護必要度」 研修	7月1日～ 9月30日	最新の評価の知識及び全ての入院基本料に 対応する看護必要度の基本と現場における 看護管理への実践へつなげる知識を習得す る	瀬戸由貴 勝又裕美子 渡邊登美
県立看護専門学 校 2学科 講義		成人看護学Ⅲ  成人看護学Ⅳ	勝呂しのぶ 園田優希 村田紘子 廣田俊子 堀口瑞穂
再就業研修 講義 演習	6月28日 11月29日	移乗動作とその介助について 摂食・嚥下ケア 鼻口腔吸引方法	堀口瑞穂
高校生1日 ナース体験	7月26日 8月9日		7/26 9名 8/9 10名
インターン シップ	8月1日2日 3月28日		8/1 1名 8/2 6名 3/28 10名

事 務 部 門

## 総務企画課（総務）

### 【2023 年度スタッフ】

事務長補佐	1名
係長	1名
事務員	2名
非常勤事務員	2名
派遣事務員	1名
計	7名

### 【業務内容】

- ・ 諸規程の制定及び改廃に関する事。
- ・ 公印の管理に関する事。
- ・ 文書授受、発送及び保管に関する事。
- ・ 職員の人事及び給与に関する事。
- ・ 職員の研修に関する事。
- ・ 職員の福利厚生及び災害補償に関する事。
- ・ 医療関係法令等に基づく申請及び届出に関する事。
- ・ 防火、防犯その他院内の警備に関する事。
- ・ その他の係の所掌に属さない事項に関する事。

### 【2023 年度の主な業務活動】

- ・ 新入職員オリエンテーション
- ・ 消防訓練
- ・ W e b 研修

### 【今後の課題・展望】

職員が気軽に相談できる雰囲気作りを心掛けます。

また、職員の依頼・質問に滞りなく対応できるよう、個人のスキルアップ・文書の整理整頓・業務のマニュアル作成・システム化を図り職員に信頼される総務を目指します。

個人情報やハラスメントの取り扱いには慎重に対応をする。

日々の業務において、率先して超過勤務にならないよう努力をする。

スタッフそれぞれが目標を持ち、一致団結して業務に取り組んでいきます。

## 総務企画課（経理）

### 【スタッフ】

事務長補佐 1 名・契約係長 1 名・契約係員 1 名・財務係員 1 名・非常勤係員 1 名・派遣係員 2 名

### 【業務の内容】

JCHO 規程に基づき業務を行う。詳細は以下のとおりである。（附属施設を含む）

#### 1. 契約

- ① 物品等の取得・保管・共用及び処分に関すること
- ② 物品の修繕及び管理に関すること
- ③ 工事・物品及び役務等の契約及び監督及び検査の確認に関すること
- ④ 固定資産の管理に関すること

#### 2. 経理

- ① 予算及び決算に関すること
- ② 財務諸表等の作成・保管及び公表に関すること
- ③ 会計記録の確認等に関すること

#### 3. 財務管理

- ① 他の係に属さない債権及び債務の管理に関すること
- ② 現金・預金の出納及び管理に関すること
- ③ 診療収益等の管理に関すること
- ④ 資金調達に関すること

### 【2023 年度総括】

新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、関連する助成金も減少したが、職員一丸となり患者・健診受診者・老健入所者の確保に地域との連携を図り確保に努め増収となった。しかし、物価高騰、物不足や光熱費の値上げによる影響は続くため職員の一層の協力が必要である。

#### 《令和 5 年度経常収支差》

経常収益 4,411,672 千円      経常費用 4,316,400 千円      経常利益 95,272 千円

### 【今後の課題と展望】

- ① 医師不足のため救急車搬送・手術件数・紹介・逆紹介が減少しており地域医療の崩壊にも繋がる、引き続き医師確保が急務である。
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大により、医薬品等の不足・値上げは続いている、適切な購入先を確保し物品の充足を計る。
- ③ 電気・ガスの高騰は続いており、節電・経費削減に努める。
- ④ 移転後 20 年以上となり医療機器だけでなく建物設備も修繕や更新が必要となっている。更新プランを見直し整備に取り組んでいく。

## 総務企画課（施設）

### 【スタッフ】

2023 年度

主任技能職員	岡本 直紀	国家資格	
技能職員	江川 鴻	第三種電気主任技術者	岡本直紀
派遣職員	渡辺 龍雄	エネルギー管理士	岡本直紀
	水口 勝浩	第一種電気工事士	岡本直紀
		第二種電気工事士	渡辺龍雄
		第二種ボイラー技術士	岡本直紀・江川鴻 渡辺龍雄・水口勝浩
		第二種情報処理技術者	渡辺龍雄
		危険物取扱者乙種4類	江川鴻・渡辺龍雄
		危険物取扱者乙種全種	水口勝浩

### 【理 念】

機器を利用・使用している人々を思いながら機器に対応し、職員・利用者に喜ばれる部署を目指します。

### 【業務内容】

- ① 各設備及び機器等の点検
- ② 施設や機器・備品の修理
- ③ 工事業者及び設備機器業者への対応
- ④ 中央監視装置による遠方監視・操作
- ⑤ 施設・設備の運用改善検討
- ⑥ 省エネ・節電への取り組み
- ⑦ 各関係機関への報告書提出
- ⑧ 施設・設備の修繕計画

### 【今後の課題】

- ① 大型設備機器更新計画の推進
  - ・外壁改修
  - ・中央監視システム
- ② 省エネのさらなる推進  
LED化の実現

### 【エネルギー使用実績】

	2023 年度	前年比	過去 10 年平均比較
電気	3,427,022 kwh	-2.84%	－ 6.79%
ガス	502,428 m <sup>3</sup>	+1.17%	－ 6.66%

### 【2024 年度の見通し】

2023 年度の電気使用量は過去最低を更新、ガス使用量は過去 4 番目の低さで TOTAL のエネルギー使用量は過去最低を更新いたしました。請求金額は前年度－3700 万円と下がったものの歴代 2 位の高水準。今年度は昨年度と同等の使用量を見込んでいます。円安の長期化により請求金額も単価が再び上昇する可能性があり、予断を許さない状況です。

## 総務企画課（医事）

### 【スタッフ】

事務長補佐（医事） 1名、外来係長 1名、主任診療情報管理員 1名、入院係主任 1名、事務員 2名  
医師事務作業補助員 3名

### 【業務内容】

- ・施設基準等申請事務
- ・DPC 業務
- ・診療報酬請求事務
- ・診療報酬返戻査定事務処理
- ・指定医申請事務
- ・診療録管理
- ・窓口業務（初再診受付、診療費精算等）
- ・入院案内、入院説明
- ・各種調査、報告
- ・患者様対応
- ・感染症等の届出補助
- ・労災診療、自賠責請求
- ・医師事務作業補助
- ・電子カルテ運用業務

### 【取得施設基準一覧（基本診療料）】

・急性期一般入院基本料 4・診療録管理体制加算 2・75：1 医師事務作業補助体制加算・25：1 急性期看護補助体制加算（看護補助者 5 割以上）・急性期看護補助体制加算の注 4 の看護補助体制充実加算・看護職員夜間 16 対 1 配置加算 1・看護職員処遇改善評価料 48・療養環境加算・栄養サポートチーム加算・医療安全対策加算 1・医療安全対策地域連携加算 1・感染対策向上加算 2・連携強化加算・サーベイランス強化加算・患者サポート体制充実加算・後発医薬品使用体制加算 1・病棟薬剤業務実施加算 1・データ提出加算 2 ロ・入退院支援加算-一般 1・入退院支援加算-入院時支援加算・総合機能評価加算・認知症ケア加算 2・せん妄ハイリスク患者ケア加算・地域包括ケア病棟入院料 1・地域ケア-看護職員配置加算・地域ケア-看護補助者配置加算・地域包括ケア病棟入院料 1 の注 4 の看護補助体制充実加算・地域ケア-看護職員夜間配置加算

### 【取得施設基準一覧（特掲診療料）】

糖尿病合併症管理料・がん性疼痛緩和指導管理料・糖尿病透析予防指導管理料・腎代替療法指導管理料・夜間休日救急搬送医学管理料・救急搬送看護体制加算 2・がん治療連携指導料・肝炎インターフェロン治療計画料・薬剤管理指導料・医療機器安全管理料 1 生命維持管理装置使用・BRCA1/2 遺伝子検査・検体検査管理加算（Ⅱ）・時間内歩行試験・神経学的検査・CT 撮影及び MR I 撮影・外来腫瘍化学療法診療料 2・外来化学療法加算 2・無菌製剤処理料・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）・呼吸器リハビ

リテーション料（Ⅰ）・がん患者リハビリテーション料・集団コミュニケーション療法料・摂食嚥下機能回復加算 2・人工腎臓 1・慢性維持透析・導入期加算 1・腎代替療法実績加算・透析液水質確保加算下肢末梢動脈疾患指導管理加算・乳がんセンチネルリンパ節加算 2（単独）・体外衝撃波腎尿管結石破砕術・同種死体腎移植術・医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術・胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）・緑内障手術（水晶体再建時併用眼内ドレーン挿入術）・緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建時併用眼内ドレーン挿入術）緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））・輸血管理料（Ⅱ）・輸血適正使用加算・麻酔管理料Ⅰ・入院時食事療養費Ⅰ・食堂加算

### 医師事務作業補助（3名）

#### 【業務内容】

- ・文書作成補助
  - ・医師の研修、学会発表のための準備作業
  - ・診療に関するデータ整理、統計作業
  - ・公費・助成等の申請案内
  - ・NCD 登録（外科症例）
- ※医師の指示のもとで行う。

#### 【業務実績 2023 年度書類別件数】

① 入院証明書	4 9 1 件
② 傷病手当	9 7 件
③ 一般診断書	1 0 0 件
④ 介護保険主治医意見書	4 7 5 件
⑤ 医療要否意見書	2 6 8 件
⑥ 労災休業補償	3 5 件
⑦ その他	2, 2 1 5 件
合計	3, 6 8 1 件



# 地域連携室

## 【スタッフ】

医師：関 亮太（室長） 社会福祉士：梅原ゆかり（社会福祉士主任） 山田なつ紀 遠藤朝香  
 看護師：竹内愛子（副看護師長） 小松友子 佐々木恵美 佐野菜摘  
 事務：内海ゆみ子 半田早苗

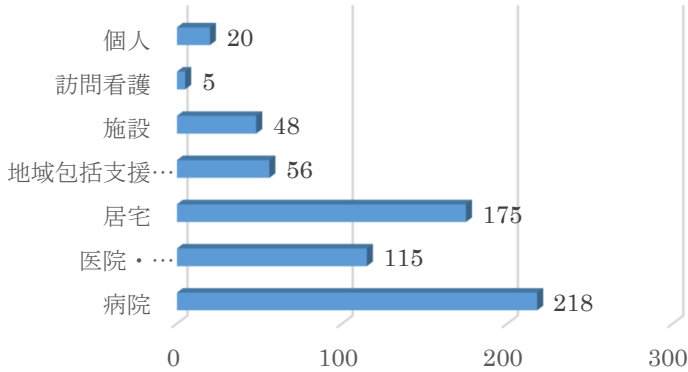
2024年3月末

## 【業務内容】

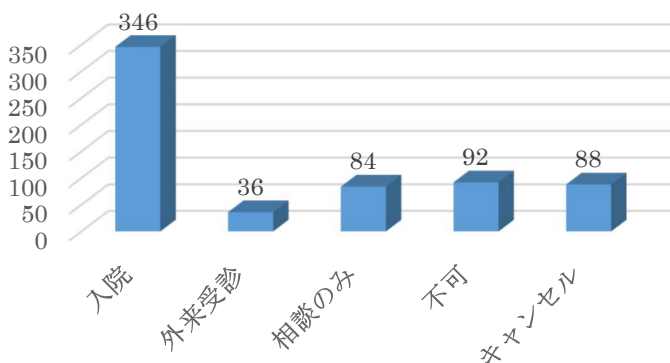
### <退院調整にかかわる診療報酬>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院数	212	227	238	253	275	228	232	195	207	223	228	204	2722
退院数	236	232	216	247	259	247	255	197	209	191	242	212	2743
総合評価加算	59	53	45	45	67	62	72	47	44	44	66	45	649
取得数/収益（千円）	29.5	26.5	22.5	22.5	33.5	31	36	23.5	22	22	33	22.5	324.5
退院支援加算	59	53	45	45	67	62	72	47	44	44	66	45	651
取得数/収益（千円）	413	371	315	315	469	441	511	329	308	308	462	315	4557
介護支援連携	11	11	10	9	12	13	20	8	6	8	16	7	131
取得数/収益（千円）	44	44	40	36	48	52	80	32	24	32	64	28	524
加算収益合計（千円）	486.5	441.5	377.5	373.5	550.5	524	627	384.5	354	362	559	365.5	5405

### 紹介先一覧



### 紹介患者受け入れ状況



### 【2023年度総括と今後の課題】

地域との医療・介護連携において、近隣のケアマネジャーや地域包括支援センターに向け、地域包括ケア推進会を3回開催した。JCHO 附属老健の取り組み、訪問看護りあん、感染対策、PICC カテーテル、透析センター、腎臓リハビリテーション等について研修を企画、PRを行った。

今後、当院の在宅療養支援における資源である、訪問看護ステーション・地域包括ケア病棟を地域で活用してもらい、地域包括ケアシステムに貢献できる病院となるよう継続的な取り組みが重要である。近隣医療機関等との連携を一層強化し、病院の取り組み等広報活動をしていく。

また、入退院支援加算Ⅰを継続して取得していくため、外来・病棟、多職種と連携を深め、質の高い退院支援を継続して行っていかなければならない。

健康管理センター

## 健康管理センター

### 【スタッフ】

健康管理センター長 1名

(看護)

保健師 2名、助産師 2名、看護師 2名、非常勤看護師 5名

(事務)

管理課長(事務長併任) 1名、管理係長 1名、一般職員 4名、非常勤事務助手 1名

委託職員(院内 12名、院外 9名)

### 【業務の内容】

1. 予約業務(協会けんぽ・健康保険組合・国民健康保険・事業所・個人等)
2. 実施受付(人間ドック・生活習慣病健診・定期健診・住民健診・特殊健診等)
3. 結果報告書の作成及び発送
4. 請求業務(各種健康保険組合・事業所)

### 【2023年度総括】

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより、今年度は昨年度と比較し実施者数では約3,000名増の44,800名、収益では約3,200万円増の5億8,800万円であった。

コロナ禍での健診事業は厳しい状況が続いたが、新規受託事業所の獲得等により前年度より増となり過去最高の収益となった。

三島市住民健診は、今年度も例年通り実施され、全ての検診項目で前年度より増となり、8,081件と直近10年間では最多となった。

保健指導についても、昨年度比で474件増、約380万円の増収となった。

健保組合健診は、コロナ禍での感染症防止のため健診車による会場健診が中止となった健保組合があり、当院で会場を確保したうえで実施したが、健保組合によっては受診者数減が続いており、今後新規受託事業所を積極的に獲得する必要があると思料される。

### 【今後の課題と展望】

- ・オプション検査の充実を図り、健診単価の向上
- ・受診率向上に繋がる勧奨活動
- ・閑散期対策
- ・受診者が満足できるサービスの向上と環境整備
- ・業務内容を工夫し、無駄を省く業務改善

【2023 年度実績】

◎人間ドック

日帰りドック 2,594 件 (再掲：全国健康保険協会付加健診 263 件)  
(再掲：全国健康保険協会差額ドック 814 件)

脳ドック 245 件

◎全国健康保険協会

生活習慣病健診 8,624 件  
肝炎検査 93 件  
単独子宮がん検診 98 件

◎健康保険組合等

健康診断Ⅰ 1,800 件  
健康診断Ⅱ 15,295 件  
健康診断Ⅲ 2,729 件  
特定健康診査 597 件

◎三島市住民検診

特定健康診査 1,371 件  
肺がん検診 1,402 件  
胃がん検診 1,215 件  
大腸がん検診 1,280 件  
乳がん検診 1,335 件  
子宮がん検診 1,017 件  
前立腺がん検診 307 件  
肝炎検査 154 件  
マンモグラフィー検査 438 件  
(他院にて視触診実施)

◎特定保健指導

動機づけ支援 397 件  
積極的支援 314 件

◎予防接種等

三島市役所  
B型ワクチン予防接種 158 件  
破傷風予防接種 75 件  
  
富士山南東消防  
B型ワクチン予防接種 48 件  
破傷風予防接種 18 件

◎健診

院内健診 23,767 件  
バス健診 21,104 件

インフルエンザ予防接種  
32 事業所 1,876 件  
個人 261 件

◎オプション検査

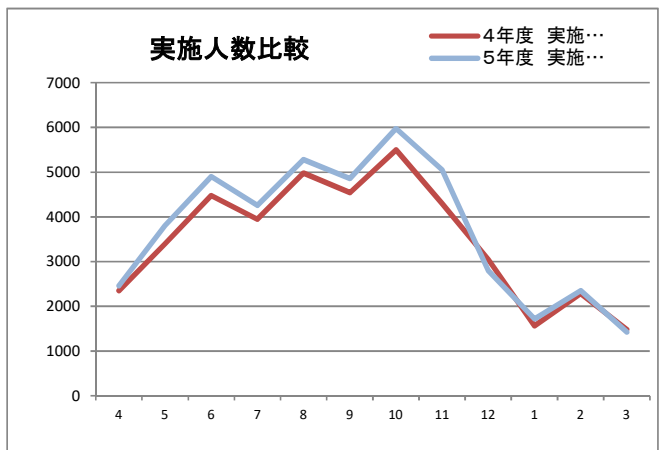
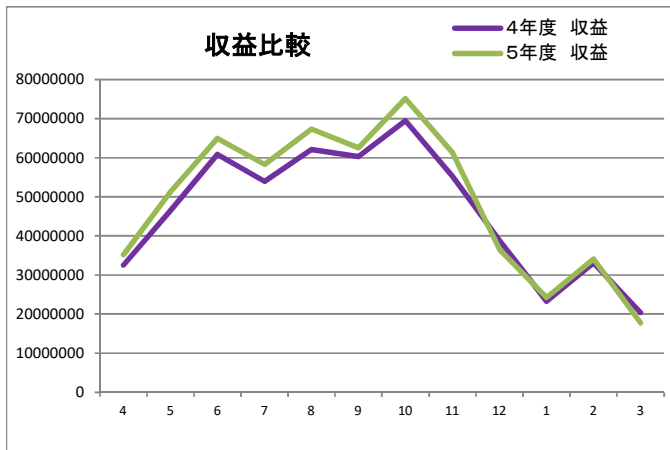
院内健診 6,329 件  
バス健診 3,048 件

健康管理センター実施状況報告

実施人数状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													R5年度	R4年度
入院ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日帰りドック	73	78	128	117	106	122	187	184	175	139	113	55	1,477	1,464
脳ドック	20	13	26	17	17	21	29	25	25	26	14	12	245	202
精密検査	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
積極的支援	12	13	32	31	26	25	49	23	29	26	21	27	314	94
動機づけ支援	19	24	27	32	28	43	48	36	41	50	26	23	397	143
ドック等実施者合計	124	129	213	197	177	211	313	268	270	241	174	117	2,434	1,905
定期健診	1,155	1,464	1,712	1,493	2,675	1,575	1,544	1,361	1,031	861	966	654	16,491	15,545
精密検査	0	0	32	14	130	10	6	16	62	10	7	2	289	238
生活習慣病健診	1,092	1,149	1,593	1,196	1,172	1,466	1,612	1,497	881	408	734	503	13,303	13,007
精密検査	0	0	6	3	5	5	3	9	15	5	0	0	51	50
職業病健診	77	54	86	28	133	153	61	44	104	23	175	45	983	643
その他健診	7	1,006	1,250	1,320	982	1,432	2,239	216	77	160	53	45	8,787	8,270
予防接種	5	2	6	3	5	5	194	1,640	360	11	244	58	2,533	2,197
健診等実施者合計	2,336	3,675	4,685	4,057	5,102	4,646	5,659	4,783	2,530	1,478	2,179	1,307	42,437	39,950



オプション検査実施件数

(件)

項目	4年度	5年度	増減	項目	4年度	5年度	増減	項目	4年度	5年度	増減
胸部X線CT撮影	82	71	-11	HPV検査	0	21	21	若年血液	13	0	-13
内臓脂肪CT撮影	92	87	-5	アレルギー39(16)セット	203	302	99	心臓機能(BNP)	277	255	-22
マンモ1方向	319	336	17	甲状腺(TSH)	384	432	48	LOX-index	260	287	27
マンモ2方向	291	259	-32	スパイロ	13	16	3	風疹	48	15	-33
乳房エコー	459	456	-3	協会肝炎(B型・C型)	0	80	80	麻疹	44	27	-17
乳がん検診セット	14	16	2	B型肝炎	169	53	-116	水痘	87	78	-9
腹部エコー	180	189	9	C型肝炎	162	73	-89	おたふく	43	9	-34
頸動脈エコー	156	176	20	HBs抗体	38	28	-10	コロナ	28	22	-6
ABI	318	260	-58	HbA1c	378	405	27	コロナ(接種後)	140	47	-93
骨密度	132	124	-8	ABC健診	87	67	-20	虫卵	0	2	2
眼底	182	285	103	ピロリ菌	420	427	7	栄養指導	3	4	1
子宮がん検診	523	491	-32	男性マーカー	2,030	2,173	143	MCIスクリーニング	27	41	14
子宮体がん検診	9	30	21	女性マーカー	997	1,018	21	リウマチ因子	173	167	-6
経膈エコー	85	88	3	PSA	313	323	10	その他	19	25	6
子宮がん検診セット	76	77	1	CA125	26	35	9	小計	1,162	979	-183
小計	2,918	2,945	27	小計	5,220	5,453	233	合計	9,300	9,377	77

### 院内健診実施人数

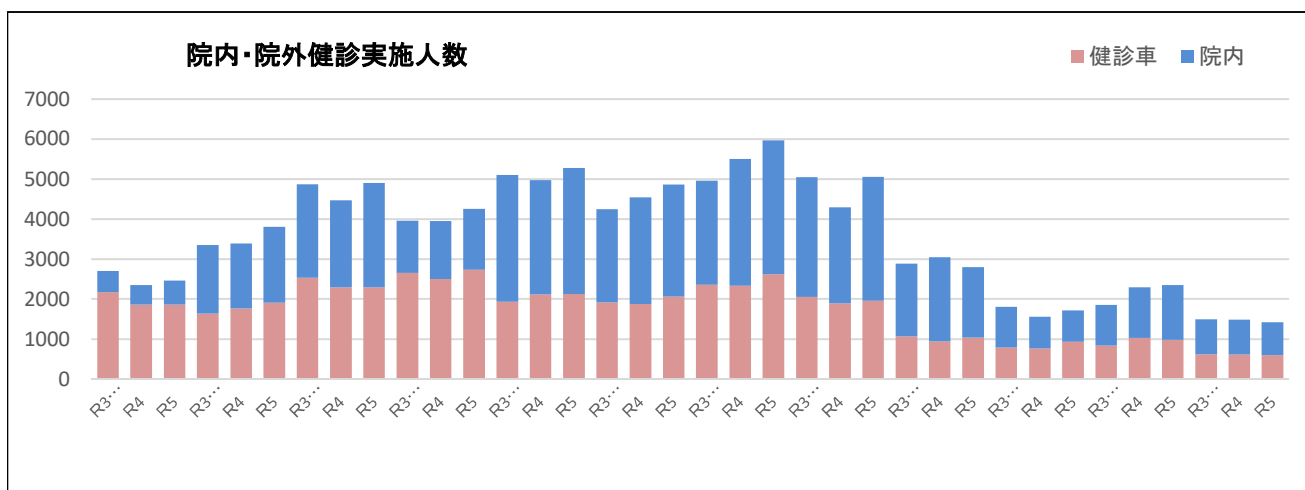
(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	592	1,894	2,611	1,520	3,154	2,796	3,344	3,099	1,767	793	1,369	828	23,767
令和4年度	497	1,624	2,187	1,444	2,863	2,661	3,164	2,398	2,110	802	1,264	875	21,889
令和3年度	523	1,708	2,333	1,295	3,170	2,326	2,601	2,993	1,822	1,024	1,013	877	21,685

### 院外健診車実施人数

(人)

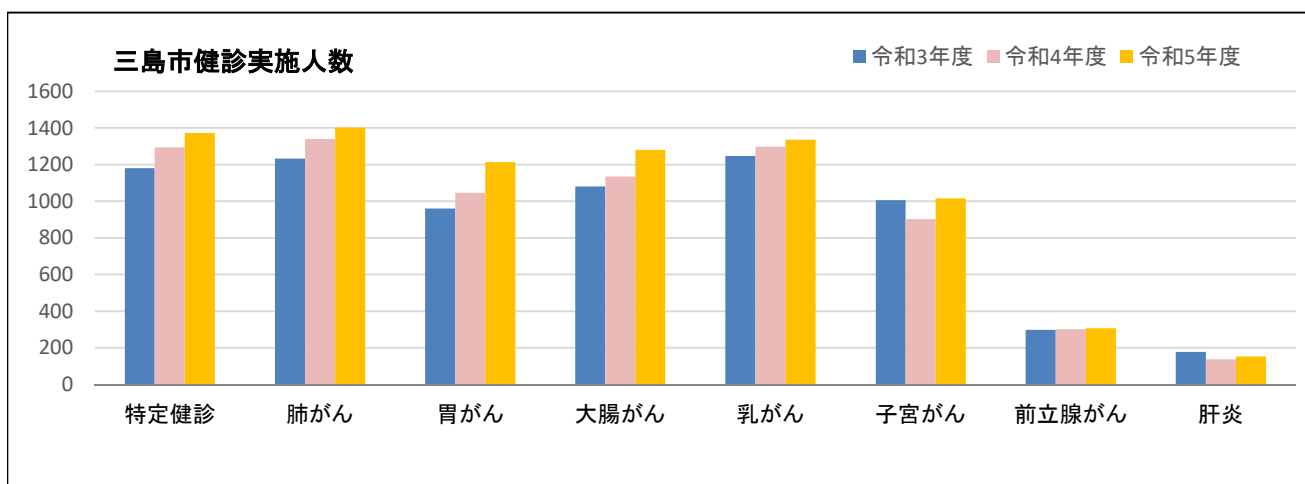
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	1,868	1,910	2,287	2,734	2,125	2,061	2,628	1,952	1,033	926	984	596	21,104
令和4年度	1,854	1,769	2,289	2,501	2,114	1,880	2,334	1,896	935	761	1,024	609	19,966
令和3年度	2,175	1,636	2,534	2,657	1,935	1,918	2,362	2,052	1,064	781	837	618	20,569



### 三島市住民健診(再掲)

(件)

	特定健診	肺がん	胃がん	大腸がん	乳がん	子宮がん	前立腺がん	肝炎	計
令和5年度	1,371	1,402	1,215	1,280	1,335	1,017	307	154	8,081
令和4年度	1,294	1,338	1,045	1,134	1,297	903	301	137	7,449
令和3年度	1,181	1,232	961	1,082	1,248	1,006	298	177	7,185



## 附属介護老人保健施設

## 附属介護老人保健施設

【スタッフ】 ※令和6年3月31日

施設長	寺田 享志 (副院長併任)
副施設長	高山 卓也 (事務長併任)
顧問	平賀 聖悟
施設医	武井 秀憲
看護師長	伊藤 庸子 加藤 知佐
副看護師長	菊地 いくの 鈴木 正子 勝呂 しのぶ 廣澤 文子
看護師	常勤8名、再任用1名、非常勤職員5名 (准看含む)
介護福祉士	22名 (主任1名)、非常勤職員2名
療養介助員	1名、非常勤職員4名
理学療法士	5名 (主任1名)、非常勤職員1名
作業療法士	非常勤職員1名
言語療法士	1名
管理栄養士	2名
支援相談員	2名 (主任2名)
介護支援専門員	2名、非常勤職員1名
事務員	3名 (併任1名)、非常勤職員1名
<居宅介護支援センター>	3名 (主任1名)
<錦田地区地域包括支援センター>	4名 (主任1名)

### 【業務の内容】

附属介護老人保健施設では、利用者様が自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、在宅生活への復帰を目指した支援をしています。令和2年10月より、超強化型を算定し維持していくために努力を続けています。

今年度は8月と2月に、コロナのクラスターが発生し、入所フロアの入退所制限等、関係者様には多大なご迷惑をおかけしました。今後も感染対策を強化し、安全なサービスの提供に努めていきます。

例年は、利用者様に楽しく生活していただけるよう、季節に合わせた行事やレクリエーションを計画実施してきましたが、昨年度同様、コロナ過にて制限があり縮小した内容になっています。

今後も併設の三島総合病院や、居宅介護支援センター、地域包括支援センターとも連携して地域に必要とされる施設を目指します。

### 令和5年度行事

5月	母の日・父の日
6月	おやつ作り
7月	七夕の会
9月	敬老会
10月	ハロウィンかぼちゃ作り
12月	クリスマス会・年賀状作り



- 1月 新年会（鏡開き）
- 2月 節分
- 2・3月 お花見

各行事は、各フロアで担当者により、密にならないように行いました。  
お花見は、当施設敷地内の河津桜を鑑賞しました。

#### 納涼祭

- 8月19日（土） 実施
- 射的ゲーム フラダンス鑑賞 花火鑑賞

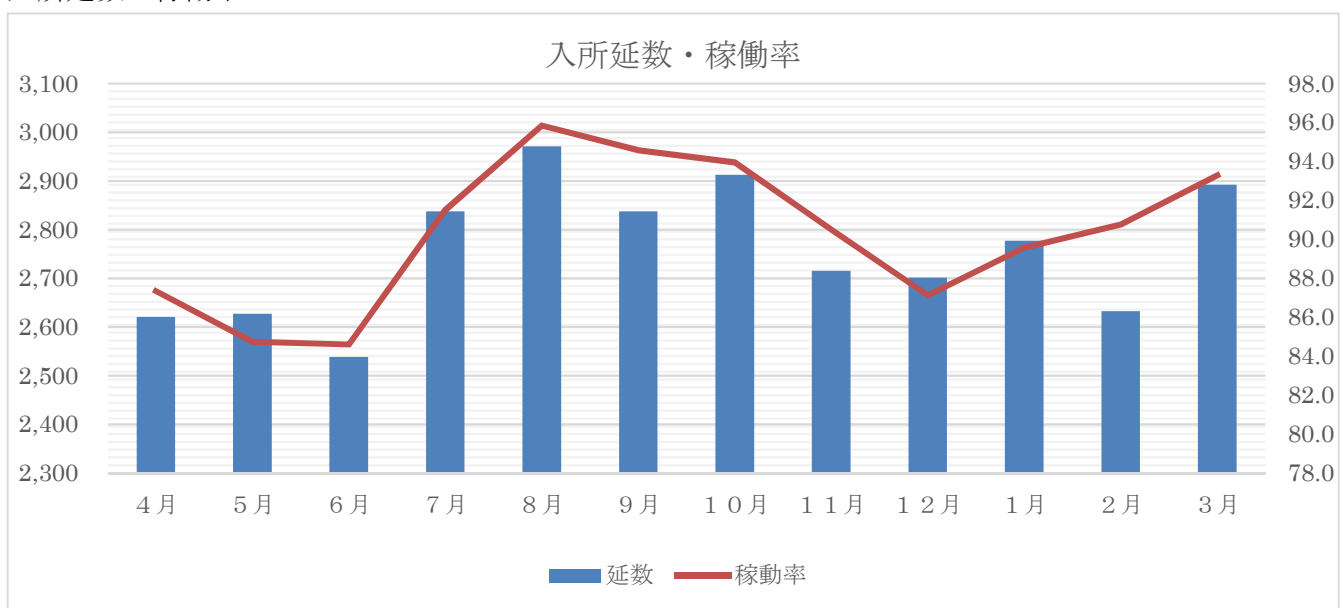
#### 【令和5年度総括】

クラスターの発生等により在宅復帰超強化型加算を算定できない月もあったが、概ね算定できた。  
入所稼働率 90.3%、通所稼働率 73.6%（令和6年3月31日） ターミナルケア加算 6件。

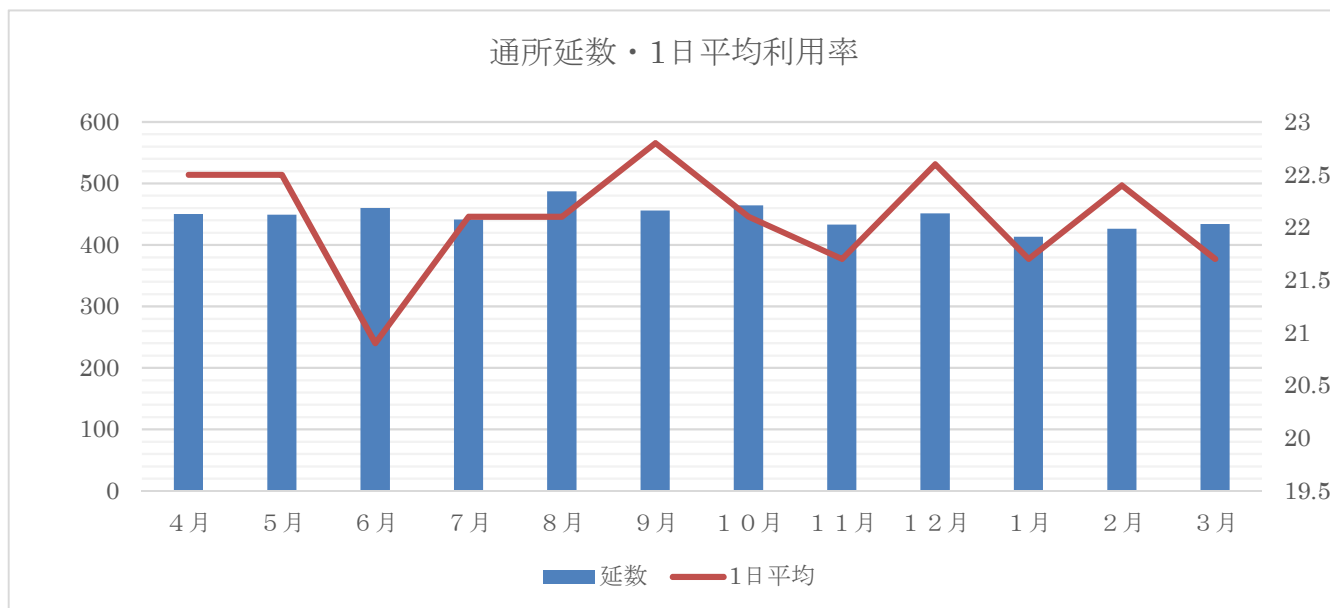
#### 【今後の課題と展望】

- ・在宅復帰超強化型の維持へ向けての体制づくり。
- ・リピート利用者を増やす。
- ・入所稼働率 93.0%、通所稼働率 80.0%の維持。
- ・介護報酬改定に伴う取得可能な加算の検討。
- ・経営戦略会議を定期的で開催し、収益増を目指す。
- ・在宅復帰指標のポイントから在宅復帰超強化型を維持するための戦略と、適正な人員配置。
- ・各事業所と良好な関係の構築。

#### 令和5年度 月別利用者数実績 入所延数と稼働率



## 通所者数と利用率

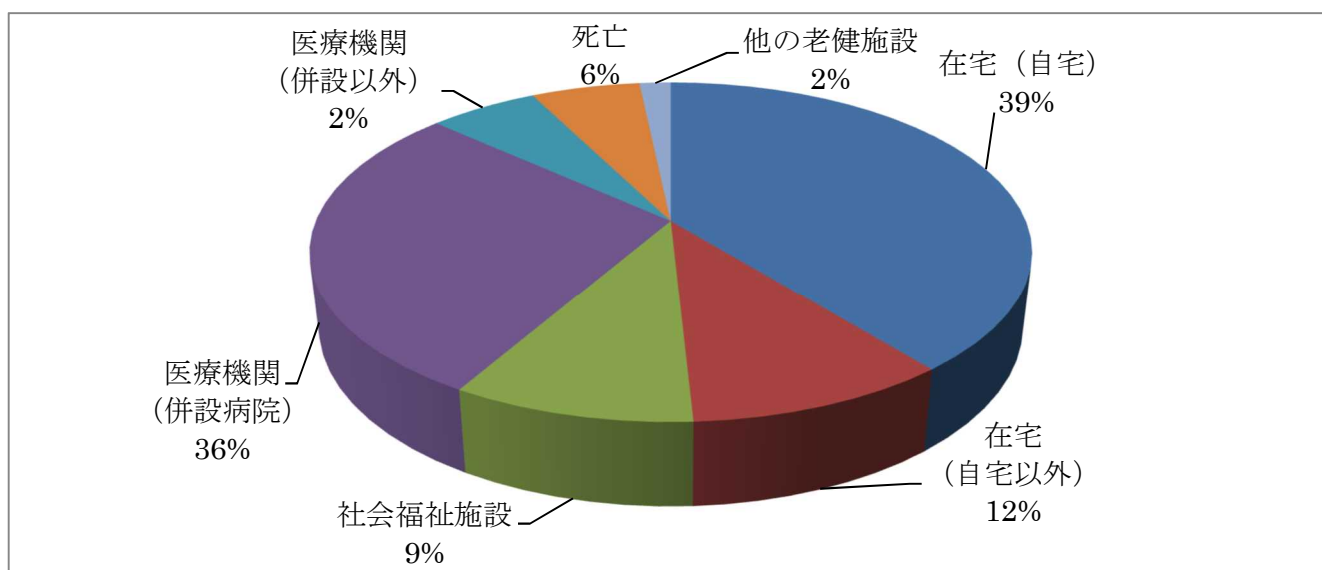


## 令和5年度実績

入 所		通 所	
延 数 (人)	33,059	延 数 (人)	5,364
利 用 率 (%)	90.3	一日平均利用者 (人)	23.1

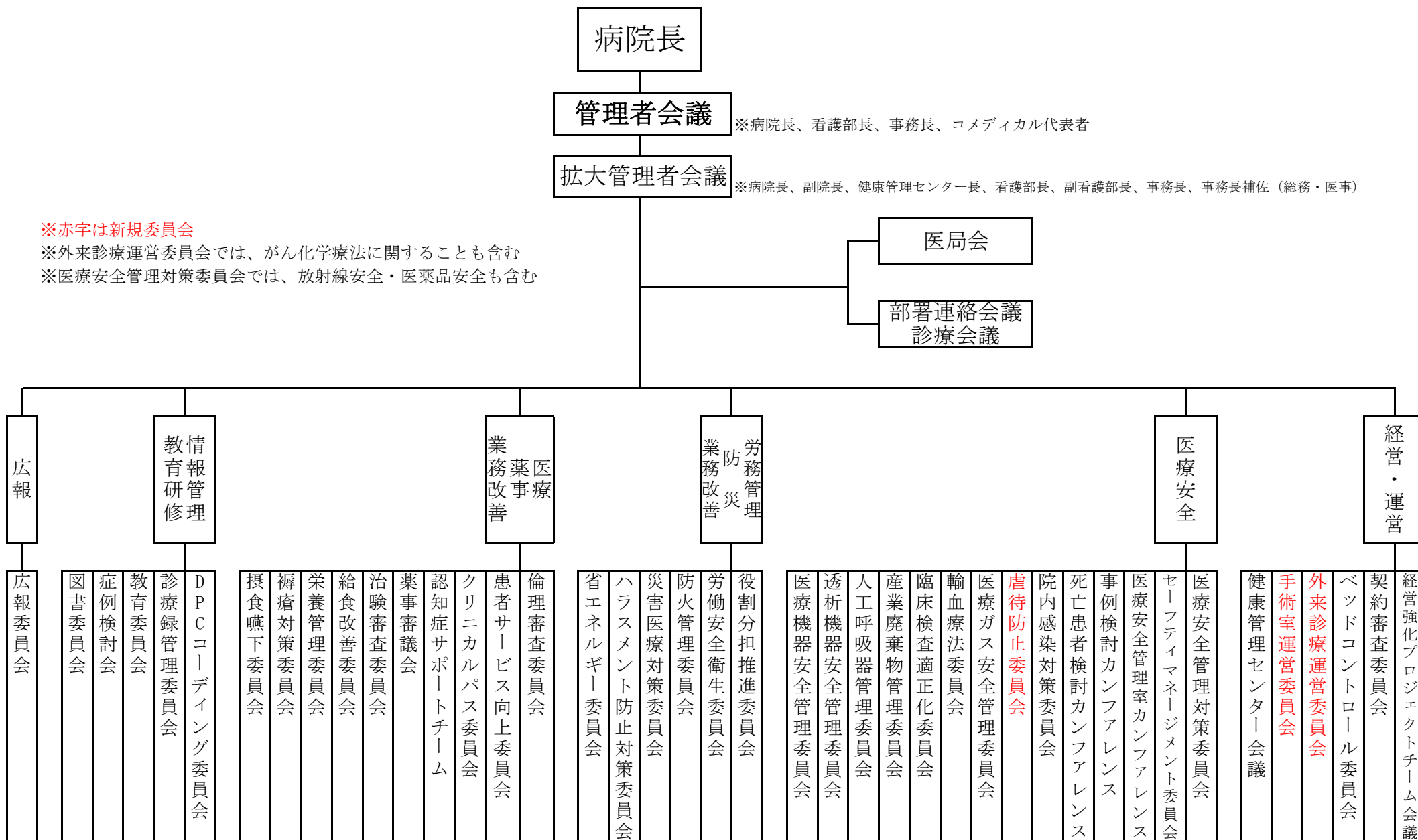
\*新型コロナウイルス感染症クラスターに伴う入退所禁止期間、通所利用禁止期間あり

## 令和5年度 退所先割合



# 院内委員会

# 三島総合病院院内会議・委員会組織図（案）



※赤字は新規委員会

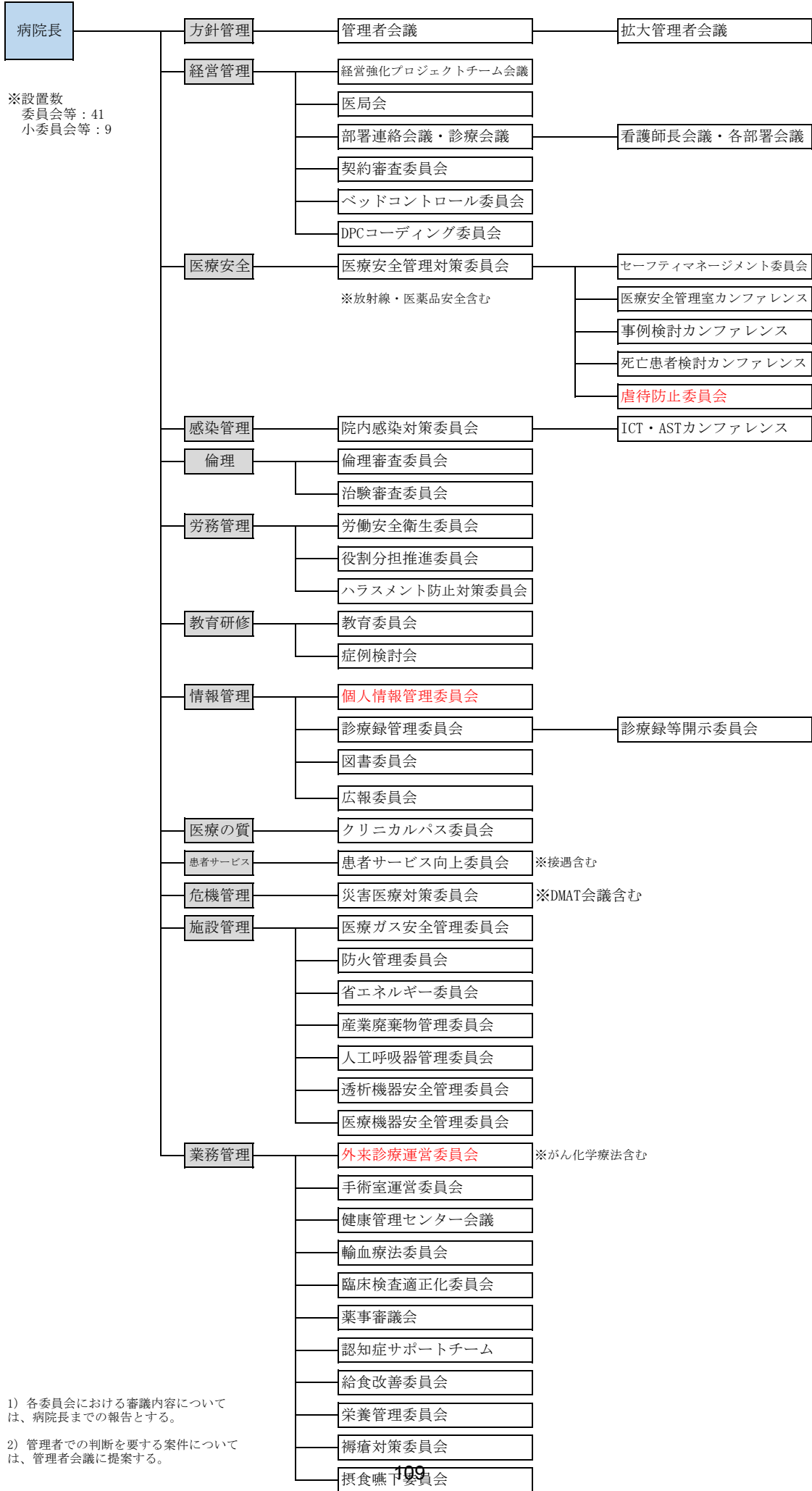
※外来診療運営委員会では、がん化学療法に関することも含む

※医療安全管理対策委員会では、放射線安全・医薬品安全も含む

※各委員会における審議内容等については、議事録を作成し病院長に報告する。

※各委員会で決定した事項において、管理者が最終判断を要する案件については、管理者会議に提案する。

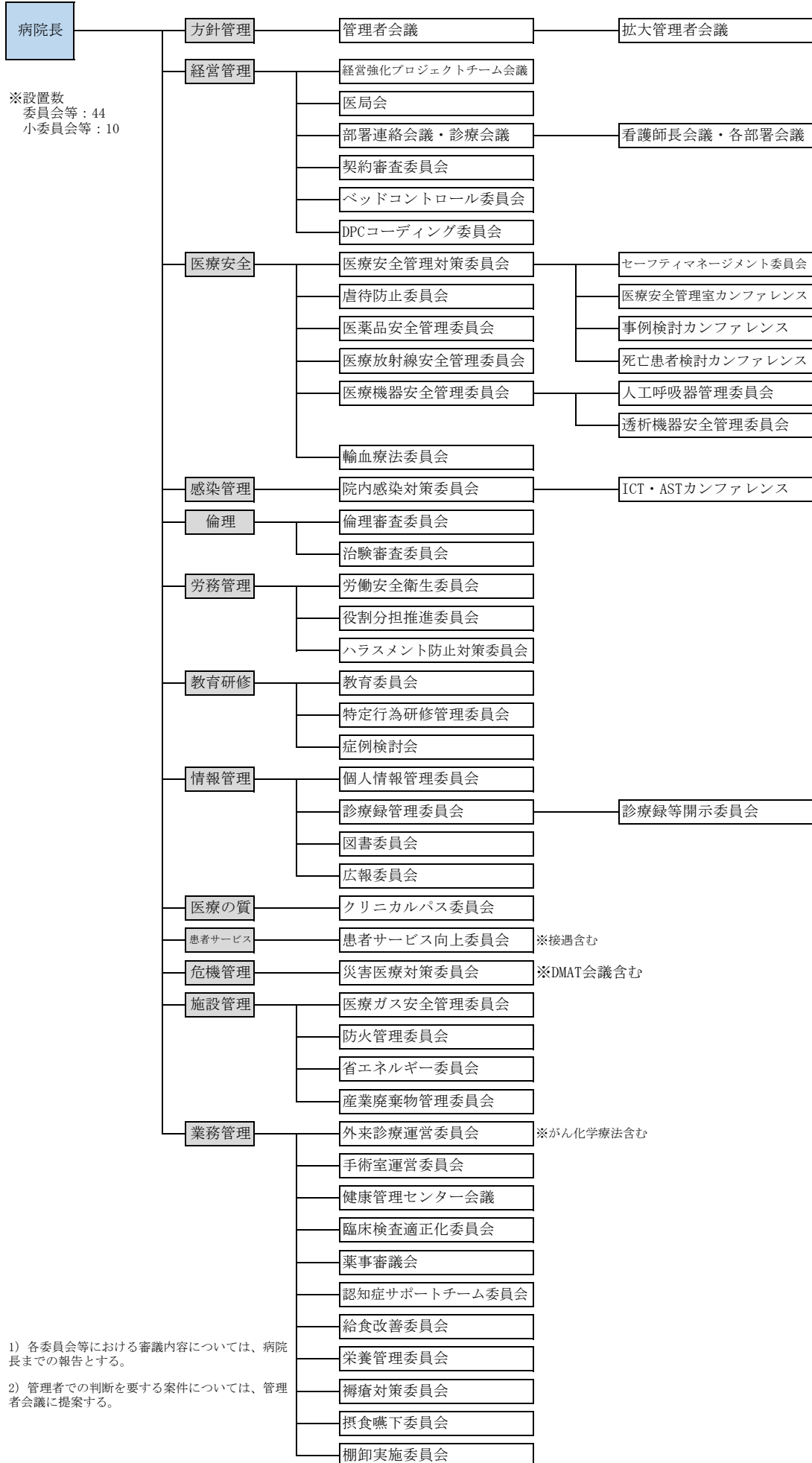
# 三島総合病院院内会議・委員会組織図（案）



- 1) 各委員会における審議内容については、病院長までの報告とする。
- 2) 管理者での判断を要する案件については、管理者会議に提案する。

# 三島総合病院院内会議・委員会組織図

2023年4月1日



## 医療安全管理委員会

### 【スタッフ】

委員長 医療安全管理責任者：寺田享志、 副委員長 医療安全管理者：鈴木雅代  
委員 高山卓也、露木徹、杉田栄一、大須賀健、高塚聖文、大沼以恵、堀口瑞穂  
(敬称略、順不同)

### 【業務の内容】

目的：JCHO 三島総合病院における医療安全管理体制の確保及び推進を図る。

業務：1. 病院医療安全管理指針の策定、及び改定

2. 院内等において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合の発生原因の分析、再発防止等の検討、立案、実施及び職員への周知
3. 2の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該再発防止策の見直し
4. 院内のインシデント・アクシデント防止活動及び医療安全に関する職員研修の企画、運営
5. その他、医療安全の確保に関する事項

### 【2023年度総括】

医療安全管理室カンファレンス 第1、2、4月曜日 15：30

医療安全管理室委員会 第3月曜日 15：30

- 目標：1. 患者と職員の為に、院内で患者誤認防止に取り組み、「患者誤認防止」の意識を高める。
2. チームステップス研修の継続と、eラーニング医療安全研修を実施する。
  3. セーフティマネージャーと協力し、安全文化の醸成に取り組む
  4. 医療安全管理マニュアルの整備を行う

内容：1. 重大事故につながるような、患者誤認の方向は、「ゼロ」であった。

誤認に関する報告件数は、Lv0とLv1を合わせ、前年度は10件であったが、今年度は、40件を超えた。

医療安全からのお知らせを作成し、誤認防止の強化月間を定め啓蒙した。

2. 全職員を対象とした、集合研修を、1回目7月、2回目11月に実施。  
当日参加できなかった職員へは、追加研修として、ビデオ聴講を実施し、100%の参加となった。
3. 安全カンファレンス、事例カンファレンスを毎週月曜日に開催。
4. マニュアルの見直しは、随時実施、継続して行っていく。

### 【今後の課題と展望】

2023年度は、Lv4以上の報告はなかったが、骨折事象は4月から9月に7件発生した。再発防止のため安全に対する知識の向上を図るため、SHELL分析を実施してきた。10月以降の骨折事象は発生しなかった。SHELL分析から再発防止策の実施と見直しを継続していく。

患者誤認に関する重大事故防止するため、Lv0～Lv1の報告件数を増やすことで、職員の誤認予防に対する意識を高めていく。

全職員が研修に参加できるよう働きかけ、安全文化の醸成に努める。

医療機能評価受審に向けて、医療安全マニュアルの整備を行っていく。

## セーフティマネジメント委員会

### 【スタッフ】

委員長：寺田享志、 副委員長：鈴木雅代

委員：堀口瑞穂、向笠亜子、山本英理、小川麻由美、勝間田智美、齊藤路子、勝又裕美子、加藤知佐、伊藤庸子、相原木綿子、岩川美由紀、竹内愛子、露木徹、杉田栄一、大須賀健、尾熊洋子、梅原ゆかり、高塚聖文、安部千恵子、渡辺太樹、市成美智代、米山富江、大島真由美、田中真帆、堀口瑞穂（敬称略 順不同）

オブザーバー：大沼以恵（敬称略、順不同）

### 【業務の内容】

目的：医療安全、医療事故予防策の推進を図る

業務：1.インシデント・アクシデントレポートの原因分析、事故防止・再発防止策の検討と提言・勧告

2.医療安全管理マニュアルの作成、運営

3.医療安全に関する現場の実態調査と予防活動

4.医療安全のための啓発、広報

5.医療安全に関する職員研修の企画立案、運営

6.その他事故防止に関すること

### 【2023 年度総括】

セーフティマネジメント委員会 第2木曜日 16：00

事例検討会 毎月曜日 16：00

院内ラウンド 毎月曜日 16：30

目標：1.患者と職員のために、院内全体で「患者誤認防止」の意識を高める。

2. インシデント・アクシデント報告の確認、情報共有を行う。

病床数の5倍以上、病棟は15件/月以上、他部署は5件/月以上、医師は全体方向数の10%を目指す。

3. 安全な環境であるか院内ラウンドを実施する

ラウンド実施報告を行い、情報の共有を行う

4.全職員参加型の院内研修を行い、安全知識を高める

全職員を対象とする、集合研修を、2回/年実施する

### 【今後の課題と展望】

重大な事故に繋がるような、患者誤認の報告はなく、Lv0とLv1を併せた誤認に関する報告件数は、前年度の19件と比べ、今年度は40件であったことから、啓蒙活動を通して、意識づけに繋がったと考えられる。インシデント・アクシデント報告は、病床数5倍以上（853件 2024年4月7日集計時点）を達成することができたが、各部署ごとに目標としていた病棟は15件/月、他部署は5件/月以上、を達成できなかった部署が多く見られた。また医師からの自主的な報告件数は、1年間通して10件に満たなかった。医師への働きかけを行い、医師の意識改革を行っていく必要がある。

院内の安全文化の醸成に向け、院内ラウンドの継続と、全職員研修は全職員が参加でき、安全に対する知識を深められるよう、委員会メンバーと協力し、チーム医療の基盤作りを行っていききたい。



## 感染対策委員会

### 【スタッフ】

前田正人（委員長）、岩川美由紀（副）、高山卓也、大沼以恵、曾我和宏、芹澤保、高塚聖文、尾熊洋子、向笠亜子、田中真帆、鈴木雅代、伊藤庸子、小川麻由美、堀口瑞穂、勝又裕美子、勝間田智美、加藤知佐、安部千恵子、河合めぐみ、露木徹、市成美智代、斉藤路子、山本英里、西尾勝、久保友恵、江川鴻、飛嶋佳子、梅原ゆかり、大須賀健、相原木綿子、小出愛美

### 【実績】

- 1 定例会議（1回/月）の実施：抗菌薬使用状況・耐性菌サーベイランス・アルコール使用量の報告
- 2 全職員対象の感染対策研修会の企画・運営（2回/年）：8月・11月
  - ① 2023年8月7日～8月21日、テーマ：「感染対策の基本：標準予防策」  
講師：岩川美由紀感染管理認定看護師 参加率 100%（録画視聴）
  - ② 2023年11月15日、テーマ：「新興感染症（COVID-19等）への対応」  
講師：静岡県感染症管理センター長：後藤幹夫先生 参加率 100%（一部録画視聴）
- 3 合同カンファレンス（4回/年）実施：感染対策向上加算・地域連携加算施設
  - ① 6月16日：合同カンファレンス：対面  
岡村記念病院、静岡医療センター、三島共立病院、沼津中央病院、田沢医院、瀬尾記念慶友病院
  - ② 9月15日：合同カンファレンス：対面：①と同じ施設
  - ③ 11月10日：合同カンファレンス：対面：①と同じ施設
  - ④ 1月19日：合同カンファレンス：対面：①と同じ施設、東部保健所
- 4 院内の感染対策（COVID-19に対する対応：面会制限、ゾーニング、患者の入院から退院までの対応、各部署の感染対策への助言、アウトブレイク対応など、VRE陽性者と保菌者への対応など）を検討、指導、実践した
- 5 ICTラウンド：病棟の環境対策を中心に取り組んだ

### 【2023年度総括】

2023年5月にCOVID-19が5類に移行したが、院内や老健施設では4度のクラスター（8月：老健施設3Fフロア、9月：4F病棟、12月：4F病棟、2月：老健2Fフロア）が発生し、移行後もCOVID-19への対応は継続された。

東部地区で問題となっているVREの院内発生が1例（病院探査検査）、保菌者が3例（病院探査検査で2例、スクリーニング検査で1例）確認された為、追加でスクリーニング検査を行い個室又はコホート隔離での対応を行った。また、院内でVREの勉強会を2回開催した。

ICTラウンドでは、針捨て容器の取り扱いや、蓄尿ビンの管理、経管栄養材料の管理、隔離表示などに問題があったため介入し対策を講じたが、部署内での周知が難しく改善までに時間を要した。

### 【今後の課題と展望】

2024年度の診療報酬改定では、地域連携対応、感染症の個室確保、抗菌薬の適正使用が求められている。自施設で可能な対応策を確立し、周知、実践、評価していきたい。

院内では、感染対策の基本となる標準予防策を職員が理解し実践することが感染対策の強化になる為、各部署のリンクスタッフを育成し、部署内の環境対策、手指衛生のタイミングを強化したい。

## 輸血療法委員会

### 【スタッフ】

泉谷敏文（委員長：泌尿器科診療部長）、寺田享志（副院長麻酔科）、永原誠（乳腺外科部長）、  
 靱負耕史（整形外科）、染野泰典（外科）、前田正人（アドバイザー：院長）  
 大沼以恵（看護部長）、堀口瑞穂（副看護部長）、鈴木雅代（医療安全管理者）、斉藤路子、  
 小川麻由美、向笠亜子、勝又裕美子、勝間田智美、山本英理（看護師長）  
 勝又智恵子（主任薬剤師）、市成美智代（臨床検査技師長）、鈴木信二（検査）  
 大木賀由希（医事課・書記）、山本和嗣（医事係長）

### 【実績】

- ・血液製剤の入庫量、使用量、廃棄量の集計と報告
- ・輸血実施に対する方針の見直しやインシデント報告
- ・委員会開催 6回開催  
     2023年5月、7月、9月、11月、2024年1月、3月
- ・新入職員対象の輸血に関する座学と輸血実技研修実施 2024年1月
- ・赤十字血液センター学術講演を企画、開催 3回実施  
     1.輸血用血液製剤の取り扱い 2.輸血過誤防止 3.輸血副作用について
- ・2023年度血液製剤使用実績

	A型	B型	O型	AB型	合計
RBC使用	88	46	254	32	420単位
RBC廃棄	0	0	4	0	4単位
FFP使用	0	100	0	48	148単位
FFP廃棄	0	0	0	0	0単位
PC使用	0	0	0	0	0単位
自己血	0	0	0	0	0単位
アルブミン					367.5g
Alb/RBC					0.3
FFP/RBC					0.4

### 【今後の課題と展望】

- ・「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の指針」の遵守に努め、適正に実施できるよう輸血療法委員会で検討し、輸血マニュアルの見直しや改定に取り組んでいく
- ・輸血研修会やシュミレーション研修を通じて、安全な輸血を行うため何度も繰り返しトレーニングや周知をしていく
- ・安全な輸血の実施と廃棄血削減に取り組んでいく
- ・近隣の医療機関と連携しながら、輸血情報を共有し安全な輸血業務に貢献する

## 治験審査委員会

### 【スタッフ】

委員長	江原 洋	副院長
委員	高山 卓也	事務長
	大沼 似恵	看護部長
	泉谷 敏文	泌尿器科部長
	大須賀 健	放射線科技師長
	高塚 聖文	医事課事務長補佐
	芹澤 保	経理課事務長補佐
	久保 友恵	検査科主任
事務局長	露木 徹	薬剤部長
事務局	勝又 智恵子	薬剤部主任

### 【目的】

医薬品の製造(輸入)承認申請又は承認事項の一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集のための治験、及び医薬品の再審査申請、再評価申請又は副作用調査の際に提出すべき資料の収集のための製造販売後臨床試験を行う場合に、委員会は倫理的、科学的及び医学的妥当性の観点から治験及び製造販売後調査の実施及び継続等について審査する

### 【業務実績】

#### 2023 年度継続

医薬品名 (一般名)	依頼会社	調査名	担当科 担当医	調査期間
エンハーツ点滴静注 用	第一三共	使用成績調査	乳腺外科 永原 誠	2020年 8月 11日 2028年 3月 24日
献血ベニロン I 静注 用 2500mg	帝人ファーマ	使用成績調査 (全例調査)	眼 科 鈴木 幸久	2022年 6月 3日 2028年 12月 31日

## 教 育 委 員 会

### 【スタッフ】

委員長：鈴木 幸久	眼科部長
委員：杉田 栄一	臨床工学室
堀口 瑞穂	看護課
伊藤 庸子	看護課
勝又 智恵子	薬剤部
石月 亜由美	リハビリテーションセンター
田中 真帆 →	12月 海野 優子 栄養管理室
米山 富江	検査科
中村 洋介	放射線科
石井 孝茂	総務経理課

### 【業務の内容】

中央教育に関する立案と実施、分散教育に関する指導、対外的教育活動  
各委員会の支援  
職員の各専門分野における質向上のための支援  
ランチョンセミナーの開催  
病院老健全体研修の外部講師の調整、支援  
年報発行  
JCHO 学会演題発表の支援と予演会の開催  
新入職員の交流やマナー研修の開催

### 【委員会開催】

毎月第3火曜日 16：30

### 【ランチョンセミナー】

隔月第3木曜日 12：30～ 30～40分

\*2023年度ランチョンセミナー

4/20（木）「植え込み型デバイスの基礎～ペースメーカーを中心に～」

臨床検査科 松井美咲

6/15 (木)「VRE と PPE について」 感染管理 認定看護師 岩川 美由紀  
9/21 (木)「がんのリハビリテーション」 副院長 寺田享志、看護課 秋本のぶ  
リハビリテーションセンター 鈴木研登、伊藤絹代、城内 陸、武政英理子  
11/7 (火) 14 (火) 16 (木) 17 (金) 16:30~JCHO 学会予演会  
2/14 (水)「前立腺癌の早期発見について」 副院長 泌尿器科 赤倉功一郎  
3月 「総合機能評価研修」ビデオ研修 外科 関 亮太

### 【JCHO 学会発表】

- ・排泄誘導することで高齢者の尿意の訴えや排泄動作の変化～排泄の自立を目指して～  
看護部 (5 階) 鈴木光陽
- ・腎臓リハビリテーションに対する患者の考え～新規導入増加を目指して～  
透析センター 看護部 勝又 裕美子
- ・看護・介護スタッフと協働した生活リハビリの取り組み～振り返り分析～  
老健リハビリ 荻谷 充涼
- ・A 病棟におけるエンゼルケアについての動機づけ  
～看護師の意識の変化と行動変化～ 看護部 (3 階) 星合 薫
- ・当院における透析センター医療安全への取り組み 臨床工学室 高橋壮太郎
- ・地域包括ケア病棟における退院支援方法の改善  
プライマリーの役割についてのあり方を見直したことにより改善された意識の変化  
看護部 (4 階) 相原木綿子
- ・術後訪問実施率向上に向けての取り組み～術後カンファレンスの導入～  
看護部 (手術室) 廣澤 文子
- ・透析中の運動療法における心身機能変化  
～透析時運動指導等加算算定症例を通して～ リハビリ 小野 和春
- ・緑内障の静的視野検査における補助台を使用した同一姿勢の苦痛軽減への試み  
看護部 (外来) 鈴木なが子
- ・応用行動分析学に基づいた関わりの効果  
～認知症患者の食事摂取状況の改善に向けて～ 看護部 (5 階) 高梨 秀敏
- ・穿刺困難患者に対するエコーガイド下穿刺の有用性と今後の展望  
臨床工学室 満間 大介
- ・ノルディックウォーキングを活用した高齢者の活動支援を振り返って  
～コロナ禍における高齢者の介護予防につながる活動の支援～  
老健地域包括支援センター 槇かおる

**【年報作成】 \*CD-R へ保存**

各部署、各委員会に 2022 年度の年間業績をまとめてもらい、収集。

すべての原稿が集まったら、各ファイルを結合し、PDF 変換ソフトを用いて、ファイルに変換。年報 PDF ファイルを CD-R に保存年報の完成とする。

CD-R は総務課にて保管。

**【新人職員研修（リフレッシュ研修）】**

新人同士の交流や多職種のつながりを作り、コミュニケーションを円滑にすることで、新人職員の不安軽減につなげることを目的とする。

**\* 2023 年度研修内容**

**第 1 回 メンタルヘルスケア**

目的：自らのストレスや心の状態を認識し、心身の健康を保つための方法を見つける

**第 2 回 社会人のマナー**

目的：学生と社会人の違いを知り、社会人としての最低限のマナーを理解する

**第 3 回 チーム医療**

目的：人口動態や地域包括ケアシステムについて学ぶ

チーム医療と各専門職の役割を知る

## チーム医療活動

人工呼吸器管理委員会 (RST)

栄養管理委員会 (NST)

褥瘡対策委員会

摂食嚥下委員会

認知症サポートチーム (CST)

## 人工呼吸器管理委員会（RST）

### 【スタッフ】

委員長：寺田享志（医療機器安全管理委員会委員長）

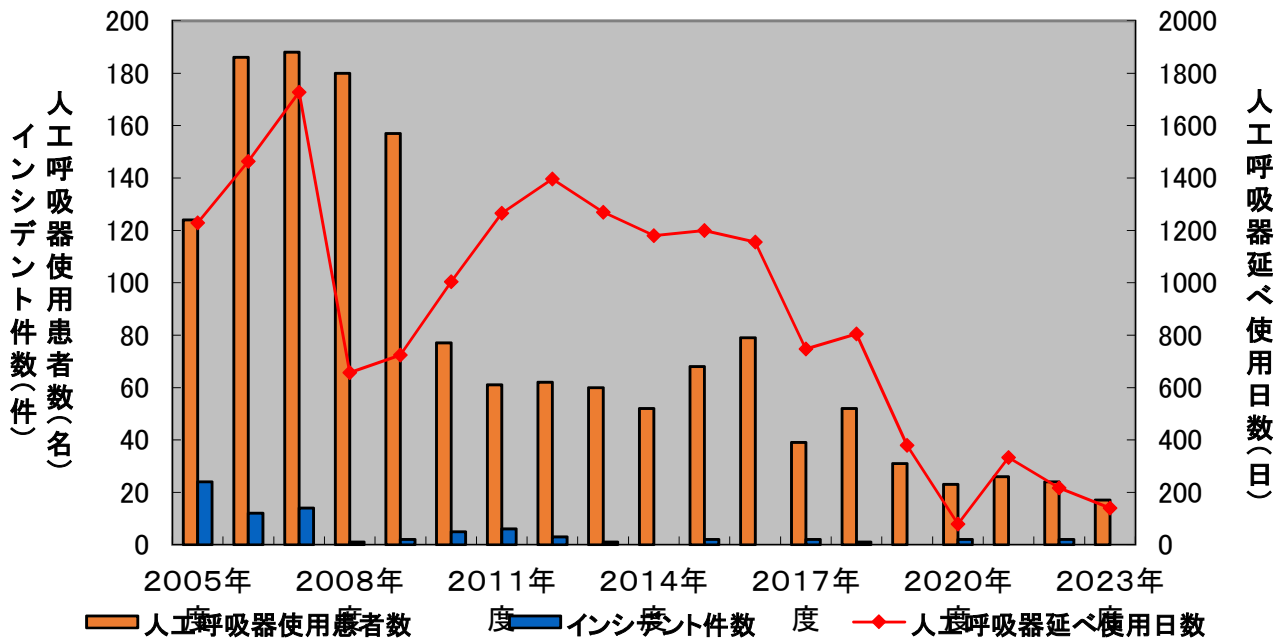
委員：杉田栄一（医療機器安全管理責任者）、鈴木雅代（医療安全管理者）、尾熊洋子（理学療法士）、原口亜希美（看護師）、太田晶子（看護師）、野際一考（看護師）、満間大介（臨床工学技士）

### 【業務の内容】

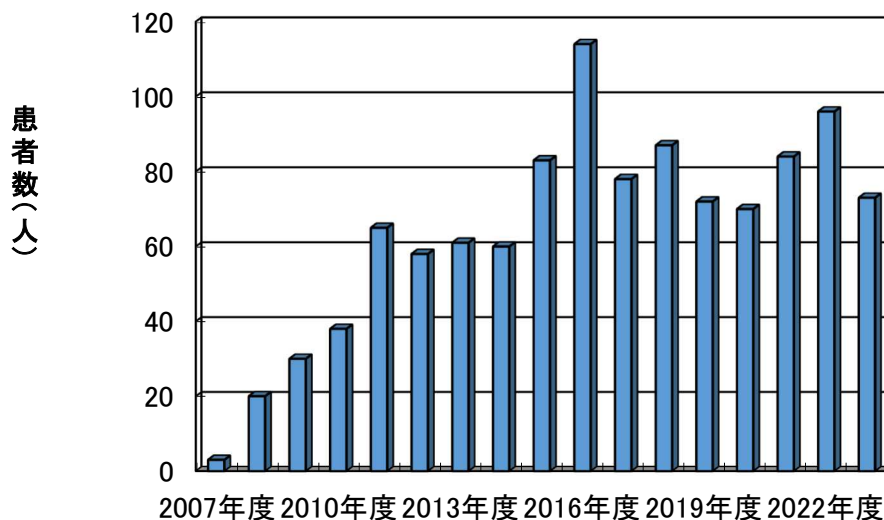
#### 1. 人工呼吸器運用に関する活動

- 1) NIPPV 初期セットのマスクサイズ変更（6月）。
- 2) 人工呼吸器を使用した勉強会の実施（7月、11月）。
- 3) 人工呼吸器使用患者の巡回（4月～3月）。

#### 2. 人工呼吸器患者数、延べ使用日数、人工呼吸器関連インシデント件数の推移



#### 3. NPPV 使用患者数





### 【2023 年度総括】

2023 年度の人工呼吸器使用状況は使用患者数 17 名、延べ使用日数 140 日で前年度に比べ、患者数 7 名、延べ使用日数は約 90 日減少した。NIPPV の使用患者数は前年に比べ減少傾向であった。

人工呼吸器に関連したインシデントは 0 件であった。

勉強会は昨年度に引き続き看護部教育年間計画のスキルアップ研修で開催した。

### 【今後の課題・展望】

看護部教育年間計画のスキルアップ研修で勉強会を行ってきたが、会議室で時間を決め人数を集めた勉強会では、参加人数を増やすことができなかった。来年度は勉強会の形態を変え臨床工学室より人工呼吸器を貸し出し、病棟単位で時間を決め勉強会行う形式とし、参加者増加を狙う。

また、随時マニュアルを見直し、作成、周知を実施する。

文責 満間大介

## 栄養管理委員会（NST）

【委員会名】 栄養管理委員会（NST）

【スタッフ】 委員長 関亮太

NST 専任 寺田享志 渡邊佳織

小川麻由美、日吉明美、鈴木麻紗美、後藤春菜(看護師)

飛嶋佳子、佐藤裕美(薬剤師)

海野優子 田中真帆（退職）、加納有葉（退職）（管理栄養士）

委員 岡舞、原口亜希美、大橋勝春

戸井田由希子、武政英理子

【業務の内容】

目的 三島総合病院における栄養管理に関する諸問題に対し、その対策を検討、実施する。

毎月第1水曜日:委員会 毎週月・木曜日:NST カンファレンス 第4金曜日:NST 勉強会

〈NST 専門療法士取得者〉

薬剤師(2名): 佐藤裕美、飛嶋佳子

管理栄養士(2名): 田中真帆、海野優子

看護師(4名): 日吉明美、小川麻由美、鈴木麻紗美 後藤春菜

言語聴覚士(1名): 武政英理子

臨床検査技師(1名): 戸井田由希子

〈2023 年度 NST 勉強会〉

5月「褥瘡ケアのいろは 予防・発見・悪化予防」褥瘡委員会	参加者 10名
6月「摂食嚥下支援加算と接触機能療法」摂食嚥下委員会	参加者 12名
7月「VFVEの検査と嚥下食・とろみについて」摂食嚥下委員会	参加者 20名
9月「創状態に応じた薬剤、褥瘡の予防と改善に必要な栄養」褥瘡委員会	参加者 15名
10月「褥瘡予防・ポジショニングについて」褥瘡委員会	参加者 7名
12月「院内で発生した創傷事例の傾向と対策について」褥瘡委員会	Web 勉強会

【2023 年度総括】

一旦休止となっていた3階病棟介は10月末から再開。5階病棟継続。

【今後の課題と展望】

2023 年度は NST を担当していた 2 名の栄養管理室スタッフ退職があり、配置換えにより NST 加算を継続した。現在加算算定できる栄養管理室職員 1 名おり今後は NST 専任の管理栄養士の育成を計画したい。2023 年度、看護師 1 名の NST 専門療法士取得と医師 1 名教育セミナー終了だけだった。今後も医師・看護師やコメディカルによる専任の専門職が円滑に稼働・算定に繋がるよう、部署内には複数の研修修了者が必要と思われる。次年度も、実地修練への参加を募り、専任スタッフを確

保したい。

チーム活動が発展していけるよう、NST活動の原点を再確認し、チーム内で話し合いを重ねていきたい。

2023年度 NST 加算報告 診療科

	呼吸器科	消化器内科	腎臓内科	総合診療科	外科	整形外科	脳外科	泌尿器科	麻酔科	合計
4月	0	1	9	0	26	0	8	0	0	44
5月	2	4	11	1	7	0	10	0	5	40
6月	0	6	4	6	13	4	19	0	4	56
7月	0	7	10	1	14	2	20	0	1	55
8月	0	3	28	0	20	0	10	0	1	62
9月	2	3	6	0	14	0	2	0	0	27
10月	2	3	9	1	15	0	0	0	0	30
11月	14	4	11	2	7	0	0	0	0	38
12月	44	8	5	0	7	0	0	0	0	64
1月	41	13	12	0	10	0	0	0	0	76
2月	27	11	8	0	7	0	0	1	1	55
3月	42	10	16	3	6	0	0	1	2	80
合計	174	73	128	14	146	6	69	2	14	627

病棟別 加算件数

	3F	5F	合計
4月	0	44	44
5月	0	40	40
6月	0	56	56
7月	0	55	55
8月	0	62	62
9月	0	27	27
10月	2	28	30
11月	15	23	38
12月	47	17	64
1月	51	25	76
2月	39	16	55
3月	55	25	80
合計	209	418	627

## 褥瘡対策委員会

### 【スタッフ】

委員長：染野泰典　　看護課代表：山本英理

委員：梅原朋美、松橋美文、竹内奈緒美、紅林やよい、小沢有貴子、加納有葉、海野優子、秋山涼

### 【業務の内容】

#### 委員会の基本活動

1. 病棟での褥瘡予防・治療管理
  - ・各病棟の褥瘡委員は褥瘡、スキンケア、医療機関関連創傷予防の知識・技術の啓発、啓蒙をする
  - ・各病棟の褥瘡委員は褥瘡、スキンケア、医療機関関連創傷保有患者の処置のアドバイスを
  - ・褥瘡報告書や看護記録の監査の実施する
  - ・マニュアルの整備をする
2. ケア用品の検討・導入、適切な使用のアドバイス
3. 看護師全員を対象とした研修会開催
4. 自己研鑽（主体的に研修や勉強会に参加する）
5. 褥瘡委員会の開催（第3金曜 14時30分～）
6. 褥瘡回診の実施（第3金曜）
7. エアーマットの使用状況の確認と把握（毎月末）
8. 病棟ラウンドの実施（1回/月）

#### 具体的活動内容

1. 褥瘡管理、スキンケア、医療機器関連創傷の電子カルテへの適切な入力指導
2. 褥瘡予防・管理の為の知識・技術を啓発、啓蒙
3. 院内褥瘡発生率を前年度の半分にするため、予防対策を徹底
4. 入院時栄養状態評価を確実にし栄養改善の為のケアを充実
5. 病棟ラウンドをし、ケアの問題点を抽出し、スタッフを指導

### 【2023年度総括】

勉強会を集合研修から電子カルテへの掲載に変更し、全スタッフに聴講できるようにした。また、学研のe-ラーニングも活用し、看護師の自己研鑽と知識向上に務めた。そして創傷管理関連の特定行為看護師が、各部署からの要請時に臨時褥瘡回診を行い、予防ケアの充実、悪化防止と早期治癒を目指した。病棟ラウンドを実施し、その場の指導だけでなく、問題点と改善点を可視化したものを提示するなど褥瘡予防に努めた。しかし、褥瘡発生率はアウトカム指標である2.5%を下回ることができたものの、月平均1.99%と昨年度より上昇してしまった（昨年度月平均1.97%）。

### 【今後の課題・展望】

褥瘡発生率が年々上昇しており、褥瘡とスキンケアの見極めが不十分であり、指導していく必要がある。また、褥瘡管理の可視化を図り、褥瘡患者の把握を徹底していく。特定行為看護師を中心に外来や病棟との連携を継続し、早期対応、早期治癒を目指したい。ラウンドや勉強会を計画的に実施し、問題点の抽出と改善点の指導をし、褥瘡ゼロとなるよう活動していく必要がある。

## 摂食嚥下委員会

### 【目的】

入院・外来患者様が安全に安心して経口摂取ができるよう摂食嚥下機能の評価を行い摂食嚥下練習や適切な食形態を検討・提供する。また、勉強会を定期開催しスタッフ間の知識向上・認識の統一を図る。

### 【スタッフ】（一部変動あり）

委員長：関 亮太

委員：中瀬古雅代（3階病棟看護師）、蒲田優（4階病棟看護師）、前出菜（5階病棟看護師）、堀口瑞穂（脳卒中看護認定看護師）、武政英理子（言語聴覚士）、海野優子、加納有葉（管理栄養士）、西川由紀子、佐藤翔太（薬剤師）、山田正之（附属老健言語聴覚士）、中野晃志（附属老健管理栄養士）

### 【委員会開催】 毎月第3水曜日 15:30～

### 【活動内容】

1. 附属老健施設との連携：附属老健施設合同勉強会（年4回）、合同委員会の開催（1回/月）
2. 嚥下造影検査（VF）（火・木・金）：火曜 13:00～、木・金曜 11:30～（変動あり）  
呼吸器内科医師（非常勤）協力による外来・入院患者様の嚥下機能評価
3. 嚥下内視鏡検査（VE）（火・金）：AM  
耳鼻科医師（非常勤）協力による外来・入院患者様の嚥下機能評価
4. 摂食嚥下回診、摂食嚥下支援加算カンファレンス：毎週木曜日 15:30～  
医師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士で回診・カンファレンス、口腔内・摂食機能療法の評価

### 【2023年度総括 業務実績：入院外来含む】

1. 嚥下造影検査（VF）件数 96件、嚥下内視鏡検査（VE）件数 34件（合計 130件）
2. 摂食機能療法施行者数 149人（延べ件数：311件）
3. 摂食機能療法（185点）総実施数 4,843件 895,955点（合計8,959,550円の収益あり）
4. 摂食嚥下支援加算Ⅱ（190点：入院のみ）件数 243件 46,170点（2023.7月～加算開始）  
摂食嚥下支援加算Ⅱ請求開始に伴い、前年度よりVF・VE件数増加し、摂食機能療法対象者、摂食機能療法施行件数も増加した。（摂食機能療法 2,388,350円の収益増）入院は摂食嚥下回診にて、患者選定を行い、収益増を目的に継続。嚥下摂食外来のパフレットを外来配置も継続し、外来患者の集客も継続的に努めた。

### 【今後の課題・展望】

1. 嚥下造影検査（VF）・嚥下内視鏡検査（VE）継続、入院患者の摂食嚥下機能評価を行う。加えて、窒息危険因子チェックリストにて入院早期に窒息の危険確認を行い、安全な経口摂取を目指す。
2. 脳外科医師1名就任、摂食嚥下回診体制を強化し、摂食嚥下支援体制加算対象者の増大を図る。
3. 今後も継続した附属老人保健施設や外来との連携強化・地域連携強化を行い、摂食機能療法収益増大・摂食嚥下障害予防への認識向上を図る。 文責 武政英理子

## 認知症サポートチーム（CST）

### 【スタッフ】

委員長：青柳昌樹

副委員長：齊藤路子

委員：武政英理子 遠藤朝香 井上美穂 遠藤さやか 鈴木光陽 村田紘子 海野優子  
槇かおる

### 【業務の内容】

1. 認知症ケア加算1取得中にて多職種カンファレンス、病棟ラウンド（毎週木曜日）
2. 認知症に関する院内勉強会の開催（年6回開催、多職種による知識の提供）
3. 外来患者へ認知症関連の情報提供（もの忘れ外来ニュース、年5回発行）
4. 認知症カフェの開催（毎月第2水曜日）

### 【2023年度総括】

認知症ケア加算を算定している患者に対し、毎週木曜日に多職種カンファレンス、病棟ラウンドを継続して行った。11月からは認知症専門医が不在となり認知症ケア加算2へ変更。病棟看護師が中心となって認知症ケアを展開するために、認知機能低下によって日常生活に支障をきたしている患者や混乱をきたしている患者に対しCSTメンバーが中心となって認知症看護を展開することができた。

当院の入院患者の半数以上はCST介入者となっている。認知症に関する正しい知識を持ち、対応力を向上させるために勉強会を企画。昨年は視聴型（電子カルテ内）を中心に勉強会を行ったが、今年度は従来通り行い、参加できないスタッフへは視聴型利用した勉強会を行うことができた。認知機能低下がみられている方が少しでも安心・安全に入院生活を送ることができるよう多職種による知識の提供を継続することができた。

地域住民への関りとして、もの忘れ外来ニュースを継続して発行することができた。認知症に関連した情報や多職種によるさまざまな知識を提供することで、認知症の早期発見や予防に役立てることができたが、もの忘れ外来が休診となってしまったため十分な相談やサポートをすることができなかった。

認知症カフェは継続して行い、月1回開催できた。多職種にて市民向けの講義や脳トレ、講師を招き体操などを行うことができた。認知症者だけでなく介護家族も参加を継続でき、憩いの場所として提供することができた。

### 【今後の課題と展望】

認知症ケア加算について、スケールを使用し加算対象者を正しく評価していくことや入院早期に介入ができるよう働きかけていく。身体拘束をしない・不必要な身体拘束は解除する看護が展開できるよう助言を行いアセスメント能力が向上するよう働きかけていく。身体拘束を行わない看護や認知症を正しく理解できるような勉強会を定期的で開催し、いつでも相談ができるシステムを構築し知識・対応力が向上できるようにしていく。認知症カフェは継続し地域住民や外来受診者が気軽に立ち寄り相談できる居場所づくりや介護家族の拠り所として、地域包括支援センターとも連携しながら認知症の方が安心して住み慣れた地域で生活することができるように多職種で関わっていく。

編集委員名

鈴木	幸久
石月	亜由美
堀口	瑞穂
加藤	知佐
勝又	智恵子
海野	優子
中村	洋介
藤井	尚冴
高橋	壮太郎
石井	孝茂

2023年度 年報

発行 令和6年8月